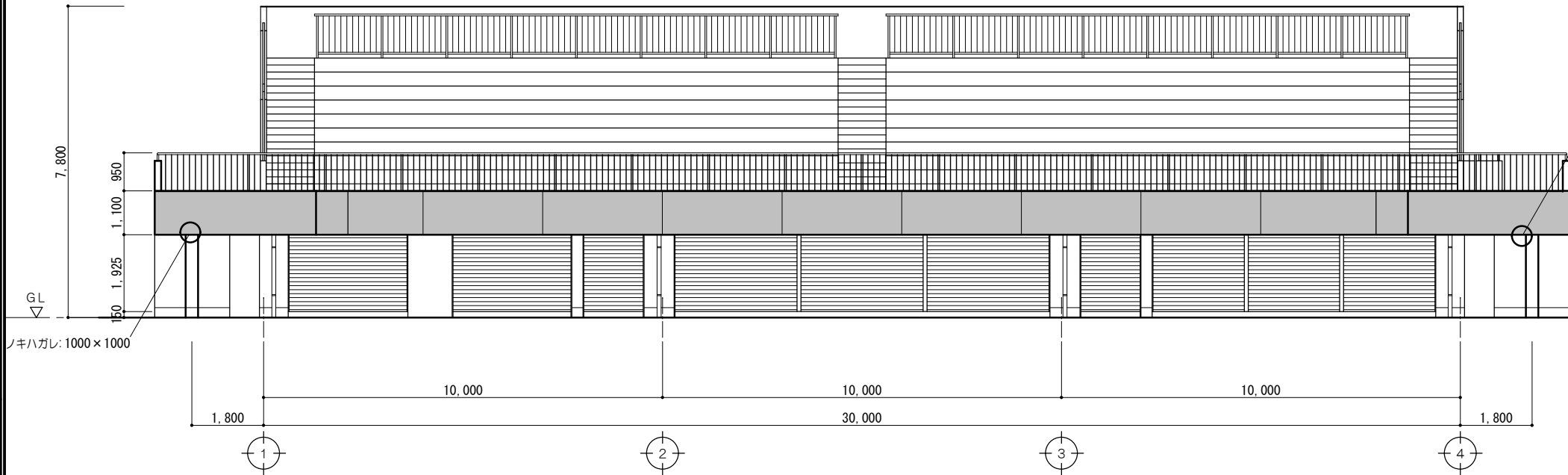


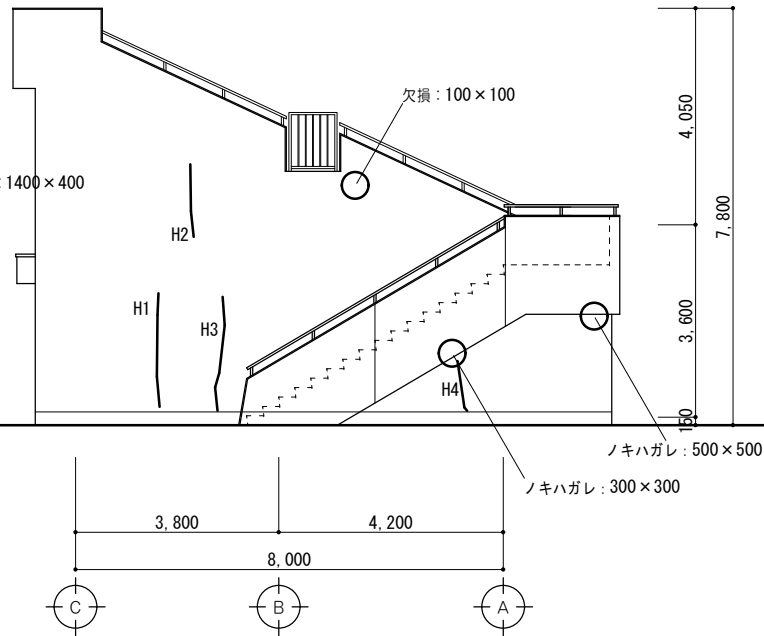
浮き【補修方法】 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法				
番号	縦(m)	横(m)	面積(m <sup>2</sup> )	面積(m <sup>2</sup> )
U1	0.20	0.20		0.04
U2	0.30	0.30		0.09
U3	0.20	0.20		0.04
合計				0.17

クラック【補修方法】 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法：0.2mm以上、1.0mm以下 Uカットシール材充填工法：1.0mm超											
番号	幅1.0mm以下	幅1.0mm超	番号	幅1.0mm以下	幅1.0mm超	番号	幅1.0mm以下	幅1.0mm超	番号	幅1.0mm以下	幅1.0mm超
H1	2.00		H9	1.50		H17	0.80		H25	0.60	
H2	1.20		H10	1.25		H18	1.20		H26	0.80	
H3	2.00		H11	1.00		H19	0.80		H27	0.80	
H4	1.20		H12	0.80		H20	0.80		H28	2.50	
H5	1.50		H13	1.00		H21	0.80				
H6	1.50		H14	2.00		H22	0.30				
H7	1.50		H15	2.00		H23	0.60				
H8	1.50		H16	0.60		H24	0.60				
合計										33.15	

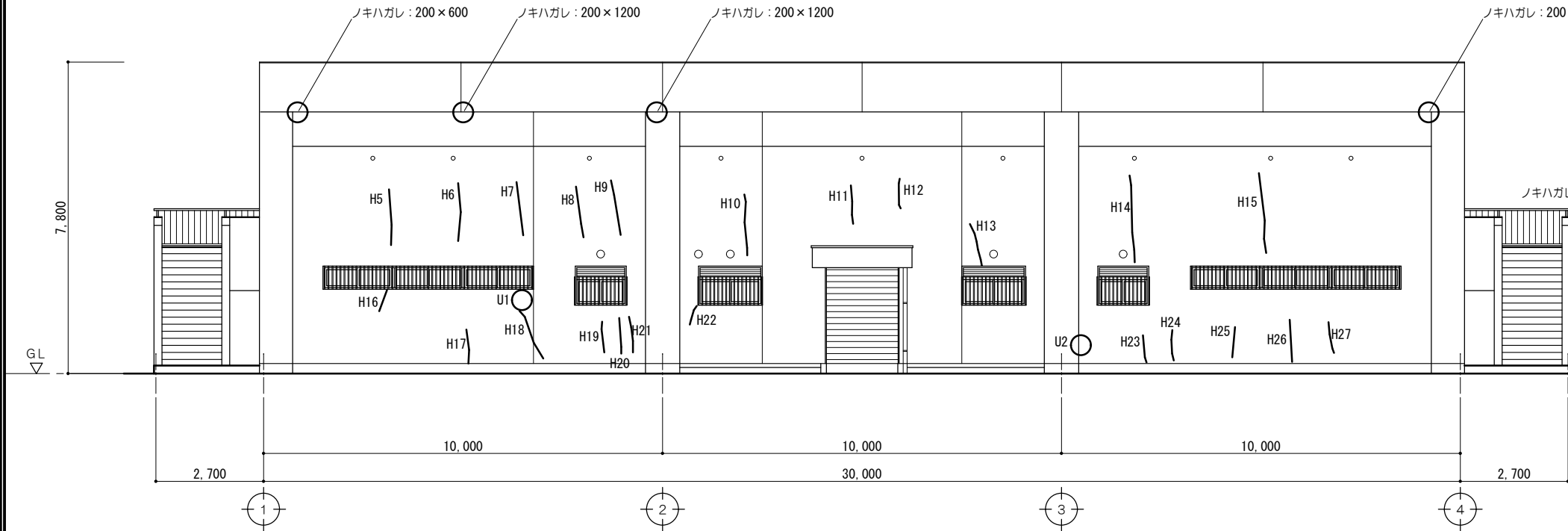
改修前



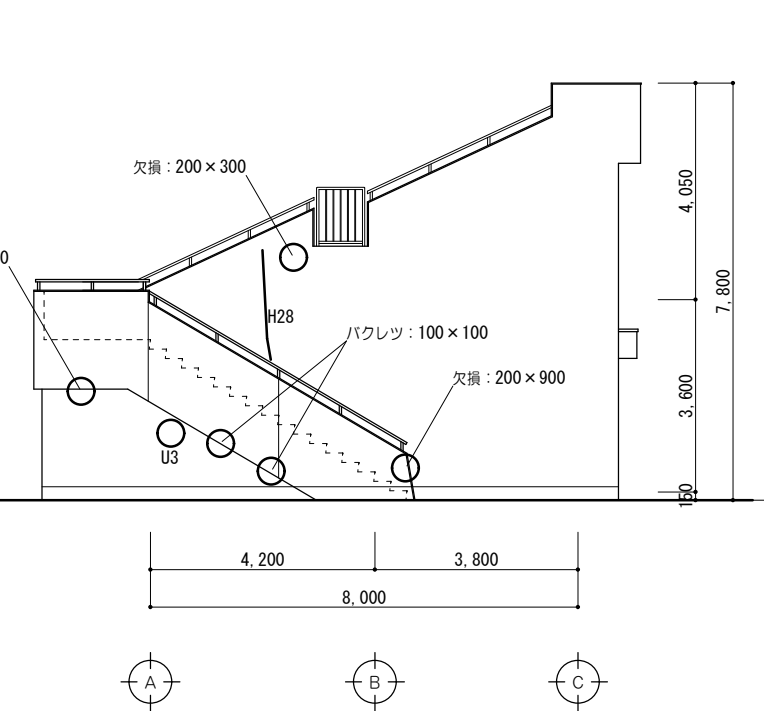
東面立面図 1/100



南面立面図 1/100

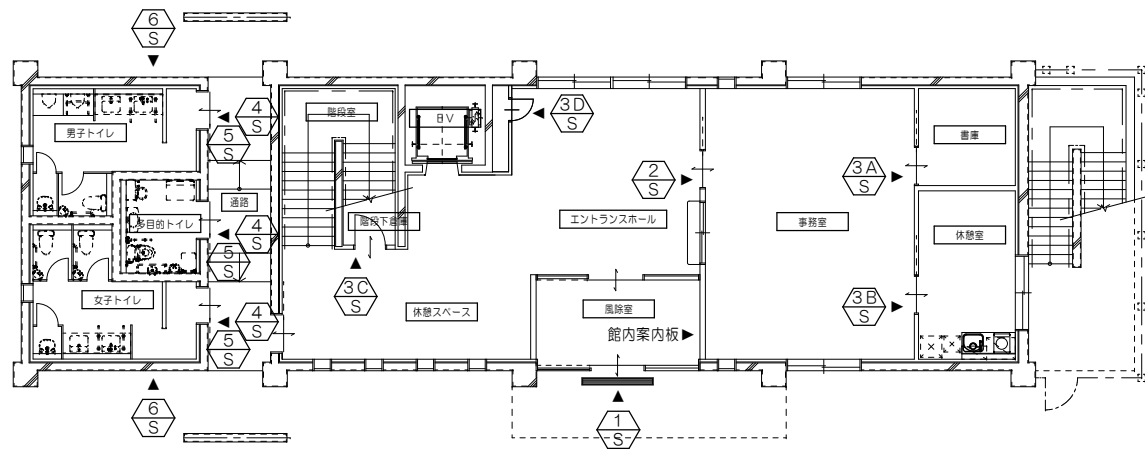


西面立面図 1/100

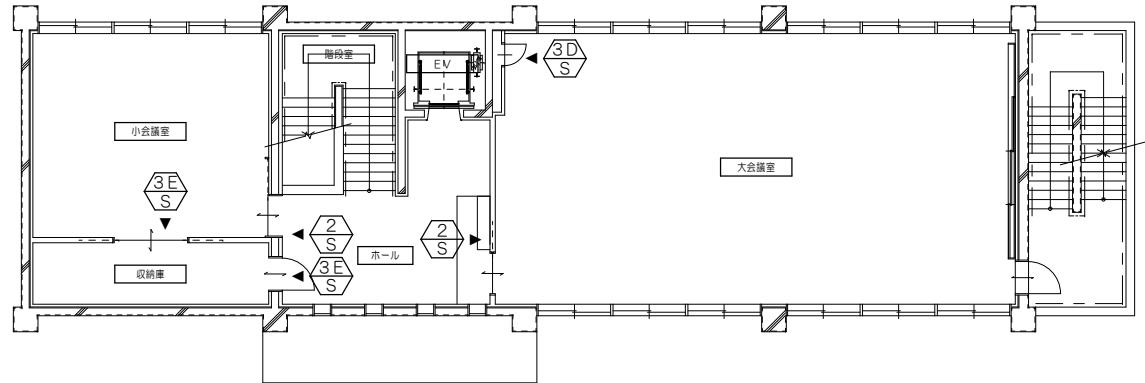


北面立面図 1/100

特 記 事 項		<div><div>一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号</div><div><div>株式 会社</div><div>前野建築設計</div></div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div>	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早妃	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	法適合確認	<div>作図 加藤 早妃 監図 前野 将輝 三橋 五百子</div>	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事	設計日
図面名称 【のスタンド棟】改修前 立面図										縮 尺 A2:1/100 A3:1/141	図面番号 A123 (原図:A2)



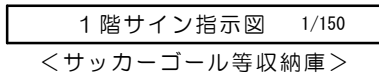
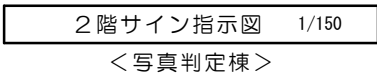
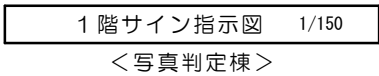
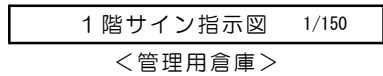
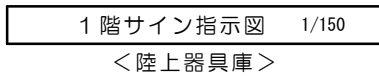
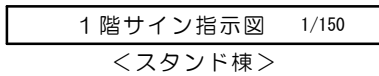
1 階サイン指示図 1/150  
＜管理棟＞



2 階サイン指示図 1/150  
＜管理棟＞

【 共通 】 サイン 詳細 図 No. 1

1 S 館名サイン 詳細図 1/30	2 S 室名札（平付） 詳細図 1/10	3 S 内部ドアサイン 詳細図 1/5	4 S 外部ドアサイン 詳細図 1/50																																												
<p>※取付面：コンクリート打放シ+吹付仕上 ※SUS箱文字（パイプレーション仕上）取付下地材共 ※文字書体（UD デジタル 教科書体 N） ※取付位置は監督員と協議の上決定すること</p>	<p>※本 体：アクリルマット板A3 ※表 示：カッティングシート張</p> <table border="1"><thead><tr><th>室名</th><th>か所</th></tr></thead><tbody><tr><td>事務室</td><td>1</td></tr><tr><td>小会議室</td><td>1</td></tr><tr><td>大会議室</td><td>1</td></tr></tbody></table>	室名	か所	事務室	1	小会議室	1	大会議室	1	<p>※取付面：ドア化粧鋼板 ※表 示：カッティングシート張 ※文字書体（HG丸ゴシックM-PRO）</p> <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>室名</th><th>か所</th></tr></thead><tbody><tr><td>3A</td><td>書庫</td><td>1</td></tr><tr><td>3B</td><td>休憩室</td><td>1</td></tr><tr><td>3C</td><td>階段下倉庫</td><td>1</td></tr><tr><td>3D</td><td>P.S</td><td>2</td></tr><tr><td>3E</td><td>収納庫</td><td>2</td></tr></tbody></table>	記号	室名	か所	3A	書庫	1	3B	休憩室	1	3C	階段下倉庫	1	3D	P.S	2	3E	収納庫	2	<p>※取付面：アルミ ※表 示：屋外用カッティングシート張 ※デザインの詳細は監督員と相談の上決定すること</p> <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>室名</th><th>か所</th></tr></thead><tbody><tr><td>3A</td><td>書庫</td><td>1</td></tr><tr><td>3B</td><td>休憩室</td><td>1</td></tr><tr><td>3C</td><td>階段下倉庫</td><td>1</td></tr><tr><td>3D</td><td>P.S</td><td>2</td></tr><tr><td>3E</td><td>収納庫</td><td>2</td></tr></tbody></table>	記号	室名	か所	3A	書庫	1	3B	休憩室	1	3C	階段下倉庫	1	3D	P.S	2	3E	収納庫	2
室名	か所																																														
事務室	1																																														
小会議室	1																																														
大会議室	1																																														
記号	室名	か所																																													
3A	書庫	1																																													
3B	休憩室	1																																													
3C	階段下倉庫	1																																													
3D	P.S	2																																													
3E	収納庫	2																																													
記号	室名	か所																																													
3A	書庫	1																																													
3B	休憩室	1																																													
3C	階段下倉庫	1																																													
3D	P.S	2																																													
3E	収納庫	2																																													
5 S ピクトサイン（突出） 詳細図 1/10	6 S トイレサイン 詳細図 1/10	館内案内板 詳細図 1/20																																													
<p>※基 材：SUS A0.5 ベース：アルミ形材 ※表 示：屋外用カッティングシート張 ※JIS Z 8210に準拠すること</p> <table border="1"><thead><tr><th>室名</th><th>か所</th></tr></thead><tbody><tr><td>男子トイレ</td><td>1</td></tr><tr><td>女子トイレ</td><td>1</td></tr><tr><td>多目的トイレ</td><td>1</td></tr></tbody></table>	室名	か所	男子トイレ	1	女子トイレ	1	多目的トイレ	1	<p>※取付面：コンクリート打放シ+吹付仕上 ※SUS切文字（焼付塗装）取付下地材共 ※取付位置は監督員と協議の上決定すること</p>	<p>※表示：インクジェット印刷 ※表示基板：ガラス調アクリル板A8（脱着式）</p> <table border="1"><thead><tr><th>階</th><th>室名</th><th>か所</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>風除室</td><td>1</td></tr></tbody></table>		階	室名	か所	1	風除室	1																														
室名	か所																																														
男子トイレ	1																																														
女子トイレ	1																																														
多目的トイレ	1																																														
階	室名	か所																																													
1	風除室	1																																													



特 記 事 項	 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号 <b>株式会社 前野建築設計</b> 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝			代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早妃	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	法適合確認	作図   工事名称 <b>海浜公園内陸上競技場改修工事</b>	設計日
										縮尺 A2:1/150, 5.10 A3:1/212, 7.14	図面番号 <b>A125</b> (原図:A2)
										図面名称 <b>【共通】 サイン詳細図No.2</b>	

5

S

館名サイン 詳細図

1/30

6

S

外部サイン詳細図

1/100、1/30

※取付面：金属系角波サイディングαO. 5張 タテ張

※SUS箱文字（ハイレーション仕上）取付下地材共

※文字書体（UD デジタル 教科書体 N）

※取付位置は監督員と協議の上決定すること

600600600600

20

外壁：金属系角波サイディングαO. 5張

器具庫 I

※取付面：スチールシャッター

※表 示：屋外用カッティングシート張

※文字書体（UD デジタル 教科書体 N）

シャッター面カッティングシート張

A

B

立面図 1/100

600

600

A

姿図 1/30

	サイン室名	か所	棟名
<div><div>6A</div><div>S</div></div>	器具庫1	1	（陸上器具庫）
<div><div>6B</div><div>S</div></div>	器具庫2	1	（サッカーゴール等収納庫）

	サイン文字	か所	棟名
<div><div>6A</div><div>S</div></div>	A～D	4	（陸上器具庫）
<div><div>6B</div><div>S</div></div>	A～D	4	（サッカーゴール等収納庫）
<div><div>6C</div><div>S</div></div>	A～F	6	（スタンド棟）

構造特記仕様書

§ 1 一般事項

① 使用材料は原則として JIS 規格品、又は大臣認定品とする。

② 設計図書の優先順位は下記による。  
1) 本特記仕様書  
2) 設計図  
3) 標準図 

鉄筋コンクリート構造配筋標準図

鉄骨工作標準図、溶接基準図

鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図

高強度せん断補強筋施工仕様書

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図

木構造特記仕様書

構造用集成材躯体仕様書

4) 仕様書 (○公共建築協会【84年版】 ・ 日本建築家協会【2018年版】)

5) 日本建築学会標準仕様書、 JASS5、 JASS6

各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。

構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。  
第三者機関による検査・試験費用は工事費に ( ) 含む ( ) 含まない

設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。

梁貫通位置、径、及び箇所数は ( ) 意匠図 ( ) 構造図 ( ) 設備図 ( ) による。

構造計算  
1) 重要度係数 ○ 1.0 (管理棟以外) ○ 1.25 (管理棟) ・ 1.5

2) 計算ルート X方向: ○ ルート1 (管理棟) ○ ルート1-2 (管理棟以外) ・ ルート2 ・ ルート3  
Y方向: ○ ルート1 (管理棟) ○ ルート1-2 (管理棟以外) ・ ルート2 ・ ルート3

§ 2 仮設工事 (別紙による)

§ 3 土工事

1 山留め (・ 撤去 ・ 存置)、根切り  
鋼矢板等の抜き跡の処理 ・ 砂充てん ( )  
埋戻し土、盛土、残土処分  
1) 埋戻し土 ・ A種 ○ B種 ・ C種 ・ D種 (良質土とは原則として、粘土分の少ない砂質土とする)  
2) 盛土 ・ A種 ○ B種 ・ C種 ・ D種 (良質土とは原則として、粘土分の少ない砂質土とする)  
3) 残土処分 ・ 場内堆均し ○ 場外搬出処分 (・ 自由 ○ 指定場所 (津市阿奈町上野建設発生土処分場) ・ 処分地未定 ( ) )

§ 4 地盤工事

① 杭打地業共通事項  
1) [・ 杭長決定用先行杭 ・ 試験機 ○ 試験杭] ○ 行う ( 2箇所 ) ・ 行わない  
2) 載荷試験 鉛直方向 ・ 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する ) ○ 行わない  
報告書 ・ 提出部数 ( 2部 ) ・ 記載事項 ( )  
水平方向 ・ 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する ) ○ 行わない  
報告書 ・ 提出部数 ( 2部 ) ・ 記載事項 ( )  
3) S.L.散布 ・ 行う ○ 行わない  
4) 杭の水平方向のずれ ・ 100mm ・ 125mm ○ 150mm ・ ( mm) とする場合は伏図による  
※注 上記の値を超える場合は早急に監理者、監督員と協議すること  
5) 杭の底止まり ○ 50mm ・ ( ) mm  
※注 上記の値を超える場合は早急に監理者、監督員と協議すること  
杭頭処理方法 ・ 外圧方式 ・ ダイヤモンドカッター方式 ○ (鋼管杭用カッター)  
6) 杭の底止まり ○ 50mm ・ ( ) mm  
※注 上記の値を超える場合は早急に監理者、監督員と協議すること  
7) 支持地盤 ○ 構造図による  
8) その他  
○ 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。  
国土交通省告示第468号 「基礎くい工事の適正な施工を確保するために課すべき措置」 (平成28年3月4日)  
○ 受注者は、杭の施工期間中は1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監理者または監督員に、工事打合簿を添付した上で提出し確認を受けること。電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監理者または監督員の確認を受けること。取得すべき施工記録が取得できない場合、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記すること。共通仕様書、特記仕様書及びその他基準等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料 (施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリンアウト紙等) は、受注者において全て適切に管理、保管しなければならない。保管期間は契約書の規定による引渡しを受けた日から10年間とする。また、受注者から請求の規定による引渡しを受けた日から10年間とする。また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。  
② 既製コンクリート杭  
1) 杭種 ○ PHC杭 ○ A種 ○ B種 ・ C種 ・  
・ ST杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・  
・ SC杭 1mm ・ 6 ・ 9 ・  
・ PRC杭 ・ I種 ・ II種 ・ III種 ・ IV種  
・ 節付PHC杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・  
○ CPRC杭 ・ I種 ・ II種 ○ III種 ・ IV種  
2) 工法 ・ 打撃工法 ・ 油圧ハンマー ・ ディーゼルハンマー  
・ 埋込み工法 ※オーガー及び杭の支持層への掘削深さは図面による  
・ プレポーリングセメントミルク注入工法 (杭先端掘削) ・ 中掘拡大根固め工法 (認定工法)  
○ プレポーリング根固め工法 (杭先端開放) 【a≧363 (砂質、砂礫)、341 (粘土質)】 (認定番号: TACP-0402) 同等として  
杭周囲固化 ・あり なし (標準仕様書 4.3.4(6) (c) による管理を行う)  
・ 叩き埋設根固め工法 (認定工法) ・ ケムン工法 先端開放 (認定工法)  
3) 杭径、設計耐力表  
杭符号 杭径 mm 支持力 kN 引抜き力 kN 備考  
P1 800 5,000 10,000 終局 短期 終局 管理棟  
P2 700 4,000 8,000 終局 短期 終局 管理棟  
P1 (写真判定棟) 400 1,000 2,000 600 写真判定棟  
P2 (写真判定棟) 400 1,000 2,000 600 写真判定棟  
4) 杭の構成表  
杭符号 第一杭 第二杭 第三杭 第四杭 第五杭 全長 m 本数  
P1 (管理棟) 9a CPHC杭 III種 9a PHC杭 A種 9a PHC杭 A種 10a PHC杭 A種 37a 4本  
P2 (管理棟) 9a CPHC杭 III種 9a PHC杭 A種 9a PHC杭 A種 10a PHC杭 A種 37a 6本  
P1 (写真判定棟) 9a PHC杭 A種 9a PHC杭 A種 9a PHC杭 A種 9a PHC杭 A種 35a 2本  
P2 (写真判定棟) 9a PHC杭 B種 9a PHC杭 A種 9a PHC杭 A種 9a PHC杭 A種 35a 4本

5) 杭頭補強 ・ かご筋 ○ スタッッド溶接 (BCJ審査証明-7) ・ 杭外周溶接 ・ (F.T.P11e同等品以上 (BCJ) 評定-#D0141-04,05))  
6) 杭継手 ・ 溶接継手 ○ 機械式無溶接継手 (建築基準法による認定を受けた工法) (認定番号: BCJ 評定-#D0183-08) 同等として  
7) 杭先端形状 ○ 開放 ・ 閉塞 ・  
8) 施工管理技術者 ○ 適用する ・ 適用しない  
場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭  
1) 工法 ・ アースドリル工法 ・ 拡張アースドリル工法 ・ リバース工法  
・ オールケーシング工法 ( ・ ベノト工法 ・ BH工法 ・  
2) 杭径、設計耐力、本数表 (杭底部は施工係を示す)  
杭符号 杭径 mm 杭種 耐力 kN 引抜き力 kN 全長 m 本数 備考  
長期 短期 終局 短期 終局  
3) 杭先端深さ GL- m  
4) 孔壁変動 (2方向) ・ 行う ( ・ 全数 ・ %) ・ 行わない  
5) 使用材料  
コンクリート Fc ( ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種)  
鉄筋 ・ D16以下 SD295A ・ D19以上 SD345 ・ D32以上 SD390  
鋼管 (リブ付) ・ SKK400 ・ SKK490  
6) かぶり厚さ ・ 100mm ・ 200mm  
7) スラップ ・ 18cm ・ 21cm  
8) 施工管理技術者 ・ 適用する ・ 適用しない  
9) 鋼管部分の材料 ・ ( )  
鋼管杭、その他特殊杭  
1) 杭種 ・ STK400 ・ STK490  
2) 工法 ・ 打撃工法 ( ・ 油圧ハンマー ・ ディーゼルハンマー ) ・ 埋込み工法  
3) 杭径、設計耐力、本数表  
杭符号 杭径 (杭底部) mm 支持力 kN 引抜き力 kN 備考  
長期 短期 終局 短期 終局  
4) 杭の構成表  
杭符号 第一杭 第二杭 第三杭 第四杭 第五杭 全長 m 本数  
長さ 板厚 杭種 長さ 板厚 杭種 長さ 板厚 杭種 長さ 板厚 杭種 長さ 板厚 杭種  
5) 杭頭補強 ・ かご筋 ・ スタッッド溶接 (BCJ審査証明-7) ・ 杭外周溶接 ・ (F.T.P11e同等品以上 (BCJ) 評定-#D0141-04,05))  
6) 杭継手 ・ 現場溶接 ・ 高力ボルト  
7) 杭先端形状 ・ 開放 ・ 閉塞 ・  
8) 施工管理技術者 ・ 適用する ・ 適用しない  
9) 杭頭の処理方法 ・ ガス切断 ・ ( )  
5 基礎及びスラップ下地業 (単位:mm)  
場 所 捨てコンクリート厚さ (1) A: 砕石 B: 断梁石 厚 さ  
基 礎 独立、布、杭 ○50・60・100 ○A・B ○60・100・150  
ベ タ ・50・60・100 ・A・B ・60・100・150  
地 中 梁 ○50・60・100 ○A・B ○60・100・150  
構造スラップ ・50・60・100 ・A・B ・60・100・150  
上層コンクリート 屋 内 ・50・60・100 ・A・B ・60・100・150  
屋 外 ・50・60・100 ○A・B ・60 ○100・150  
※注 (1) アンカーボルト支持層用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。  
(2) 砕石、捨てコンクリート仕上りレベルを計測し、記録すること  
(3) 端部aは100以上とする。  
○砂利の種類 ○ 再生クラッシュラン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石 ・ ( )  
○床下防湿層 (範囲は伏図による) ポリエチレンフィルム厚さ ○ 0.15mm ・ 意匠図による  
防湿層の重ね幅、基礎梁へののみ込み ○ 250mm以上 ・ 意匠図による  
設計耐力 (直接基礎) 長期 90kN/m<sup>2</sup> 短期 135kN/m<sup>2</sup> 終局 kN/m<sup>2</sup>  
地耐力載荷試験 ○ 行う (2箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ・ 行わない  
地耐力試験の方法 ○ 平板載荷試験 ・  
6 地盤改良 (詳細は地盤性状改良工事特記仕様書)  
○ ラップコンクリート地業 ・ 締固め工法 ・ ソイルセメント杭 ・ セメント系固化材挿入  
・ 圧密排水工法 ・ 地盤性状改良 ・ 浅層混合改良工法  
○載荷試験 ○ 一軸圧縮試験] ○ 行う ・ 行わない  
○六価クロム溶出試験 ] ・ 行う ○ 行わない

§ 5 鉄筋工事  
① 材種 (JISG3112)  
種 類 径 継 手 備 考  
○SD295 D16 以下 ○直継手 ・ スパイラル ・ 工場溶接  
○SD345 D19 以上 ・ 直継手 ○溶接継手 ・ 機械継手 ( 級)  
・ SD390 D 以上 ・ 溶接継手 ・ 機械継手 ( 級)  
○溶接金剛 ○直継手 寸法  
○ 100×100  
○ 150×150  
鉄筋の形状  
・ 丸鉄筋  
・ 異形鉄筋 (リブ)  
・ 異形鉄筋 (インデント)  
・ 高強度せん断補強筋 ・ 127.5級 P  
・ 78.5級 K  
・ 68.5級 UD UR ・ 直継手 ・ スパイラル ・ 工場溶接  
② 内法直径  
90° 未満の折曲げの内法直径 ○ S-03 2-8 90度と同様 ・ 図示 (図面番号: )  
③ 継手  
1) 溶接継手 ○ ガス圧接 ・ 突き合せ溶接 (D16以下は重ねアーク溶接でも可)  
2) 継手位置 (一般梁) ○ 配筋標準図による ・ 構造図による ・ 隅り合う継手を同一所に設ける場合 (先組み工法等)  
3) 継手位置 (基礎梁) ○ 配筋標準図4-2-1 ○ 配筋標準図4-2-2 ・ 配筋標準図4-2-3 ・ 構造図による  
・ 隅り合う継手を同一所に設ける場合 (先組み工法等)  
4) 隅合う継手位置 ○ 配筋標準図による ・ 構造図による ・ 隅り合う継手を同一所に設ける場合 (先組み工法等)  
5) 定着 ○ 配筋標準図による ・ 構造図による  
かぶり厚さ、間隔  
1) かぶり厚さ ○ 配筋標準図による (特別な増打が必要な場合構造図による) ・ 構造図による  
増打が10mm以上ある場合は、耐久性上有効な仕上げとみなす。  
② 耐久性上不利な部分 (塩害を受けるおそれのある部分等)  
施工箇所 設計用かぶり厚さに加える寸法  
3) その他  
・ 軽量コンクリートで土に接する部分は、設計用かぶり厚さに10mm加える  
・ 高炉セメントB種を用いる部分は、設計用かぶり厚さに10mm加える  
○ 鉄筋の組立は適切な位置にスベークサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。  
また、鋼製の地中梁受架台、パーサポート、スベークサーは、かぶり厚さ範囲に防錆処理を行ったものとする。  
○ 片持スラブ先端部のスラブ筋用のスベークサーは連続型パーサポートとする。  
4) 間隔 ○ 配筋標準図による ・ 構造図による  
⑤ 梁貫通補強  
1) 工法 ・ 在来工法 ○ 工場製品 (評定品)  
2) 高強度せん断補強筋 ○ 使用する ・ 使用しない  
ガス圧接継手  
1) 自動 ○ 日本鉄筋継手協会認定に認定されたもの  
2) 手動 ○ 日本鉄筋継手協会認定に認定されたもの  
日本鉄筋継手協会認定が JIS Z 3881 の試験に基づき認めた技量資格種別2種以上のもの  
各機械式継手メーカーの、作業資格認定を受けたものが施工し、品質の確認方法、不良品の修正方法は各工法の施工管理基準などを元に定める。  
監理者、監督員の承認を受けること。  
機械式継手  
1) 適用箇所 ・ 図示 ・ ( )  
2) 種類 ・ ( ) 【性能 ( ) 】  
3) 施工完了後の継手部の試験 ・ ( )  
4) 不合格となった継手部への措置 ・ ( )  
5) 鉄筋相互のあき ・ 呼び径の1.5倍以上、粗骨材径の1.25倍かつ25mm以上 ・ ( ) mm  
溶接継手  
1) 適用箇所 ・ 図示 ・ ( )  
2) 種類 ・ ( ) 【性能 ( ) 】  
2) 施工完了後の継手部の試験 ・ ( )  
4) 不合格となった継手部への措置 ・ ( )  
5) 鉄筋相互のあき ・ 呼び径の1.5倍以上、粗骨材径の1.25倍かつ25mm以上 ・ ( )  
⑧ 溶接部の検査 (第三者機関による)  
① 抜取り検査  
・ 引張り試験 (JIS Z 3120) 1検査ロットにつき ・ 3本 ・  
引張試験は原則として、公称強度とする。  
引張試験片を採取した箇所は、同種の鉄筋を圧接して次足す。ただし、D2.5以下の場合は、監理者、監督員の承認を得た上で直継手とすることができ。  
○ 超音波探傷試験 (JIS Z 3062) 1検査ロットにつき ○ 30箇所 ・ 全数  
○ 不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また、残り全数に対して超音波探傷試験を行う。  
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数で200箇所以内  
○ 全数検査 (外観検査)  
異形スタッド標準 ・ 下記以外については § 7 に準ずる  
1) 材料 ・ KSW490 (形状及び機械的性質が鉄筋コンクリート用鋼棒 (JIS G 3112) と同等であり、溶接性が鋼付きスタッド (JIS B 1998) と同等である異形鉄筋スタッド)  
2) 径及び長さ ・ 構造図による  
3) 施工試験 ・ 行う (日本建築学会「溶接作業基準」・同解説 スタッド溶接」による) ・ 行わない  
その他  
○ コンクリート打設後の巻筋は行わない。  
○ 鉄筋の台直しは原則として行わない。やむを得ず台直しを行う場合、鉄筋箇所のコンクリートをはり取り、勾配が1/6以下のできるだけ長い距離で修正する。  
○ コンクリートを2回打ちする部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。  
○ コンクリート打設前に監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。  
○ 鉄筋は JIS G 3112 の規格品を標準とする。  
○ 各部配筋は「鉄筋コンクリート構造配筋標準図」による。

§ 6 コンクリート工事  
① 設計基準強度、スラップ等 (N/mm<sup>2</sup>)  
適用 種類 気乾単位容積質量 (t/m<sup>3</sup>) 設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>) スラップ (cm) セメント 単位水量の上限値 (kg/m<sup>3</sup>) 水セメント比 (%) 試験の有無 適用箇所  
① 24 15 普通 18.5 6.5 ○有 ・ 無 基礎・外構躯体  
② 24 18 普通 18.5 6.5 ○有 ・ 無 躯体・デッキ上  
・ 3 27 15 普通 18.5 6.5 ・有 ・ 無 基礎・外構躯体  
・ 4 27 18 普通 18.5 6.5 ・有 ・ 無 躯体・デッキ上  
⑤ 21 18 普通 18.5 6.5 ○有 ・ 無 押エコン  
⑥ 18 15 普通 18.5 6.5 ○有 ・ 無 土間・外構  
⑦ 18 15 普通 18.5 6.5 ・有 ○無 捨てコン  
・ 8  
・ 9 18 18 普通 18.5 6.5 ・有 ・ 無 押エコン  
・ 10  
・ 11 1. 7 18 18 普通 18.5 6.5 ・有 ・ 無  
・ 12  
凡例 普通: 普通ポルトランドセメント、高炉B: 高炉セメントB種、低熱: 低熱ポルトランドセメント、中熱: 中熱ポルトランドセメント  
注 ① 普通ポルトランドセメント  
② 施工上の理由でスラップ値を変更する場合、監理者、監督員の承認を得ること。  
③ 上間を仕、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする。  
④ 上表【1~4】の調査管理強度は設計基準強度に下記 § 6 13、及び § 6 14、の構造体強度補正値 (S) を加えた強度とする。  
上表【5、6】の調査管理強度は設計基準強度に構造体強度補正値 (S) を ( ・ 加えた ○ 加えない ) 強度とする。  
⑤ 調査強度は平成30年改正 JASS5 による。  
⑥ 高強度コンクリート及びプレストレストコンクリート工事は別記特記仕様書による。  
⑦ 上表【1~4】のセメント量は270kg/m<sup>3</sup>以上とする。  
上表【5、6】のセメント量は270kg/m<sup>3</sup>以上とする ( ○ する ・ しないでもよい )。  
上表【7】のセメント量は270kg/m<sup>3</sup>以上とし、  
⑧ 上表【1、3、6】は常時土または水に直接接する部分である。  
② 耐久設計基準強度 (躯体) (N/mm<sup>2</sup>)  
計画使用期間の年 短 期 標 準 長 期 超 長 期  
耐久設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>) ・ 18 ○ 24 ・ 30 ・ 36  
③ コンクリートの種別・仕上  
1) 種別 ○ I類 ・ II類 ・  
2) 仕上げ (合板せき板を用いる場合の打仕上げの種別) ・ A種 ○ B種 ・ C種  
3) 仕上の平たんさ ○ a種 ・ b種 ・ c種  
④ 粗骨材  
1) 粗骨材 ○ 砂利 ○ 砕石 ・ 高炉スラグ骨材 ・ 人工軽量骨材 ・ 再生骨材 ・ 特別な骨材 ( )  
2) 最大径 (mm) ○ 20 ○ 25 ・ 40  
3) アルカリシリカ反応性による区分 ○ A ・ B (なお、Aで規制できない場合はBとし、標準仕様書[6.3.1]による対策を講じる)  
⑤ 混和材 ○ AE減水剤 ・ 高性能AE減水剤 (呼び強度33以上) ・ 躯体防水材 ・ 膨脹材  
⑥ 打継 位置 ○ 標準仕様書[6.6.4] (1) ・ 図示 ( )  
⑦ 養生期間  
普通ポセメント使用の場合 ○ 標準仕様書[表6.7.1]  
・ ( )  
⑧ 試験 強度試験 ○ 行う ・ 行わない  
コンクリートの強度試験の試験回数は、下記による。  
20m<sup>2</sup> 以下の場合は試験については、監督員または監理者の指示による。  
20~40m<sup>2</sup> の場合は任意の1車より試験を採取し、各3個供試体を作成する。  
40m<sup>2</sup> 以上は 標準[6.9.3] による。  
土間コンクリート等の躯体ではないコンクリートの試験方法は監督員または監理者の指示による。  
調査管理強度試験用の供試体は3回の試験で行い1回の試験は1台の運搬車から採取した資料で同時に3個の供試体を作成する。  
調査管理強度の判定は 標準[6.9.4] による。  
強度試験は公的機関にて行い、各供試体の養生方法は以下の通りとする。  
無筋コンクリートの場合は構造体コンクリート強度試験を省略することができる。  
コンクリートの種類 寒中コンクリート以外のコンクリート  
試験の目的 調査管理強度用 型枠取外し時期の決定用 構造体コンクリート強度用  
養生方法 標準養生 現場水中養生または現場封かん養生 標準養生または現場水中養生 現場封かん養生  
材 齢 28日 必要に応じて定める 28日 28日を超過し91日以内  
コンクリートの種類 寒中コンクリート  
試験の目的 調査管理強度用 型枠取外し時期の決定用 初期養生の打ち切り時期の決定用 構造体コンクリート強度用  
養生方法 標準養生 現場封かん養生 (建築物の内側において行う) 現場封かん養生 (建築物の内側において行う) 現場封かん養生 (建築物の内側において行う)  
材 齢 28日 必要に応じて定める 必要に応じて定める 28日及び28日を超過し91日以内  
※注 (1) 特記な場合、養生方法は監督員または監理者との協議により、変更をすることができる。  
※注 (2) 養生方法は監督員または監理者との協議により、変更をすることができる。  
1) 骨材 [ ○ 塩分含有量 ・ アルカリシリカ反応性 ] ○ 行う ・ 行わない  
2) フレッシュコンクリート [ ○ スラップ ○ 空気量 ・ 単位水量 ○ 温度] ○ 行う ・ 行わない  
3) コンクリートの強度試験 [ ○ 調査管理強度の管理試験用 ・ 型枠取外し時期の決定用 ○ 構造体コンクリートの圧縮強度推定用] ○ 行う ・ 行わない  
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ・ 行う ○ 行わない  
5) マスコンクリートのひび割れ照査 (温度応力解析) ・ 行う ・ 行わない  
6) 試し練り ・ 行う ○ 行わない ・ 行う (マスコンクリート)  
9 マスコンクリート 適用箇所は梁伏図、軸組図による  
マスコンクリートの計画に際しては、セメントの水和熱による温度上昇で有害なひび割れが発生しないように、打設時の温度解析等に基づき、セメントの種類、配合、影響計画、打設計画、養生計画を行い、監理者、監督員の承認を得ること。  
1) セメントの種類 ・ 中熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種  
・ フライアッシュセメントB種 ・ 普通ポルトランドセメント  
2) スラップ ・ 15cm ・ ( )  
3) 混和剤 ・ 標準仕様書[6.13.2] (b) (1) ・ ( )  
10 流動化コンクリート 適用箇所は梁伏図、軸組図による  
無筋コンクリート 適用箇所は標準仕様書[6.13.2] 及び梁伏図、軸組図による  
(シンダーコンクリート、押エコンクリートには溶接金剛60×100程度の補強を施す)  
1) 設計基準強度 ○ Fc 18 ・ Fc 21  
2) スラップ ○ 15cm ・ ( )  
2) 適用箇所 標準仕様書[6.14.1] (4) ○ (ア) ・ (イ) ○ (ウ) ・ (エ) ・ (オ) ・ (カ) ・ ( )

特記事項

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝

設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子

設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作

設計担当

設計担当

法適合確認

作成 図面 図面 図面

工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事

図面名称 【共通】構造特記仕様書No.1

縮尺 A2: NS A3: NS

図面番号 S001 (原図: A2)

設計日

- ②
- ③
- ④
- ⑤
- 構造体補正強度 (N/mm<sup>2</sup>)  
○ 標準仕様書[表6.3.2]  
・ ( )
- 暑中コンクリート  
構造体補正強度 (N/mm<sup>2</sup>)  
○ 6 (適用期間は三重県生コン協会の指針による)  
・ ( )
- 寒中コンクリート  
適用期間及び構造体補正強度  
○ 6 (適用期間は三重県生コン協会の指針による)  
・ ( )
- 型枠
- 1) 材料  
○ 複合板 (厚み (mm)  
○ 12  
・ ( )  
・ ( )
- 2) 打増厚さ (mm)  
仕上面  
○ 20  
・ 25  
・ 30  
・ ( )  
その他  
○ 各伏図、軸組図による  
・ デッキプレートのかかりしろとなる部分 10mm
- 3) 誘発目地、打継目地、化粧目地の位置、形状、及び寸法  
○ 意匠図  
・ 構造図
- 4) フラットデッキ  
・ 使用する  
○ 使用しない
- 5) スリーブの材質  
○ 鋼管  
○ 硬質ポリ塩化ビニル管  
・ 溶融亜鉛めっき鋼板  
・ つば付き鋼管  
○ 紙チューブ  
・ ( )  
【スリーブに紙チューブを使用した場合、型枠取外し後に取除く】
- 5) スリーブの規格等  
○ 標準仕様書[表6.8.1]  
・ ( )
- 6) 普通エコメント使用の場合の型枠最小貯置期間及び取外し  
・ ( )
- 7) その他  
・ 断熱材の使用  
・ MCR工法用シート

⑥

せき板及び支柱の在置期間 (普通ポルトランドセメントの場合)				
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下	
コンクリートの 材齢による 場合	15℃以上	3 日	1 7 日	2 8 日
	5℃以上	5 日	2 5 日	
	0℃以上	8 日	2 8 日	
圧縮試験による場合	5 N/mm <sup>2</sup>	0. 85 F c または 12 N/mm <sup>2</sup>	設計強度	

コンクリート打込中及び打込後5日間はコンクリート温度が2度を下回らないようにし、かつ、乾燥、振動等によってコンクリートの凝固及び硬化が妨げられないように発生すること

- ⑦
- 耐震スリット
- 1) 既成品の使用  
○ 有 (大臣認定品)  
・ 無
- 2) 耐火性能  
○ 有  
・ 無
- 3) 形状、設置箇所  
○ 構造図による  
・

①

②

鉄骨工事									
製作工場、施工管理技術者									
1) 鉄骨製作工場 国土交通省大臣認定 (グレード) ・ S ・ H ・ M ○ R ・ J									
2) 施工管理技術者 ○ 適用する ・ 適用しない									
3) 床書き原寸図 ・ 作成する ○ 作成しない									
材種及び使用箇所									
規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通し ダイア	内ダイア	梁	斜材	間柱	隅 隅 母 指	
一般構造用圧延鋼材 ( J I S G 3 1 0 1 )	○ S S 4 0 0 ・				○	○		○	
溶接構造用圧延鋼材 ( J I S G 3 1 0 6 )	・ S M 4 0 0 A ・ S M 4 9 0 A								
建築構造用圧延鋼材 ( J I S G 3 1 3 6 )	・ S N 4 0 0 A ・								
	○ S N 4 0 0 B ・ S N 4 9 0 B				○				
	・ S N 4 0 0 C ○ S N 4 9 0 C		○						
一般構造用角形鋼管 ( J I S G 3 4 6 6 )	○ S T K R 4 0 0 ・ S T K R 4 9 0						○	○	
冷間成形角形鋼管 ( M S T L - 0 1 4 1 * )	○ B C R 2 9 5 ・	○							
	・ B C P 2 3 5 ・ B C P 3 2 5								
熱間成形角形鋼管 ( M S T L - 0 0 5 1 * )	・ S H C 4 0 0 B ・ S H C 4 0 0 C								
	・ S H C 4 9 0 B ・ S H C 4 9 0 C								
一般構造用炭素鋼管 ( J I S G 3 4 4 4 )	・ S T K 4 0 0 ・ S T K 4 9 0								
一般構造用軽量形鋼 ( J I S G 3 3 5 0 )	○ S S C 4 0 0 ・				○			○	

※注 (1) 同等品とする。  
(2) 形状、寸法は構造図による。  
(3) 特記なき場合、G H、T H、S H は柱、梁、ブレース等と同等以上の工材を使用する。

J I S G 0 9 0 1 による、板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験を ・ 行う ・ 行わない

③

高力ボルト (ボルトの径、縁端距離、間隔、ゲージは構造図による)		使 用 箇 所	
高力ボルトの種類			
トルシア形高力ボルト ( J S S I I - 0 9 )	・ S 1 0 T	全般	
J I S 形高力ボルト ( J I S B 1 1 8 6 )	・ F 1 0 T	トルシア形が使用できない部分	
溶融亜鉛メッキ形高力ボルト (大臣認定品)	○ F 8 T	母材が亜鉛メッキされている部分	

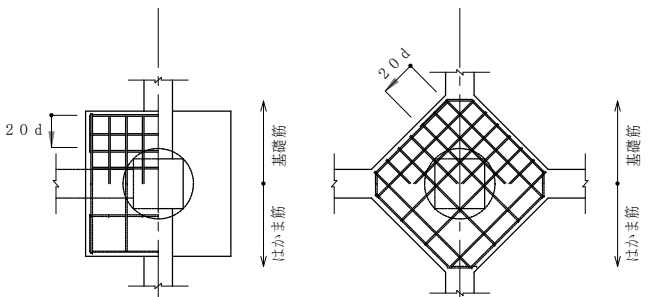
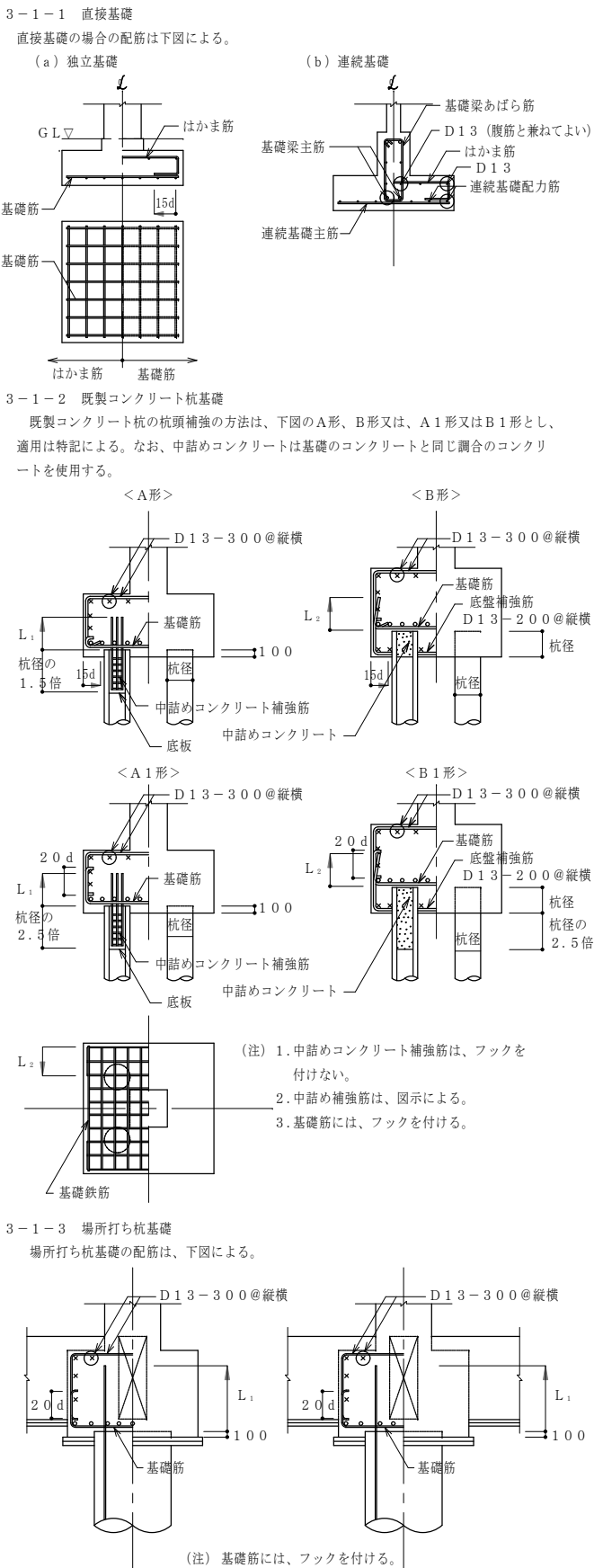
- ④
- ⑤
- 1) すべり耐力等の確認方法  
○ 行わない ・ 行う  
試験方法等 ・
- 2) J I S 形、ナット回転法かつボルト長がねじの呼びの5倍を超える場合  
○ 標仕7. 4. 7 (7) による
- 3) 溶融亜鉛メッキ形高力ボルトを使用箇所の摩擦面の処理  
○ プラスト処理 (表面粗度50 μ m R z 以上) ○ リン酸塩処理

- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪
- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮
- ⑯
- ⑰
- ⑱
- ⑲
- ⑳
- ㉑
- ㉒
- ㉓
- ㉔
- ㉕
- ㉖
- ㉗
- ㉘
- ㉙
- ㉚
- ㉛
- ㉜
- ㉝
- ㉞
- ㉟
- ㊱
- ㊲
- ㊳
- ㊴
- ㊵
- ㊶
- ㊷
- ㊸
- ㊹
- ㊺
- ㊻
- ㊼
- ㊽
- ㊾
- ㊿
- ㏀
- ㏁
- ㏂
- ㏃
- ㏄
- ㏅
- ㏆
- ㏇
- ㏈
- ㏉
- ㏊
- ㏋
- ㏌
- ㏍
- ㏎
- ㏏
- ㏐
- ㏑
- ㏒
- ㏓
- ㏔
- ㏕
- ㏖
- ㏗
- ㏘
- ㏙
- ㏚
- ㏛
- ㏜
- ㏝
- ㏞
- ㏟
- ㏠
- ㏡
- ㏢
- ㏣
- ㏤
- ㏥
- ㏦
- ㏧
- ㏨
- ㏩
- ㏪
- ㏫
- ㏬
- ㏭
- ㏮
- ㏯
- ㏰
- ㏱
- ㏲
- ㏳
- ㏴
- ㏵
- ㏶
- ㏷
- ㏸
- ㏹
- ㏺
- ㏻
- ㏼
- ㏽
- ㏾
- ㏿
- 㐀
- 㐁
- 㐂
- 㐃
- 㐄
- 㐅
- 㐆
- 㐇
- 㐈
- 㐉
- 㐊
- 㐋
- 㐌
- 㐍
- 㐎
- 㐏
- 㐐
- 㐑
- 㐒
- 㐓
- 㐔
- 㐕
- 㐖
- 㐗
- 㐘
- 㐙
- 㐚
- 㐛
- 㐜
- 㐝
- 㐞
- 㐟
- 㐠
- 㐡
- 㐢
- 㐣
- 㐤
- 㐥
- 㐦
- 㐧
- 㐨
- 㐩
- 㐪
- 㐫
- 㐬
- 㐭
- 㐮
- 㐯
- 㐰
- 㐱
- 㐲
- 㐳
- 㐴
- 㐵
- 㐶
- 㐷
- 㐸
- 㐹
- 㐺
- 㐻
- 㐼
- 㐽
- 㐾
- 㐿
- 㑀
- 㑁
- 㑂
- 㑃
- 㑄
- 㑅
- 㑆
- 㑇
- 㑈
- 㑉
- 㑊
- 㑋
- 㑌
- 㑍
- 㑎
- 㑏
- 㑐
- 㑑
- 㑒
- 㑓
- 㑔
- 㑕
- 㑖
- 㑗
- 㑘
- 㑙
- 㑚
- 㑛
- 㑜
- 㑝
- 㑞
- 㑟
- 㑠
- 㑡
- 㑢
- 㑣
- 㑤
- 㑥
- 㑦
- 㑧
- 㑨
- 㑩
- 㑪
- 㑫
- 㑬
- 㑭
- 㑮
- 㑯
- 㑰
- 㑱
- 㑲
- 㑳
- 㑴
- 㑵
- 㑶
- 㑷
- 㑸
- 㑹
- 㑺
- 㑻
- 㑼
- 㑽
- 㑾
- 㑿
- 㒀
- 㒁
- 㒂
- 㒃
- 㒄
- 㒅
- 㒆
- 㒇
- 㒈
- 㒉
- 㒊
- 㒋
- 㒌
- 㒍
- 㒎
- 㒏
- 㒐
- 㒑
- 㒒
- 㒓
- 㒔
- 㒕
- 㒖
- 㒗
- 㒘
- 㒙
- 㒚
- 㒛
- 㒜
- 㒝
- 㒞
- 㒟
- 㒠
- 㒡
- 㒢
- 㒣
- 㒤
- 㒥
- 㒦
- 㒧
- 㒨
- 㒩
- 㒪
- 㒫
- 㒬
- 㒭
- 㒮
- 㒯
- 㒰
- 㒱
- 㒲
- 㒳
- 㒴
- 㒵
- 㒶
- 㒷
- 㒸
- 㒹
- 㒺
- 㒻
- 㒼
- 㒽
- 㒾
- 㒿
- 㓀
- 㓁
- 㓂
- 㓃
- 㓄
- 㓅
- 㓆
- 㓇
- 㓈
- 㓉
- 㓊
- 㓋
- 㓌
- 㓍
- 㓎
- 㓏
- 㓐
- 㓑
- 㓒
- 㓓
- 㓔
- 㓕
- 㓖
- 㓗
- 㓘
- 㓙
- 㓚
- 㓛
- 㓜
- 㓝
- 㓞
- 㓟
- 㓠
- 㓡
- 㓢
- 㓣
- 㓤
- 㓥
- 㓦
- 㓧
- 㓨
- 㓩
- 㓪
- 㓫
- 㓬
- 㓭
- 㓮
- 㓯
- 㓰
- 㓱
- 㓲
- 㓳
- 㓴
- 㓵
- 㓶
- 㓷
- 㓸
- 㓹
- 㓺
- 㓻
- 㓼
- 㓽
- 㓾
- 㓿
- 㔀
- 㔁
- 㔂
- 㔃
- 㔄
- 㔅
- 㔆
- 㔇
- 㔈
- 㔉
- 㔊
- 㔋
- 㔌
- 㔍
- 㔎
- 㔏
- 㔐
- 㔑
- 㔒
- 㔓
- 㔔
- 㔕
- 㔖
- 㔗
- 㔘
- 㔙
- 㔚
- 㔛
- 㔜
- 㔝
- 㔞
- 㔟
- 㔠
- 㔡
- 㔢
- 㔣
- 㔤
- 㔥
- 㔦
- 㔧
- 㔨
- 㔩
- 㔪
- 㔫
- 㔬
- 㔭
- 㔮
- 㔯
- 㔰
- 㔱
- 㔲
- 㔳
- 㔴
- 㔵
- 㔶
- 㔷
- 㔸
- 㔹
- 㔺
- 㔻
- 㔼
- 㔽
- 㔾
- 㔿
- 㕀
- 㕁
- 㕂
- 㕃
- 㕄
- 㕅
- 㕆
- 㕇
- 㕈
- 㕉
- 㕊
- 㕋
- 㕌
- 㕍
- 㕎
- 㕏
- 㕐
- 㕑
- 㕒
- 㕓
- 㕔
- 㕕
- 㕖
- 㕗
- 㕘
- 㕙
- 㕚
- 㕛
- 㕜
- 㕝
- 㕞
- 㕟
- 㕠
- 㕡
- 㕢
- 㕣
- 㕤
- 㕥
- 㕦
- 㕧
- 㕨
- 㕩
- 㕪
- 㕫
- 㕬
- 㕭
- 㕮
- 㕯
- 㕰
- 㕱
- 㕲
- 㕳
- 㕴
- 㕵
- 㕶
- 㕷
- 㕸
- 㕹
- 㕺
- 㕻
- 㕼
- 㕽
- 㕾
- 㕿
- 㖀
- 㖁
- 㖂
- 㖃
- 㖄
- 㖅
- 㖆
- 㖇
- 㖈
- 㖉
- 㖊
- 㖋
- 㖌
- 㖍
- 㖎
- 㖏
- 㖐
- 㖑
- 㖒
- 㖓
- 㖔
- 㖕
- 㖖
- 㖗
- 㖘
- 㖙
- 㖚
- 㖛
- 㖜
- 㖝
- 㖞
- 㖟
- 㖠
- 㖡
- 㖢
- 㖣
- 㖤
- 㖥
- 㖦
- 㖧
- 㖨
- 㖩
- 㖪
- 㖫
- 㖬
- 㖭
- 㖮
- 㖯
- 㖰
- 㖱
- 㖲
- 㖳
- 㖴
- 㖵
- 㖶
- 㖷
- 㖸
- 㖹
- 㖺
- 㖻
- 㖼
- 㖽
- 㖾
- 㖿
- 㗀
- 㗁
- 㗂
- 㗃
- 㗄
- 㗅
- 㗆
- 㗇
- 㗈
- 㗉
- 㗊
- 㗋
- 㗌
- 㗍
- 㗎
- 㗏
- 㗐
- 㗑
- 㗒
- 㗓
- 㗔
- 㗕
- 㗖
- 㗗
- 㗘
- 㗙
- 㗚
- 㗛
- 㗜
- 㗝
- 㗞
- 㗟
- 㗠
- 㗡
- 㗢
- 㗣
- 㗤
- 㗥
- 㗦
- 㗧
- 㗨
- 㗩
- 㗪
- 㗫
- 㗬
- 㗭
- 㗮
- 㗯
- 㗰
- 㗱
- 㗲
- 㗳
- 㗴
- 㗵
- 㗶
- 㗷
- 㗸
- 㗹
- 㗺
- 㗻
- 㗼
- 㗽
- 㗾
- 㗿
- 㘀
- 㘁
- 㘂
- 㘃
- 㘄
- 㘅
- 㘆
- 㘇
- 㘈
- 㘉
- 㘊
- 㘋
- 㘌
- 㘍
- 㘎
- 㘏
- 㘐
- 㘑
- 㘒
- 㘓
- 㘔
- 㘕
- 㘖
- 㘗
- 㘘
- 㘙
- 㘚
- 㘛
- 㘜
- 㘝
- 㘞
- 㘟
- 㘠
- 㘡
- 㘢
- 㘣
- 㘤
- 㘥
- 㘦
- 㘧
- 㘨
- 㘩
- 㘪
- 㘫
- 㘬
- 㘭
- 㘮
- 㘯
- 㘰
- 㘱
- 㘲
- 㘳
- 㘴
- 㘵
- 㘶
- 㘷
- 㘸
- 㘹
- 㘺
- 㘻
- 㘼
- 㘽
- 㘾
- 㘿
- 㙀
- 㙁
- 㙂
- 㙃
- 㙄
- 㙅
- 㙆
- 㙇
- 㙈
- 㙉
- 㙊
- 㙋
- 㙌
- 㙍
- 㙎
- 㙏
- 㙐
- 㙑
- 㙒
- 㙓
- 㙔
- 㙕
- 㙖
- 㙗
- 㙘
- 㙙
- 㙚
- 㙛
- 㙜
- 㙝
- 㙞
- 㙟
- 㙠
- 㙡
- 㙢
- 㙣
- 㙤
- 㙥
- 㙦
- 㙧
- 㙨
- 㙩
- 㙪
- 㙫
- 㙬
- 㙭
- 㙮
- 㙯
- 㙰
- 㙱
- 㙲
- 㙳
- 㙴
- 㙵
- 㙶
- 㙷
- 㙸
- 㙹
- 㙺
- 㙻
- 㙼
- 㙽
- 㙾
- 㙿
- 㚀
- 㚁
- 㚂
- 㚃
- 㚄
- 㚅
- 㚆
- 㚇
- 㚈
- 㚉
- 㚊
- 㚋
- 㚌
- 㚍
- 㚎
- 㚏
- 㚐
- 㚑
- 㚒
- 㚓
- 㚔
- 㚕
- 㚖
- 㚗
- 㚘
- 㚙
- 㚚
- 㚛
- 㚜
- 㚝
- 㚞
- 㚟
- 㚠
- 㚡
- 㚢
- 㚣
- 㚤
- 㚥
- 㚦
- 㚧
- 㚨
- 㚩
- 㚪
- 㚫
- 㚬
- 㚭
- 㚮
- 㚯
- 㚰
- 㚱
- 㚲
- 㚳
- 㚴
- 㚵
- 㚶
- 㚷
- 㚸
- 㚹
- 㚺
- 㚻
- 㚼
- 㚽
- 㚾
- 㚿
- 㜀
- 㜁
- 㜂
- 㜃
- 㜄
- 㜅
- 㜆
- 㜇
- 㜈
- 㜉
- 㜊
- 㜋
- 㜌
- 㜍
- 㜎
- 㜏
- 㜐
- 㜑
- 㜒
- 㜓
- 㜔
- 㜕
- 㜖
- 㜗
- 㜘
- 㜙
- 㜚
- 㜛
- 㜜
- 㜝
- 㜞
- 㜟
- 㜠
- 㜡
- 㜢
- 㜣
- 㜤
- 㜥
- 㜦
- 㜧
- 㜨
- 㜩
- 㜪
- 㜫
- 㜬
- 㜭
- 㜮
- 㜯
- 㜰
- 㜱
- 㜲
- 㜳
- 㜴
- 㜵
- 㜶
- 㜷
- 㜸
- 㜹
- 㜺
- 㜻
- 㜼
- 㜽
- 㜾
- 㜿
- 㝀
- 㝁
- 㝂
- 㝃
- 㝄
- 㝅
- 㝆
- 㝇
- 㝈
- 㝉
- 㝊
- 㝋
- 㝌
- 㝍
- 㝎
- 㝏
- 㝐
- 㝑
- 㝒
- 㝓
- 㝔
- 㝕
- 㝖
- 㝗
- 㝘
- 㝙
- 㝚
- 㝛
- 㝜
- 㝝
- 㝞
- 㝟
- 㝠
- 㝡
- 㝢
- 㝣
- 㝤
- 㝥
- 㝦
- 㝧
- 㝨
- 㝩
- 㝪
- 㝫
- 㝬
- 㝭
- 㝮
- 㝯
- 㝰
- 㝱
- 㝲
- 㝳
- 㝴
- 㝵
- 㝶
- 㝷
- 㝸
- 㝹
- 㝺
- 㝻
- 㝼
- 㝽
- 㝾
- 㝿
- 㞀
- 㞁
- 㞂
- 㞃
- 㞄
- 㞅
- 㞆
- 㞇
- 㞈
- 㞉
- 㞊
- 㞋
- 㞌
- 㞍
- 㞎
- 㞏
- 㞐
- 㞑
- 㞒
- 㞓
- 㞔
- 㞕
- 㞖
- 㞗
- 㞘
- 㞙
- 㞚
- 㞛
- 㞜
- 㞝
- 㞞
- 㞟
- 㞠
- 㞡
- 㞢
- 㞣
- 㞤
- 㞥
- 㞦
- 㞧
- 㞨
- 㞩
- 㞪
- 㞫
- 㞬
- 㞭
- 㞮
- 㞯
- 㞰
- 㞱
- 㞲
- 㞳
- 㞴
- 㞵
- 㞶
- 㞷
- 㞸
- 㞹
- 㞺
- 㞻
- 㞼
- 㞽
- 㞾
- 㞿
- 㟀
- 㟁
- 㟂
- 㟃
- 㟄
- 㟅
- 㟆
- 㟇
- 㟈
- 㟉
- 㟊
- 㟋
- 㟌
- 㟍
- 㟎
- 㟏
- 㟐
- 㟑
- 㟒
- 㟓
- 㟔
- 㟕
- 㟖
- 㟗
- 㟘
- 㟙
- 㟚
- 㟛
- 㟜
- 㟝
- 㟞
- 㟟
- 㟠
- 㟡
- 㟢
- 㟣
- 㟤
- 㟥
- 㟦
- 㟧
- 㟨
- 㟩
- 㟪
- 㟫
- 㟬
- 㟭
- 㟮
- 㟯
- 㟰
- 㟱
- 㟲
- 㟳
- 㟴
- 㟵
- 㟶
- 㟷
- 㟸
- 㟹
- 㟺
- 㟻
- 㟼
- 㟽
- 㟾
- 㟿
- 㠀
- 㠁
- 㠂
- 㠃
- 㠄
- 㠅
- 㠆
- 㠇
- 㠈
- 㠉

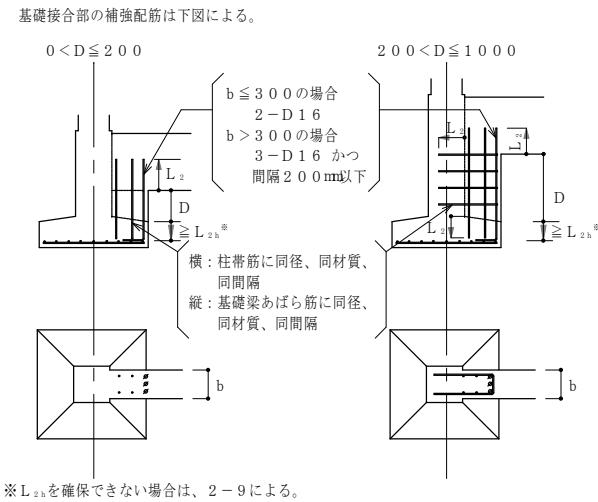


鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No.2

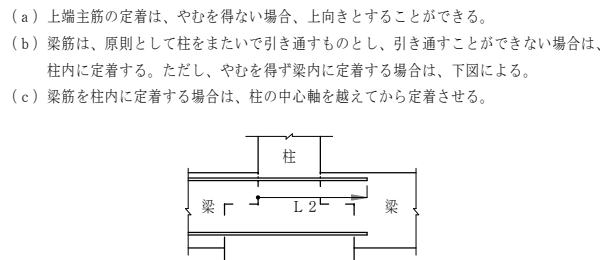
3-1 基礎の配筋及び杭頭補強の方法



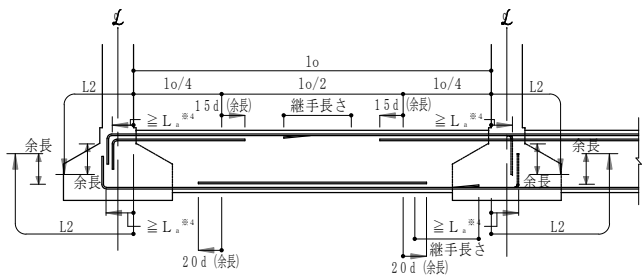
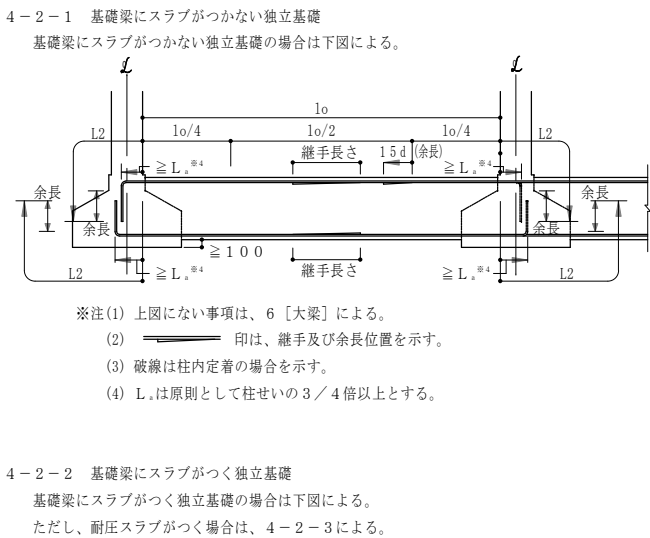
3-2 基礎接合部の補強



4-1 基礎梁主筋の継手及び定着



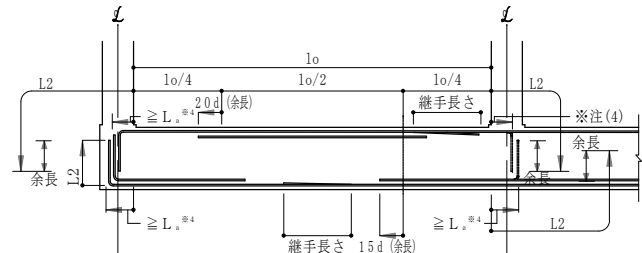
4-2 基礎梁主筋の継手、定着及び余長



- ※注(1) 上図にない事項は、6【大梁】による。  
(2) 印は、継手及び余長位置を示す。  
(3) 破線は柱内定着の場合を示す。  
(4) L<sub>1</sub>は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

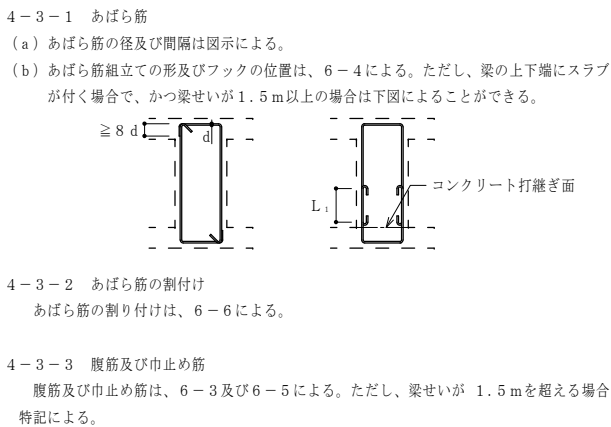
4-2-3 連続基礎及びべた基礎

連続基礎及びべた基礎の場合は下図による。

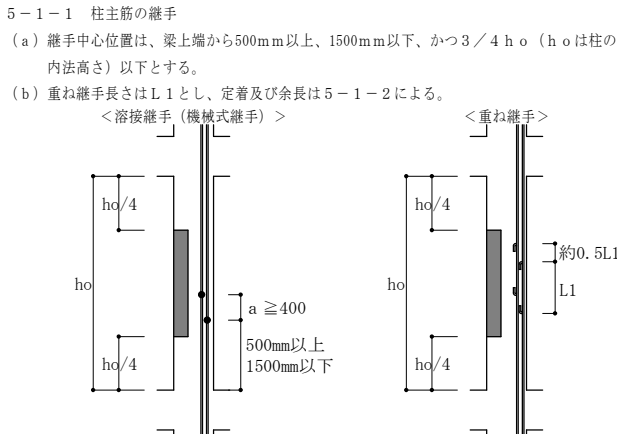


- ※注(1) 上図にない事項は、6【大梁】による。  
(2) 印は、継手及び余長位置を示す。  
(3) 破線は柱内定着の場合を示す。  
(4) L<sub>1</sub>は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

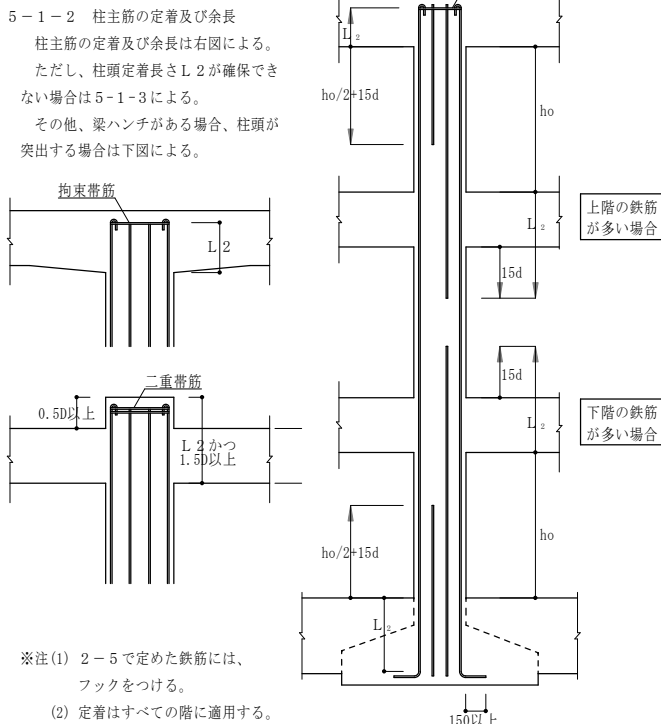
4-3 基礎梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋



5-1 柱主筋の継手、定着及び余長



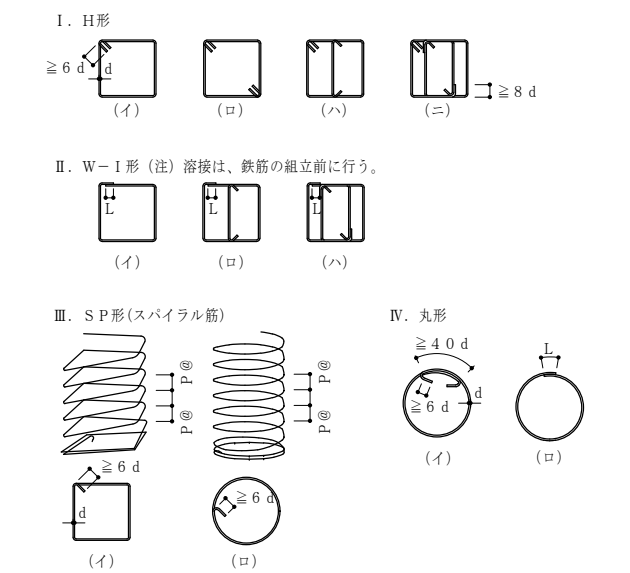
- ※注(1) 印内に継手中心部を設けることを原則とする。  
(2) 2-5で定めた鉄筋には、フックをつける。  
(3) 隣合う継手の位置は2-10による。  
(4) 継手はすべての階に適用する。



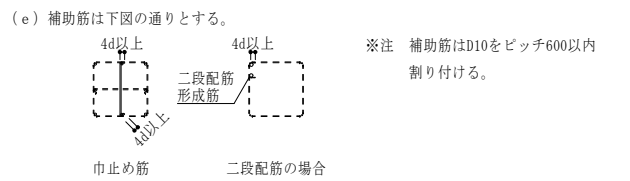
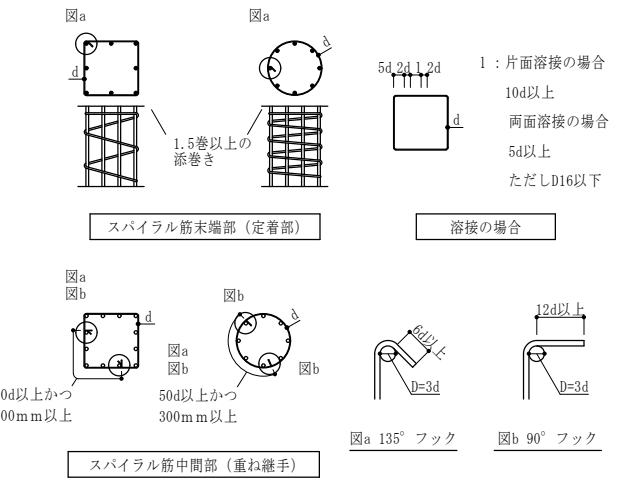
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No.3

5-2 帯筋

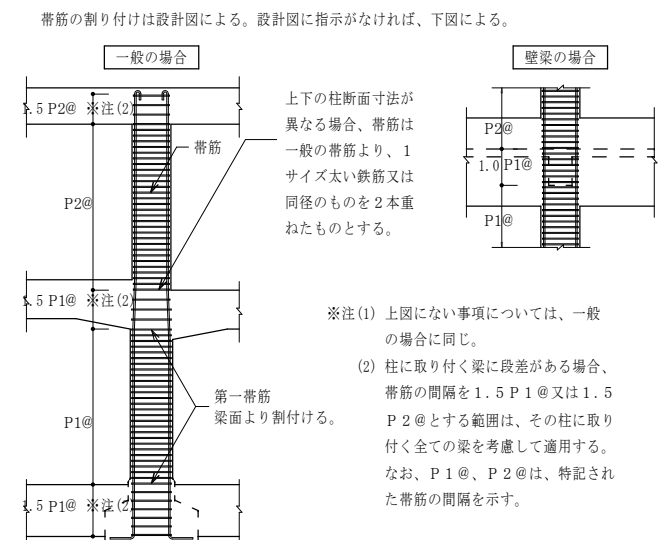
- (a) 帯筋の種類及び間隔は、図示による。  
(b) 帯筋組立ての形は、下図とし、適用は特記による。特記がなければ下記による。  
(1) H形を標準とする。  
(2) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。  
(3) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。フレア溶接要領は2-5〔溶接〕による。



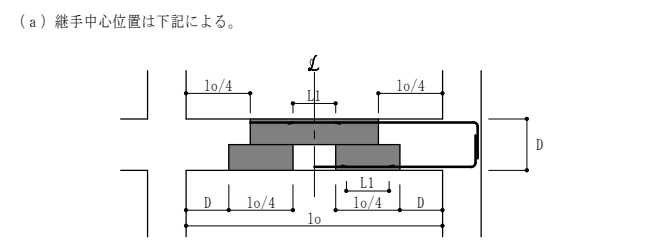
- (c) フック及び継手の位置は、交互とする。  
(d) スパイラル筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。  
(1) 末端は1.5巻以上の添巻をし、図aのフックをつける。  
(2) 重ね継手は重ね長さ50d以上とし、図a又は図bのフックをつける。



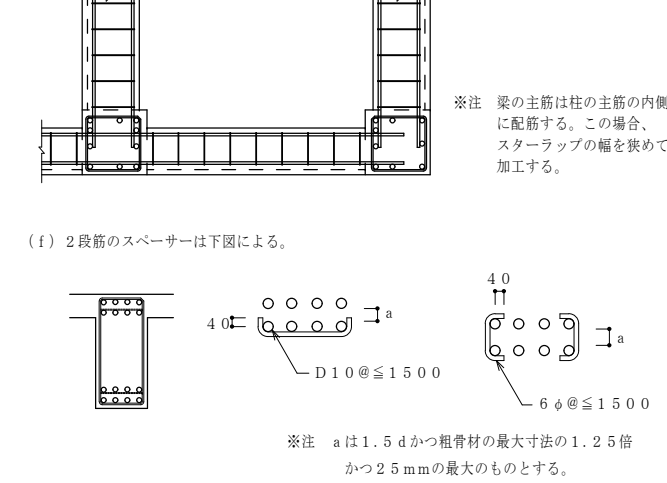
5-3 帯筋の割り付け



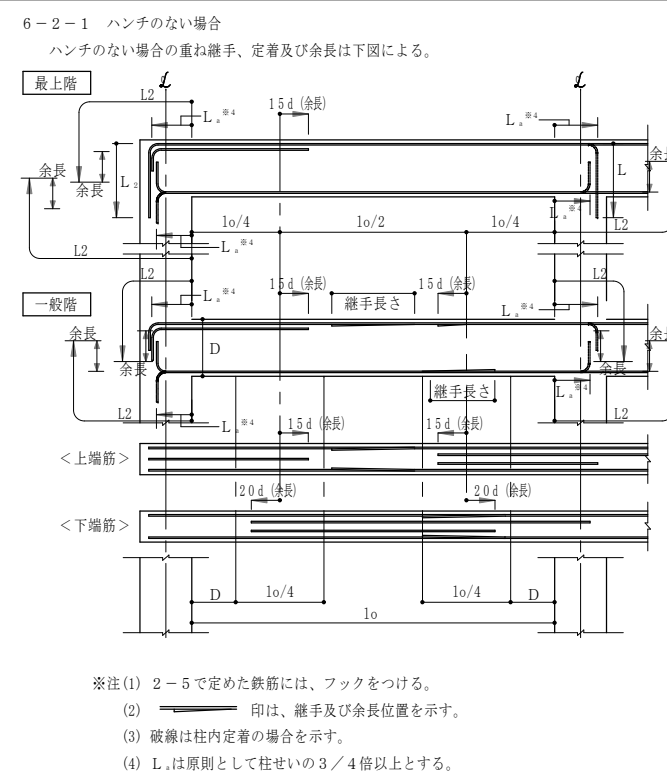
6-1 大梁主筋の継手及び定着 (一般事項)



- (g) 柱と梁側面が同一の場合の配筋は下図による。  
ただし、梁のフカシが発生する場合、フカシ量については設計図による。  
設計図にない場合は、監督職員と協議する。



6-2 大梁筋の継手、定着及び余長

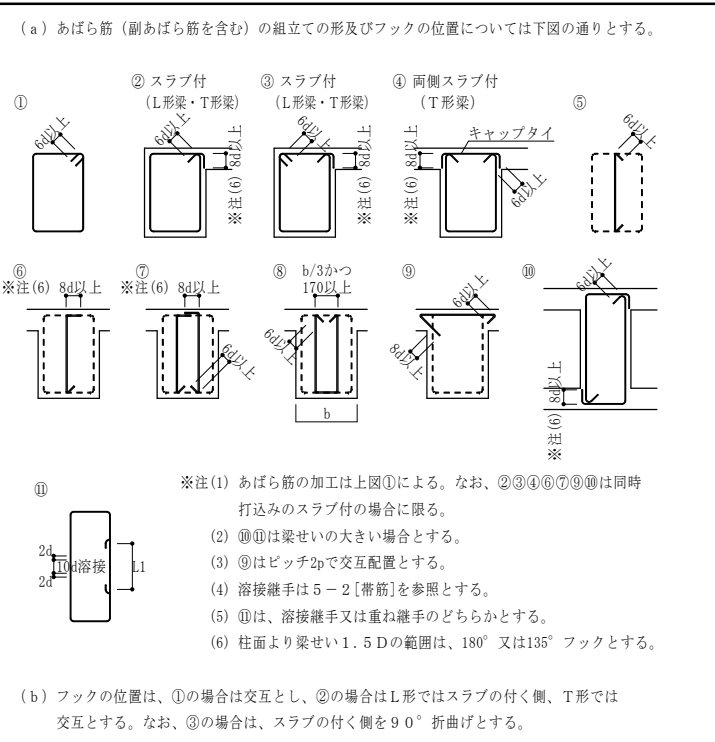


- ※注 (1) 2-5で定めた鉄筋には、フックをつける。  
(2) 印は、継手及び余長位置を示す。  
(3) 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、印のように引き通すことができる。  
(4) Lは原則として柱せいの3/4倍以上とする。  
(5) 破線は柱内定着の場合を示す。

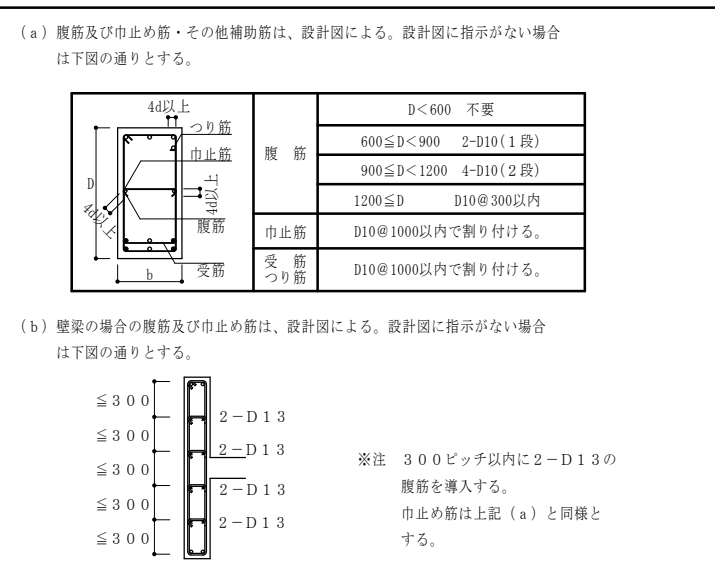
6-3 あばら筋、腹筋及び巾止め筋 (一般事項)


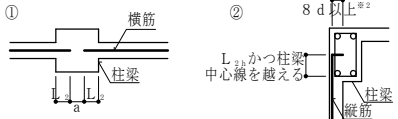
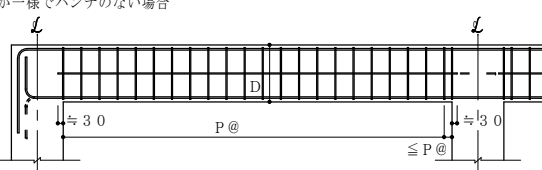
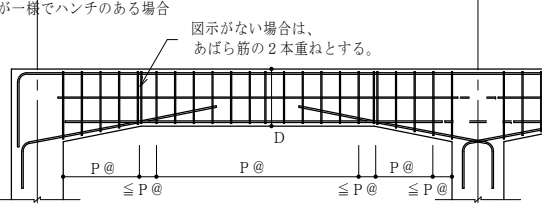
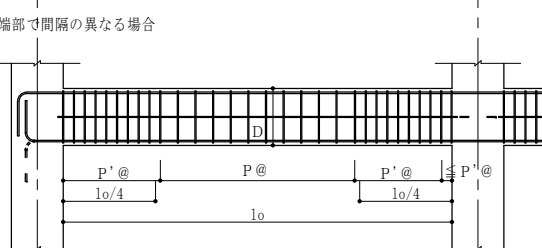
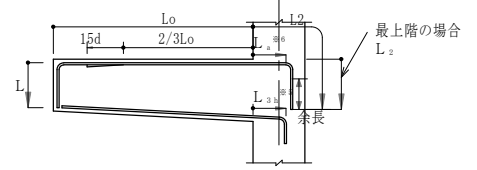

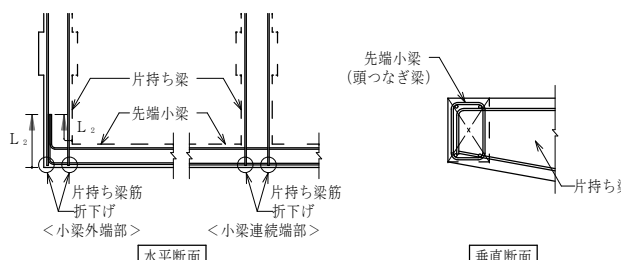
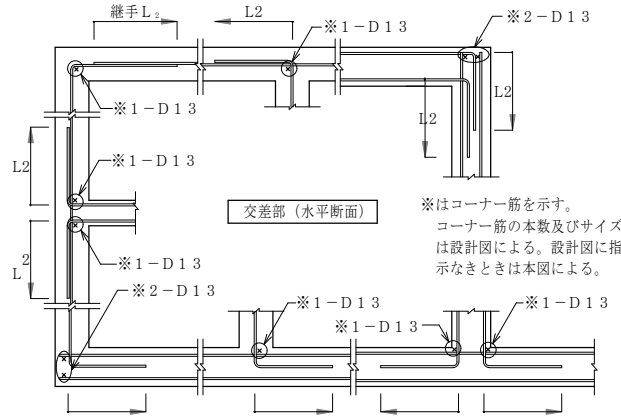
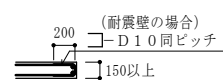
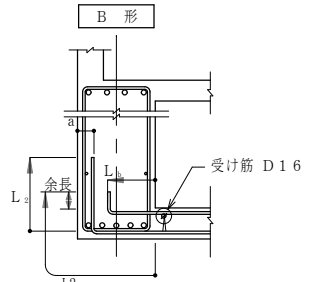
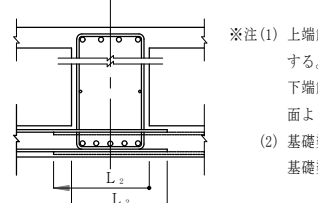
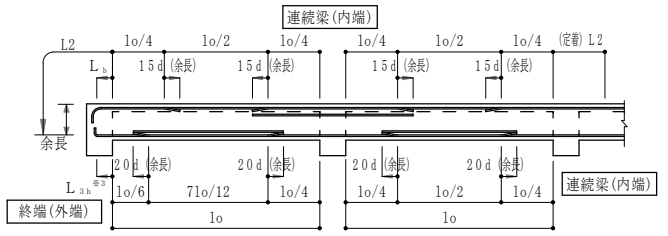

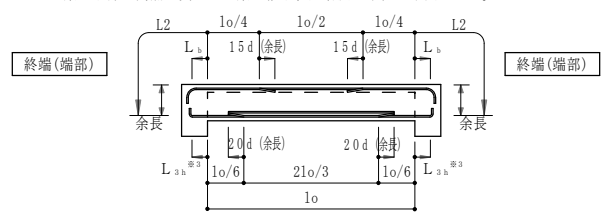
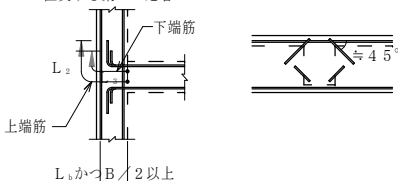
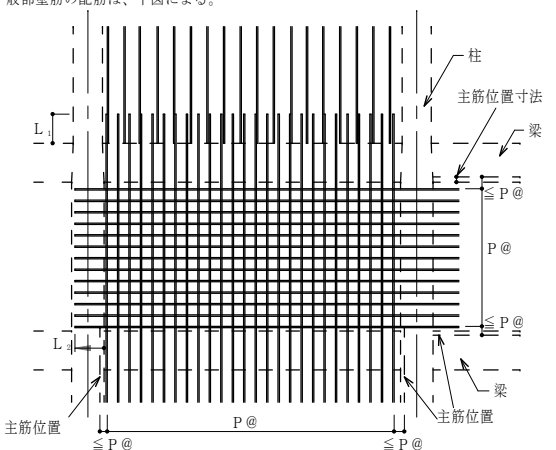
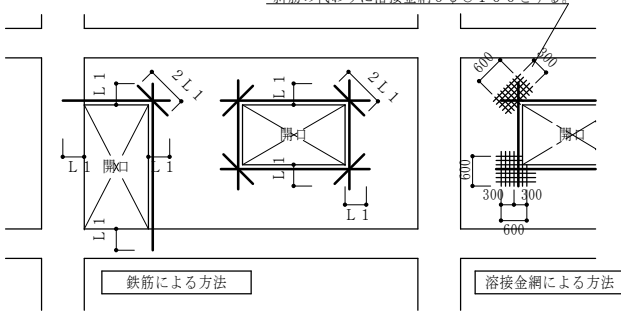
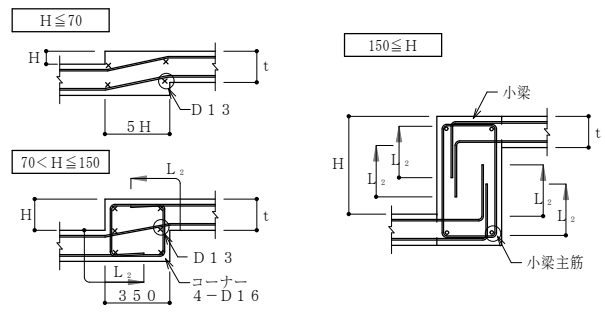
- (a) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。  
(b) 巾止め筋及び受け用巾止め筋は、設計図による。設計図に指示がない場合はD10@1000程度とする。  
(c) 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とする。  
(d) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければL2とする。

6-4 あばら筋の組立ての形及びフックの位置



6-5 補助筋



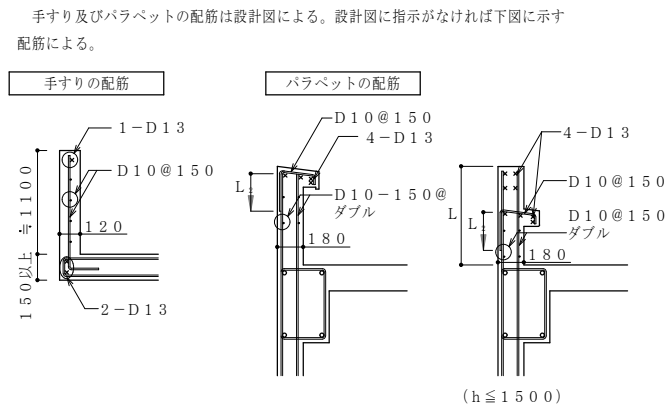
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No. 4	※注(1)  印は、余長位置を示す。 (2) 上図にない事項は、4 [基礎梁] 及び6 [大梁] による。 (3) $L_{sa}$ を確保できない場合は、2-9による。	 ※注(1) a 区間の部分は通し配筋でもよい。 (2) 耐震壁の壁筋を定着する場合は、コア内定着長さを8 dかつ1 5 0 mm 以上とする。 (h) 地下外壁の壁配筋の定着は、下図による。	9-1 スラブの配筋 (一般事項)
6-6 あばら筋の割り付け	7-2 片持ち梁主筋の定着及び余長		
(a) 間隔が一樣でハンチのない場合  (a) 間隔が一樣でハンチのある場合  (c) 梁の端部で間隔の異なる場合  ※注(1) あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 (2) 図中の $P@$ 、 $P'@$ は、図示されたあばら筋の間隔を示す。	7-2-1 先端に小梁のない場合 先端に小梁のない片持ち梁筋の定着及び余長は下図による。  ※注(1) 上図にない事項は、6 [大梁] による。 (2)  印は、余長位置を示す。 (3) 先端の折曲げの長さ $L_1$ は、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。 (4) 最上階は通し配筋として、隣接する梁へ定着する場合は設計図の特記による。その場合、柱頭部に拘束筋を配筋する。 (5) $L_{sa}$ を確保できない場合は、2-9による。 (6) $L_1$ は原則として柱せいの3 / 4 倍以上とする。  7-2-2 先端に小梁のある場合 先端に小梁のある片持ち梁筋の定着は下図による。  ※注(1) 上図にない事項は、前項7-2-1による。 (2) 先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。 (3) 先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。	8-2 壁の交差部および端部の配筋 壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。  ※はコーナー筋を示す。 コーナー筋の本数及びサイズは設計図による。設計図に指示なきときは本図による。 ※注 耐震壁の場合、シングル配筋の場合はフック付とする。 ダブル配筋の場合は、下図による。  1-D13 2-D13 2-D13 4-D13 <一般壁の端部> <外壁の端部>	9-2 耐圧スラブの配筋 9-2-1 最終端  9-2-2 連続端  ※注(1) 上端筋は基礎梁面より定着長さをとるか、引き通し配筋とする。 下端筋は連続して引き通すか、または基礎梁コンクリート面より定着長さをとる。 (2) 基礎梁幅が大きく、左右のスラブ筋の定着長さが十分でも、基礎梁下のスラブ筋の1 / 2 以上は連続させる。
7-1 小梁主筋の継手、定着及び余長 7-1-1 連続小梁の場合 連続する小梁の継手、定着及び余長は下図による。  ※注(1)  印は、余長位置を示す。 (2) 上図にない事項は、4 [基礎梁] 及び6 [大梁] による。 (3) $L_{sa}$ を確保できない場合は、2-9による。  7-1-2 梁の端部で間隔の異なる場合 梁の端部で間隔の異なる小梁の継手、定着及び余長は下図による。  <直交する梁への定着>  $L_1$ かつ $B / 2$ 以上	8-1 壁配筋 (一般事項) (a) 一般部壁筋の配筋は、下図による。  ※注 $P@$ は、図示された壁筋の間隔を示す。 (b) 特記なき場合は壁配筋の重ね継手は $L_1$ 、定着の長さは $L_2$ とする。 (c) 巾止め筋は、縦、横とも $D 10 @ 1000$ 程度とする。 (d) 原則として、柱・梁の中には壁筋の継手は設けない。 (e) 横筋を、1 スパンごとに柱に定着させてもよいが、柱と同一面に壁がある場合には、外側の鉄筋は直線定着長さが確保できる場合でも、先端を $90^\circ$ に折曲げ1 5 0 mm 程度のみこませる。 (f) 柱・梁への壁筋定着詳細については下図①～②による。	8-3 壁開口部の補強 (a) 壁開口部の補強は、設計図による。 (b) 壁開口部の補強の定着長さは、下図による。  (c) 開口部が柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。	9-3 段差のあるスラブの補強 段差のあるスラブの補強は、下図による。 

<div>特記事項</div>	<div> <div> <div>一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号</div> <div> <div>株 会社</div> <div>前野建築設計</div> </div> <div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div> </div> </div>	<div>代表設計者</div> <div>一級建築士 第320204号 前野 将輝</div>	<div>設計担当</div> <div>一級建築士 第307846号 三橋 五百子</div>	<div>設計担当</div> <div>一級建築士 第360917号 前田 祐作</div>	<div>設計担当</div>	<div>設計担当</div>	<div>法適合確認</div>	<div>作図</div> <div>  </div> <div>校閲</div> <div>  </div>	<div>工事名称</div> <div>海浜公園内陸上競技場改修工事</div> <div>図面名称</div> <div>【共通】鉄筋コンクリート構造配筋標準図No. 4</div> <div>縮尺</div> <div>A2: NS A3: NS</div> <div>設計日</div> <div>S006 (原図・A2)</div>
-----------------	--	--	--	---	-----------------	-----------------	------------------	---	---

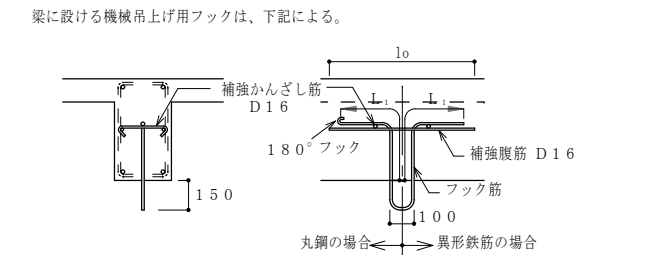
工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事	設計日
図面名称 【共通】鉄筋コンクリート構造配筋標準図No.5	縮尺 A2: NS A3: NS
	図面番号 S007 (原図: A2)

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No. 6

12-1 手すり及びパラペットの配筋



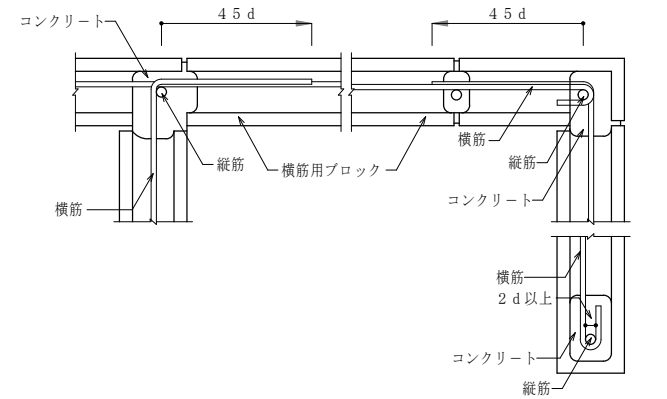
12-2 機械吊上げ用フック



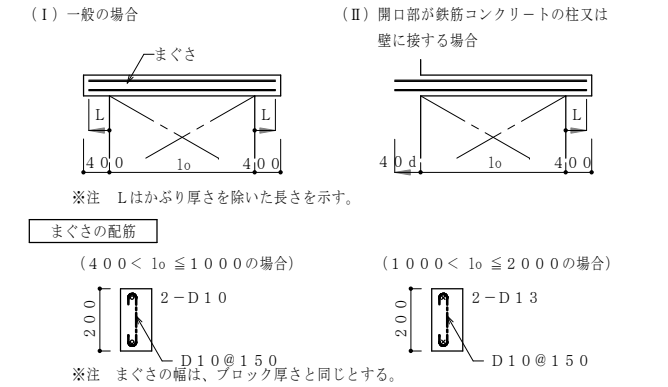
13-1 補強コンクリートブロック造

- 13-1-1 一般事項
- 下記に定める以外の事項は1～12による。
- (a) 壁縦筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、上下端は、臥梁、基礎等に定着する。なお、壁縦筋に継手を設けてはならない。
- (b) 壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。
- (c) 壁鉄筋のかぶり厚さの最小値は、20mmとする。ただし、ブロックフェイスシェルは、かぶり厚さに含まない。
- (d) 壁鉄筋の重ね継手長さは45dとし、定着長さは40dとする。

- 13-1-2 各部の配筋
- (a) 各部の配筋は、設計図による。
- (b) 設計図に指示がなければ交差部、端部（開口部）の配筋は、下図による。



- (c) まぐさは鉄筋コンクリート造とし、配筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ下図による。
- なお、既製まぐさを使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。



14-1 コンクリートブロック帳壁

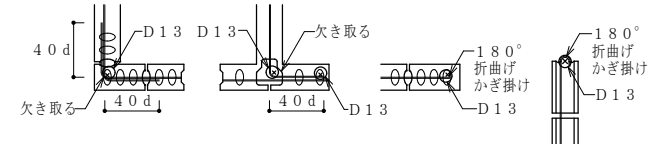
- 14-1-1 一般事項
- (a) 主筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、構造体に定着する。なお、主筋には継手を設けてはならない。ただし、両面5d以上又は片面10d以上のアーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。
- (b) 壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。
- (c) 壁鉄筋の重ね継手長さは40dとし、定着長さは下記による。
- (1) 帳壁配力筋の構造体部分への定着長さは25dとする。ただし、係員の承諾を受けて、あと施工アンカーとすることができる。
- (2) (1)以外の定着長さは40dとする。
- (d) ブロック横みのスパン及び高さは、下記による。

ブロック厚さ	スパン及び高さ
100	2500
150	3500

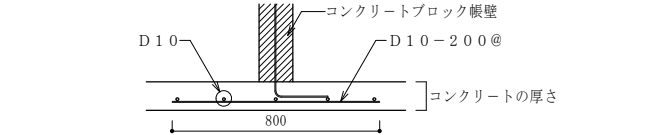
- 14-1-2 各部の配筋
- (a) 壁の配筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ下表による。

<壁の配筋>			
縦筋	横筋	開口補強筋(縦横筋)	端部補強筋
D10@400	D10@400	1-D13	1-D13

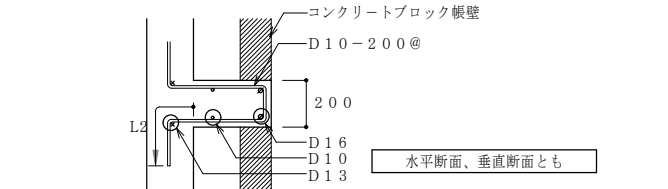
- (b) 帳壁の交差部、端部（開口部）の配筋は、下図による。



- (c) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。

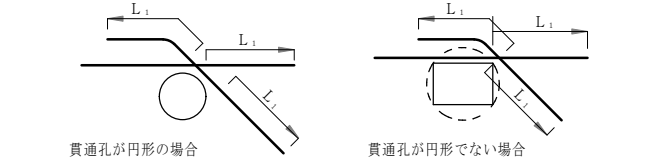


- (d) コンクリートブロック帳壁との取合い
- (1) 控壁の配置は、設計図による。
- (2) 配筋は、下図による。



15-1 梁貫通孔の補強（一般事項）

- (a) 梁貫通孔の補強は下記による。梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。
- H形
- 
- MH形およびM形
- 
- ※注 hは貫通孔外径
- (b) 孔の径は、梁せいりの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
- (c) 孔の上下方向の位置は梁せいりの中心付近とし、梁中央部が端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。
- (d) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せいり) 以上離す。但し、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (e) 孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (g) 補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。



- (h) 孔の径が梁せいりの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略する。
- (i) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (j) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (k) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
- (1) その他、高強度梁貫通補強筋を使用する場合は、大臣認定または日本建築センターの技術審査証明を受けた工法とすること。

15-2 補強の形式と種類

- 補強形式は下表により、配筋種別は設計図（または、右表）による。

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4					
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6					
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H8	4-2-D22				

- ※注 — — は一般部分のあばら筋を示す。

15-2-2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
M1	2-2-D13	なし	なし	
M2	4-2-D13			
M3	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	
M4	6-2-D13			

- ※注 — — は一般部分のあばら筋を示す。

15-2-3 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH2		2-2-D13			
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ@100	13φ	
MH4	4-2-D13				
MH5	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	
MH6	4-2-D16				
MH7	4-2-D19				

15-2-4 補強配筋種別と使用部位・数量

階	梁記号	スリーブ外径	補強配筋種別	スリーブ材質	数量
	※ 使用部位、スリーブ外径、数量は設計図による。				
	補強配筋種別は、大臣認定または日本建築センターを受けた				
	高強度梁貫通補強筋を使用するものとする。				

16 コンクリートブロック帳壁との取合い

- (a) 控壁の配筋
- 控壁の配筋は、水平、垂直とも左下図による。
- 
- コンクリートブロック帳壁
- D10-200@
- D10
- D16
- 800
- コンクリートの厚さ
- (b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強
- 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は右上図による。

# 1 一般事項

1. 本規準図及び設計図書に記載なき事項は、国土交通省大臣官庁官庁官庁官庁監修「公共建築工事標準仕様書と建設大臣官庁官庁官庁官庁（建築工事編）令和4年版」（以下、「共仕」）及び「建築構造設計基準及び同解説/令和3年版」による。  
監修「建築鉄骨設計基準及び同解説平成/昭和版」。
2. 採用法の種類は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルブガスシールドアーク半自動溶接、サブジョイント自動溶接、エレクトロスラッグ溶接及びアークスタンド溶接とする。
3. 部材の板厚の適用範囲は40mm以下とする。
4. 冷間成形角形鋼管による製法、日本建築センター「冷間成形角形鋼管製作・施工マニュアル（改訂版）」（平成30年3月）による。
5. 精度は日本建築学会編「鉄骨工事標準仕様書」JASS9「鉄骨工事」による。

構造特記仕様書による。

3 溶接一般

1. 溶接工程は原則として、「(共注)」に示す試験等による技能を有するものとする。  
工事内容により、溶接技能者に対して溶接不可試験を行う場合は特記による。
2. 隅肉溶接の端部はましろ溶接を行う。ただし、スカップ始端（フィレット部分）のみましろ溶接は行わない。
3. 仮設ビースの取付は、監理者または監督員の承認を得たものとすること。
4. エレクトロslag溶接を行う場合、監督員または監理者の承認を得ること。
5. 冷間成形角形鋼管における溶接材料は、加工後の角形鋼管材の強度と同等の強度になるものを指定する。  
400N/mm<sup>2</sup>級の冷間成形角形鋼管に対しては490N/mm<sup>2</sup>級の溶接材料、490N/mm<sup>2</sup>級の冷間成形角形鋼管に対しては540N/mm<sup>2</sup>級以上の溶接材料を使用する。

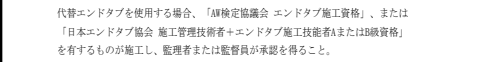
溶接記号の記載方法は、下図による。

(注) 基準線及び引出し線は、溶接記号 (JIS Z 3021-87) に準ずる。

開閉時の受接点の磨損等では、原則として開閉機構と受接点を用いる。エンドタブの材質は、母材と同等の上記のもの、形状は母材と同等・同開閉のものを用い、長さも下表による。ただし、あらゆる溶接部接合に適合しないことが確認された材質及び形状のものを用いる場合はこの限りではない。

① 切断の要否は特に指定しない。切断する場合、見え残るものはエンドタブは、5~10mm 長さで切断し、グラインダー掛けにより、粗さ100μm程度以下及び5°/mm程度以下に仕上げる。見え残る部分は切断のし、部材表面を欠損しないように切断面をグラインダー掛けにより粗さ100μm程度以下及び5°/mm程度以下に仕上げる。

なお、エンドタブの組立ては母材に直接溶接せず、裏面から行う。



完全溶込み溶接を両面溶接とする場合は、裏面側の溶接の前に裏はつりを行う。  
裏はつりは、健全な溶着部分が見れるまではつり取るものとする。  
ただし、サブマージアーク溶接では、溶接施工試験により良好な溶込が確認でき、  
監督員または監理者の承認を得た場合は、裏はつりを省略することができる。

1. 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジ内側に設置し、「15 溶接規程図」による。

裏当て金の組立溶接は、「3.裏当て金の組立溶接位置」による。

2. 裏当て金の厚さ及び隅肉溶接のサイズは、下表により、材質は、原則として、母材と同等以上のものとする。

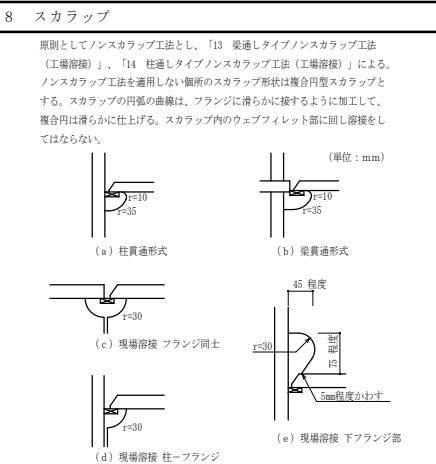
裏当て金の厚さ	(単位 : mm)
溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ

(単位 : mm)	
裏当て金の厚さ	S
t1 ≤ 9	5
t1 > 9	9

溶接のサイズ

(単位 : mm)	
母材の厚さ	G
t2 ≤ 6	t1
t2 > 6	7



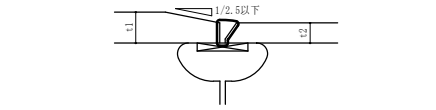
溶接の交差部をスニップカット（Sc）で処理する場合の標準寸法は、鋼材の板厚に応じて下表によるものとし、スニップカット部は溶接により埋めることとする。ただし、既製形鋼のスニップカットは Sc+P2 により求めるものとする。



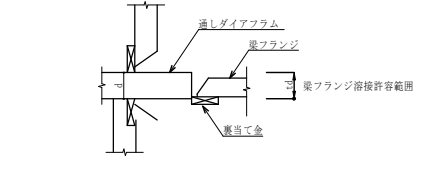
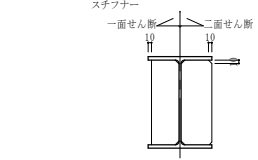
スニップカット

スニップカット		(単位: mm)			
t	6	9	12	16以上	
Sc	10	12	14	15	

ダイヤフラム以外の部位で完全溶込み溶接を行う部分において、板厚の差による段違いが10mmを超える場合は、下図による。



通しダイアフラムと梁フランジの突合せ溶接継手においては、梁フランジは通しダイアフラムの板厚内で溶接しなければならない。

[illegible]

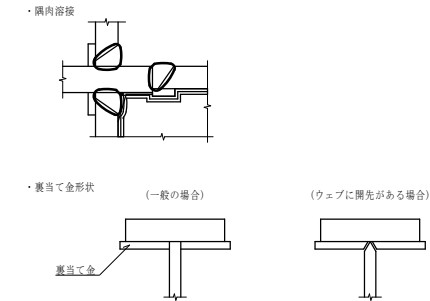
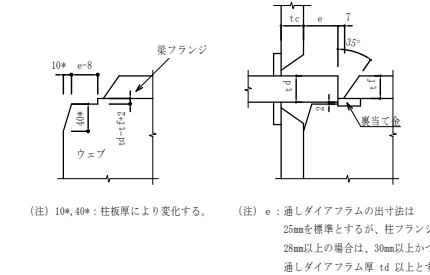
完全溶込み溶接、溝内溶接及びフリア溶接の溶接部は、余盛りを行う。余盛りの高さの限度は、下表による。

T形継手の完全溶込み溶接の溶接部は、ビード表面が滑らかになるよう仕上げる。余盛りは応力集中を避けるため、滑らかに仕上、過大であったりビード表面形状に不整があってはならない。

余盛りの高さの限度		(単位: mm)
溶接継手	溶接工法	余盛りの高さの限度
突合わせ継手	手溶接	3
かど継手	半自動溶接	4
	自動溶接	4
隅肉溶接	手溶接	3
フレア溶接	半自動溶接	3

(1) 裏当て金方式の場合  
(a) 同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合

・BH組立て	・大組立て、裏当て金取付け
--------	---------------



鋼管分岐接続における支管は主幹外径よりも剛性のもを使用し、その開先先端は図による。ただし、自動機械により開先加工を行う場合は、これ以外の形状とすることができる。

鋼管壁厚  $3.2\text{mm} \leq t \leq 12\text{mm}$   
交角  $30^\circ \leq \theta \leq 150^\circ$

The diagram illustrates a pipe branch connection with a main pipe (主管) and a branch pipe (支管). The branch pipe is welded to the main pipe. The drawing includes several cross-sectional views: A-A section (top left) showing the branch pipe at an angle  $\theta$  with dimensions  $50^\circ \sim 60^\circ$  and  $1.5t \sim 2.0t$ ; B-B section (top middle) showing the branch pipe at an angle  $\theta$  with dimensions  $50^\circ \sim 60^\circ$  and  $1.5t \sim 2.0t$ ; C-C section (bottom right) showing the branch pipe at an angle  $\theta$  with dimensions  $0 \sim 3$  and  $1.5t \sim 2.0t$ ; and D-D section (bottom middle) showing the branch pipe at an angle  $\theta$  with dimensions  $1.5t \sim 2.0t$ . The main pipe is labeled 主管 and the branch pipe is labeled 支管. The angle  $\theta$  is indicated between the main and branch pipes. The dimensions  $1.5t \sim 2.0t$  and  $0 \sim 3$  are shown for the branch pipe's thickness and length, respectively.

主管 支管

D-D断面

主管の管軸と支管の管軸は一致させると

A断面

B断面

C断面

(1) 隅肉溶接（平継手、T継手）

両面の場合

片面の場合

・但し片面溶接の場合t2=t1とする。  
 ・t1はt1、t2の小さな方とする。  
 余盛は(1±0.15)mm以下とする。

**片面溶接**

$\theta = 45^\circ$

$L \leq 100$

12mm ≤ L ≤ 40mm										
t	12	16	19	22	25	28	32	36	40	
D	10	11	12	13	14	15	16	15	16	

$\cdot 1/4t \leq S \leq 10$

**両面溶接**

$\theta = 45^\circ$

- $1/4t \leq S \leq 10$
- $D1 \geq (t-2)/2$
- $D2 \geq t/2$

※図面に補強肉内容格を付加する

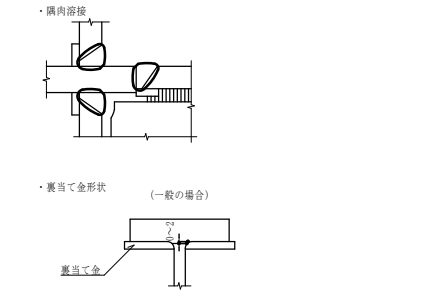
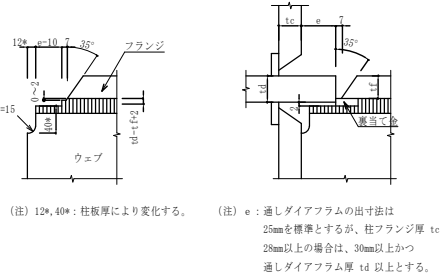
$\theta = 45^\circ$   
 $l \leq 19$

$45^\circ \leq \alpha < 90^\circ$  の場合  
 $\alpha = 45^\circ$  は自然光角  
 $45^\circ < \alpha < 90^\circ$  は  $\theta = 45^\circ$   
 $l / 4t \leq S \leq 10$

※両側に補強鉄肉溶接を付加する

(b) 先組みによる溶接組立てH形断面梁および圧延H形鋼梁の場合

・ 開先加工	・ 大組立て、裏当て金取付け
--------	----------------



1. スタッド溶接はアークスタッド溶接方式による直接溶接とし、下向溶接を原則とする。
2. スタッド溶接材料はJIS B 1198（頭付きスタッド）の規格品とし、適用呼名は13mm、16mm、19mm、22mmとする
3. スタッド溶接はデッキプレート上から行ってはならない。ただし、厚みが1.6mm以下かつ、あらかじめ施工監査で良好な溶接が得られることを確認できた場合はこの限りではない。
4. 梁継手部等でスタッドを打設できない場合、打設できないスタッドと同数をスタッド軸径の1.5倍以上のピッチで継手周囲に増打する。

Figure 1: Details of the connection of the reinforcement bar. The figure consists of three parts: (a) shows a cross-section of a reinforcement bar (FB) with diameter  $\phi$  and length  $L$ , embedded in a concrete slab. The bar is bent at an angle  $\theta = 35^\circ$ . The distance from the end of the bar to the center of the bend is  $L/6$ . The bar is labeled "FB-9×25以上" and "φ6 断続". (b) shows a cross-section of a reinforcement bar (FB) with diameter  $\phi$  and length  $L$ , embedded in a concrete slab. The bar is bent at an angle  $\theta = 35^\circ$ . The distance from the end of the bar to the center of the bend is  $L/6$ . The bar is labeled "FB-9×25以上" and "φ6 断続". (c) shows a cross-section of a reinforcement bar (FB) with diameter  $\phi$  and length  $L$ , embedded in a concrete slab. The bar is bent at an angle  $\theta = 35^\circ$ . The distance from the end of the bar to the center of the bend is  $L/6$ . The bar is labeled "FB-9×25以上" and "φ6 断続".

図 1-10 柱の継手

- ・  $1/4t \leq S \leq 10$
- ・  $D1 \geq t/2$
- ・  $D2 \geq (t+2)/3$

※両側に補強隅肉内接座を付加す

$\theta < 45^\circ$   
 $8 < l < 19\text{mm}$   
 $a > 4\text{mm}$  (平手側で板厚が異なるとき)  
 裏はつり  
 裏はつり後溶接

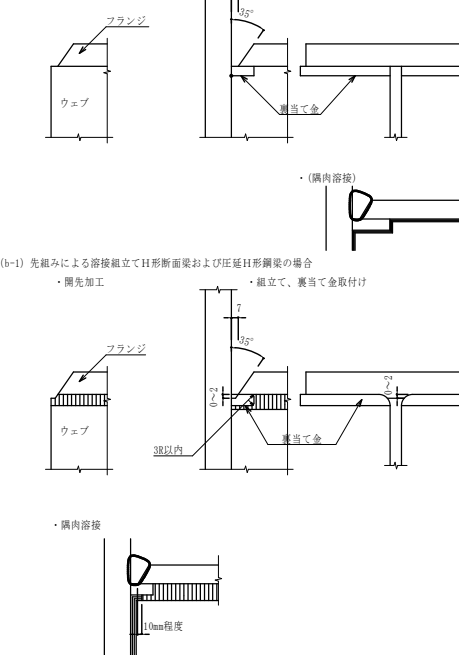
$\theta > 45^\circ$   
 $a > 4\text{mm}$  (平手側で板厚が異なるとき)  
 裏はつり  
 裏はつり後溶接

※両側に補強肉溶接を付加する

(a-1) 同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合

・開先加工                      ・組立て、裏当て金取付け

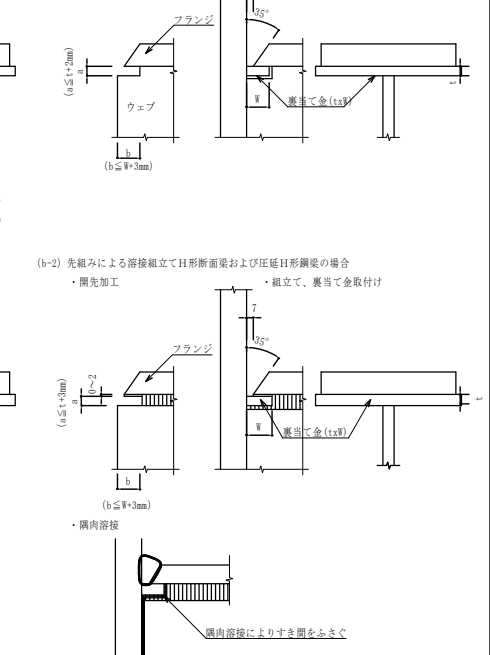
The diagram illustrates the assembly of an H-beam section. It shows two vertical plates being joined by a horizontal plate. The top part of the diagram shows the components before assembly, with labels indicating '開先加工' (bevel processing) on the vertical plates and '組立て、裏当て金取付け' (assembly and backing plate attachment) for the horizontal plate. Below this, a cross-sectional view shows the completed joint where the horizontal plate is welded between the two vertical plates.

[illegible]

⑧

$\phi$	9	13	16	19	22	25
B	7	8	9	10	11	12
S	4	4.5	5	6	7	8

Technical drawing of a crane hook and its attachment to a beam. The hook is labeled '9' and has a flag. The beam is labeled '12'. The hook is attached to the beam via a pin and a bracket. The pin is labeled '12x32'. The bracket is labeled '9<断続'. The beam is labeled '平滑仕上げ' (smooth finish). The hook is labeled 'シーリングビート' (sealing beat). The angle of the hook is labeled ' $\theta = 35^\circ$ '. The distance from the hook to the beam is labeled '1~4'.

[illegible]

特 記 事 項		<div><div><div><div></div></div><div>MAENO</div></div><div>株式会社</div><div>前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div>	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号	代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図 <div><div>印</div><div>計</div></div>	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事	設計日
				一級建築士 第320204号	一級建築士 第307846号	一級建築士 第360917号				縮 尺 A2: NS A3: NS	図面番号 S009 (原図: A2)	
				前野 将輝	三橋 五百子	前田 祐作						

1 一般事項																														
<p>1. 本規準図及び設計図書に記載なき事項は、国土交通省大臣官庁官庁省幹部室修「公共建築工事標準仕様書建設大臣官庁官庁省幹部（建築工事編）令和4年版」（以下、「共仕））及び「建築標準設計基準及び関係設計／令和3年版）による。監修「建築設計基準及び関係設計／令和3年版）による。</p> <p>2. 部材の板厚の適用範囲は40mm以下とする。</p> <p>3. 冷間成形角形鋼管による配管は、日本建築センター「冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル（改訂版）」（平成30年）による。</p> <p>4. 精度は日本建築学会編「鉄骨工事標準仕様書」JASS6「鉄骨工事」による。</p> <p>5. 社内検査の検査成績書は、社内超音波探傷試験の結果を添付する。</p> <p>6. 構造図中、特記のない場合、各部材記号は下表による。</p>																														
記 号	部 材	記 号	部 材																											
DR	ダイアフラム	GR	ガセットプレート																											
SR	スチーフアッププレート	HR	ベースプレート																											
SpR	スチーフアッププレート	HRB	高力ボルト																											
FR	フイヤープレート	AbRt	アンカーボルト																											
CR	チャッカープレート	FR	フラットバー																											
TR	トッププレート																													
7. 板厚についての記載が1サイズ以上は+3mm、2サイズ以上は6mm以上の厚さとする。																														
2 材料及び検査																														
構造特仕仕様書による。																														
3 工作一般																														
<p>1. 鉄骨製作及び施工の要領をまとめた「鉄骨工事施工計画書」を提出し、監理者などの承認を得る。</p> <p>2. ひずみの矯正は、材質を損なわない矯正法とする。</p> <p>3. 加工については、原則として以下の方法とする。</p> <p>A) 切断：自動ガス切断、シャーリングは板厚13mm以下</p> <p>B) 開先加工：自動ガス加工および切削加工</p> <p>○孔あけ：ドリル孔あけ（ガス及びせん断は不可）</p>																														
4 ボルト接合																														
4-1 ボルト接合一般																														
<p>1. 本編に使用するボルトと、包絡めボルトの併用はしてはならない。</p> <p>2. 孔径は高力ボルトの場合は+2mm、中ボルト（普通ボルト）の場合は+1mmとする。</p> <p>3. 高力ボルトの継付長さに加える長さは下表による。</p>																														
<table border="1"> <tr> <th></th><th>M16</th><th>M20</th><th>M22</th><th>M24</th></tr> <tr> <td>JIS形</td><td>30</td><td>35</td><td>40</td><td>45</td></tr> <tr> <td>トルネラ形</td><td>25</td><td>30</td><td>35</td><td>40</td></tr> </table>			M16	M20	M22	M24	JIS形	30	35	40	45	トルネラ形	25	30	35	40														
	M16	M20	M22	M24																										
JIS形	30	35	40	45																										
トルネラ形	25	30	35	40																										
4. 高力ボルトの摩擦面処理、SpRはショットボラスまたはサンドブラスト処理またはリン酸塩処理とし、母材はグラインダーがけとする																														
4-2 縁端距離とボルト間隔																														
<p>縁端距離及びボルト間隔は下表を標準とする。ただし、引張材において、せん断を受けるボルトが応力方向に3本以上並ぶ場合の縁端距離は、ボルトの軸径の2.0倍以上とする。</p>																														
																														
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th><th colspan="2">縁端距離 a</th><th colspan="2">ボルト間隔 p</th></tr> <tr> <th>標準</th><th>最小</th><th>標準</th><th>最小</th></tr> <tr> <td>M16</td><td>40</td><td>30</td><td>60</td><td>40</td></tr> <tr> <td>M20</td><td>40</td><td>35</td><td>60</td><td>50</td></tr> <tr> <td>M22</td><td>40</td><td>40</td><td>60</td><td>55</td></tr> <tr> <td>M24</td><td>45</td><td>45</td><td>70</td><td>60</td></tr> </table>			縁端距離 a		ボルト間隔 p		標準	最小	標準	最小	M16	40	30	60	40	M20	40	35	60	50	M22	40	40	60	55	M24	45	45	70	60
	縁端距離 a		ボルト間隔 p																											
	標準	最小	標準	最小																										
M16	40	30	60	40																										
M20	40	35	60	50																										
M22	40	40	60	55																										
M24	45	45	70	60																										
																														
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">ゲージ g</th><th colspan="2">千鳥打ちの間隔 b</th></tr> <tr> <th>M16, M20, M22</th><th>M24</th></tr> <tr> <td>35</td><td>50</td><td>65</td></tr> <tr> <td>40</td><td>45</td><td>60</td></tr> <tr> <td>45</td><td>40</td><td>55</td></tr> <tr> <td>50</td><td>35</td><td>50</td></tr> <tr> <td>55</td><td>25</td><td>45</td></tr> </table>		ゲージ g	千鳥打ちの間隔 b		M16, M20, M22	M24	35	50	65	40	45	60	45	40	55	50	35	50	55	25	45									
ゲージ g	千鳥打ちの間隔 b																													
	M16, M20, M22	M24																												
35	50	65																												
40	45	60																												
45	40	55																												
50	35	50																												
55	25	45																												
4-3 形鋼の縁端距離																														
																														
																														
																														
a 或 b	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径	B	g3	最大軸径																				
40 <sup>※</sup>	30	16	100 <sup>※</sup>	56	16	40	25	12																						
45	30	16	125	75	16	50	30	16																						
50	35	20	150	90	22	65	35	20																						
60	35	20	175	105	22	70	40	20																						
65	40	22	200	120	24	75	40	22																						
70	40	22	250	150	24	80	45	22																						
75	45	24	300 <sup>※</sup>	150	40	90	50	24																						
80	50	24	350	140	70	24	100	55	24																					
90	55	24	400	140	90	24																								
100	50	24																												
125	50	35	24																											
130	55	40	24																											
150	55	55	24																											
175	60	70	24																											
200	60	90	24																											

  || ※1：H形鋼のB＝300は、千鳥打ちとする  ※2：当該印順のg1及び最大軸径の値は、強度上支障がない場合で、最小軸端距離の規定に拘わらず用いることができる |  |

(注1) 図(A)は、挿込型ならびに圧入接着型を使用し、露出型に使用の場合はR(a)厚を6mm程度を取付ける。

(注2) 図(B)は、露出型に適用する。

(注3) ②：柱壁厚が9mm以下の場合には①とすることができ。

(注4) 一般構造用炭素鋼管柱の柱脚部接続は角形鋼管柱に置く。

## 角形鋼管

F値295N/mm<sup>2</sup>以下

□-150×150 ～ □-300×300 用

(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-19」(令和6年6月21日付)

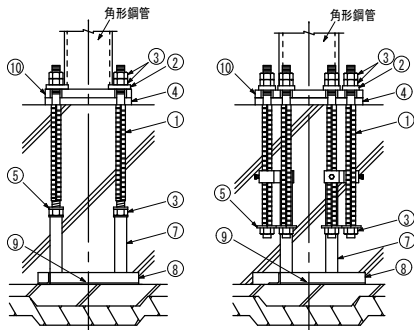
## ベースパック柱脚工法

## 設計標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

## 1. 工法概要

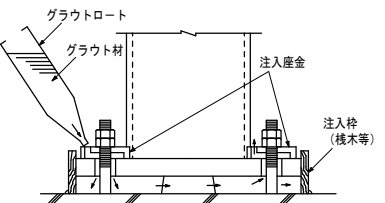
## 1.1 構成部材



- ①アンカーボルト  
②注入座金  
③Mナット  
④ベースパックグラウト(グラウト材)  
⑤定着座金  
⑥テンプレート
- ⑦フレームポスト  
⑧フレームベース  
⑨ステコンアンカー(コンクリートアンカー)  
⑩ベースプレート

(注)上図①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。  
(注)上図④～⑥は現場状況により仕様異なる場合がある。

## 1.2 柱脚の定着方法概要



## 2. 柱

F値(N/mm <sup>2</sup> )	鋼種	採用
235	BCP235 STKR400	
295	BCR295 TSC295	○

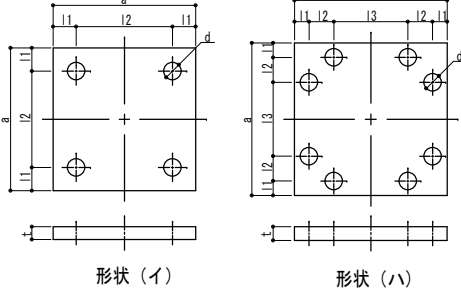
## 3. 構成部材・寸法

## 3.1 ベースプレート

●材質

SN490B

[JIS G 3136]



形状 (イ)

形状 (ハ)

## 3.3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	B	単位 mm
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

## 3.4 定着座金

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

適用 アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	SS400
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合

適用 アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	
M33	60	173	9	35	SS400
M36	65	178	9	38	

## 3.5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

記号	適用 アンカーボルト	a1	a2	c	t	d	単位 mm
PM27	M27	32	42	101	18	28	
PM30	M30	32	42	101	18	31	
PM33	M33	35	45	110	18	34	
PM36	M36	35	45	110	18	37	
PM39	M39	38	48	118	18	40	

## 3.2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

呼び d	異形筋 呼び名	L 注1)	X	b 注1)	単位 mm 基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

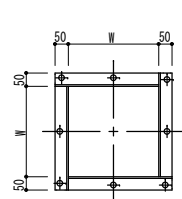
注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合

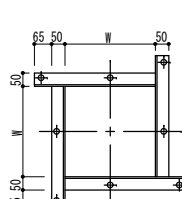
呼び d	異形筋 呼び名	L	X	単位 mm 基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

## 3.6 フレームベース

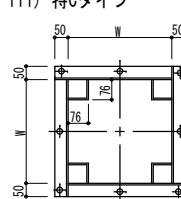
i) Aタイプ



ii) Cタイプ



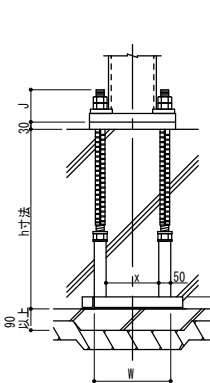
iii) 特Cタイプ



## 3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

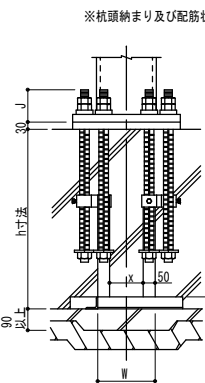
- ベースパックの据付け高さ (h寸法) はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ (最低h寸法) は下表に記載の値とする。

&lt; Aタイプ &gt;

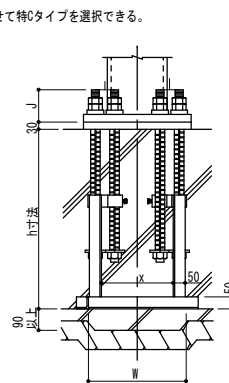


&lt; Cタイプ ※ &gt;

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。



&lt; 特Cタイプ &gt;



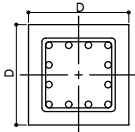
単位 mm

## 4. コンクリート柱型

## 4.1 形状・材質

●形状

形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。



●コンクリート

普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm<sup>2</sup> 以上とする。

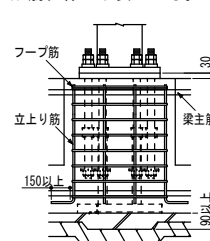
●鉄筋

SD295 (D13, D16)

SD345 (D19, D22)

## 4.2 配筋

配筋仕様は下表による。



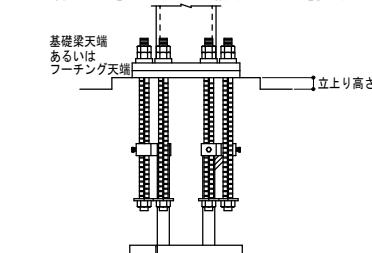
※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。

※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

## 4.3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。

※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



## 4.4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

採用

- ☐ 下表標準柱型寸法からの変更あり (「柱型寸法最大・最小値一覧」による)
- ☐ 下表標準配筋仕様からの変更あり
- ☐ 立上り筋に頂部フックが必要

## 5. 工場製作 (溶接)

■組立

●ベースプレートの中心線 (かき線) に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法 (完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準 (JASS 6 鉄骨工事 2018年版より)

図	溶接方法 T (mm)	適用板厚 標準値	ルート間隔G (mm) 標準値	ルート面R (mm) 標準値	開先角度 α (°) 標準値	溶接姿勢
	6~	7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 45
		9	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 35
	6~	6	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 45
		7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 35

許容差・記号+∞は制限無しを示す。  
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差 (上段 : 管理許容差、下段括弧内 : 限界許容差) を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温 (鋼材表面温度) が5° C以上のベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚 (mm)	予熱なし	予熱なし
低水素系被覆アーク溶接 CO <sub>2</sub> ガスシールドアーク溶接	SN490B	t<32	予熱なし	50 °C
	SN490B	32≤t≤50	予熱なし	予熱なし

※フラックス入りワイヤによるCO<sub>2</sub>ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、低水素被覆アーク溶接に準じる。

■検査方法 : 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理 : 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

## 6. 工事場施工

## 6.1 基礎工事

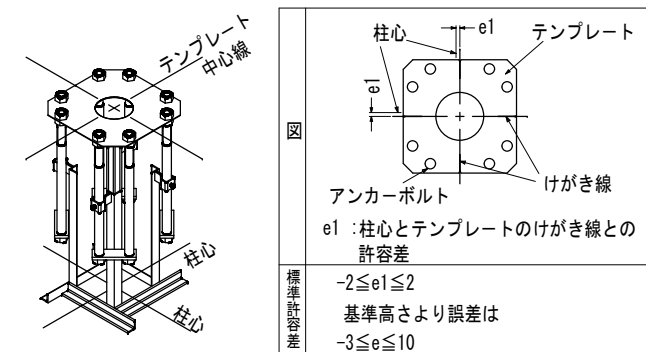
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

## 6.2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト (フレーム) の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



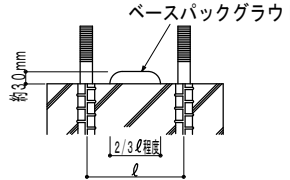
## 6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト (フレーム) との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

## 6.4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト (グラウト材) を使用し、大きさは右図による。



## 6.5 アンカーボルトの本締め (弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

## 6.6 ベースパックグラウト (グラウト材) の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋 (6kg) に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

## 7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者 (元請) の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6. 2アンカーボルト据付け及び6. 6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者 (ベースパック施工管理技術者・施工技能者) が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

特記事項	
------	--

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号  
株式会社 前野建築設計

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者  
一級建築士  
第320204号  
前野 将輝設計担当  
一級建築士  
第307846号  
三橋 五百子設計担当  
一級建築士  
第360917号  
前田 祐作

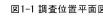
設計担当

設計担当

法適合確認

作成  
図面  
監製工事名称  
海浜公園内陸上競技場改修工事図面名称  
【共通】露出柱脚認定工法標準図 (参考図)縮尺  
A2: NS  
A3: NS設計日  
図面番号  
S011  
(原図: A2)





### ● 基準点位置

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）












ボーリング名 No.1		調査位置 三重県津市成広町 地内		北 緯 34° 43' 29.53"	
発 掘 機 関 三重県津市		調査期間 令和06年08月03日～令和06年08月05日		東 経 136° 31' 31.48"	
調査業者名		主任技師		現場代理人	
調査業者名		主任技師		コ ー 監 定 者	
ボーリング責任者		ボーリング責任者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高 T.P. 1.83 m		角 180° 方 向 270° 180° 90° 0°		地 盤 本 質 水 準 使用 機 種	
総 掘 孔 長 41.42 m		度 分 秒 位		試 験 機 YEM05	
総 掘 孔 長 41.42 m		度 分 秒 位		エンジン ヤンマーNRF6	
総 掘 孔 長 41.42 m		度 分 秒 位		ポン プ カノ-Y6	



柱状图




写真判定棟

ボーリング名 No.2		調査位置 三重県津市栄広町 地内		北 緯 34° 43' 18.16"	
発 注 機 関 三重県津市		調査期間 令和06年08月01日～令和06年09月02日		東 経 136° 51' 25.68"	
調 査 者 者 名		主 任 技 師		ボーリング責任者	
孔 口 標 高 T.F. 1.42 m		角 		力 	
総 掘 孔 長 39.29 m		度 		位 	
孔 口 標 高 T.F. 1.42 m		地 盤 記 載 		使用 機 種 YEM05	
総 掘 孔 長 39.29 m		度 		エンジン ヤンマー-ND99	
ボーリング名 No.2		調査位置 三重県津市栄広町 地内		北 緯 34° 43' 18.16"	
発 注 機 関 三重県津市		調査期間 令和06年08月01日～令和06年09月02日		東 経 136° 51' 25.68"	
調 査 者 者 名		主 任 技 師		ボーリング責任者	
孔 口 標 高 T.F. 1.42 m		角 		力 	
総 掘 孔 長 39.29 m		度 		位 	
孔 口 標 高 T.F. 1.42 m		地 盤 記 載 		使用 機 種 YEM05	
総 掘 孔 長 39.29 m		度 		エンジン ヤンマー-ND99	
ボーリング名 No.2		調査位置 三重県津市栄広町 地内		北 緯 34° 43' 18.16"	
発 注 機 関 三重県津市		調査期間 令和06年08月01日～令和06年09月02日		東 経 136° 51' 25.68"	
調 査 者 者 名		主 任 技 師		ボーリング責任者	
孔 口 標 高 T.F. 1.42 m		角 		力 	
総 掘 孔 長 39.29 m		度 		位 	
孔 口 標 高 T.F. 1.42 m		地 盤 記 載 		使用 機 種 YEM05	
総 掘 孔 長 39.29 m		度 		エンジン ヤンマー-ND99	

特 記 事 項	

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号

 株式会社 **前野建築設計**

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者  
一級建築士  
第320204号  
前野 将輝

設計担当  
一級建築士  
第307846号  
三橋 五百子

設計担当  
一級建築士  
第360917号  
前田 祐作

設計担当

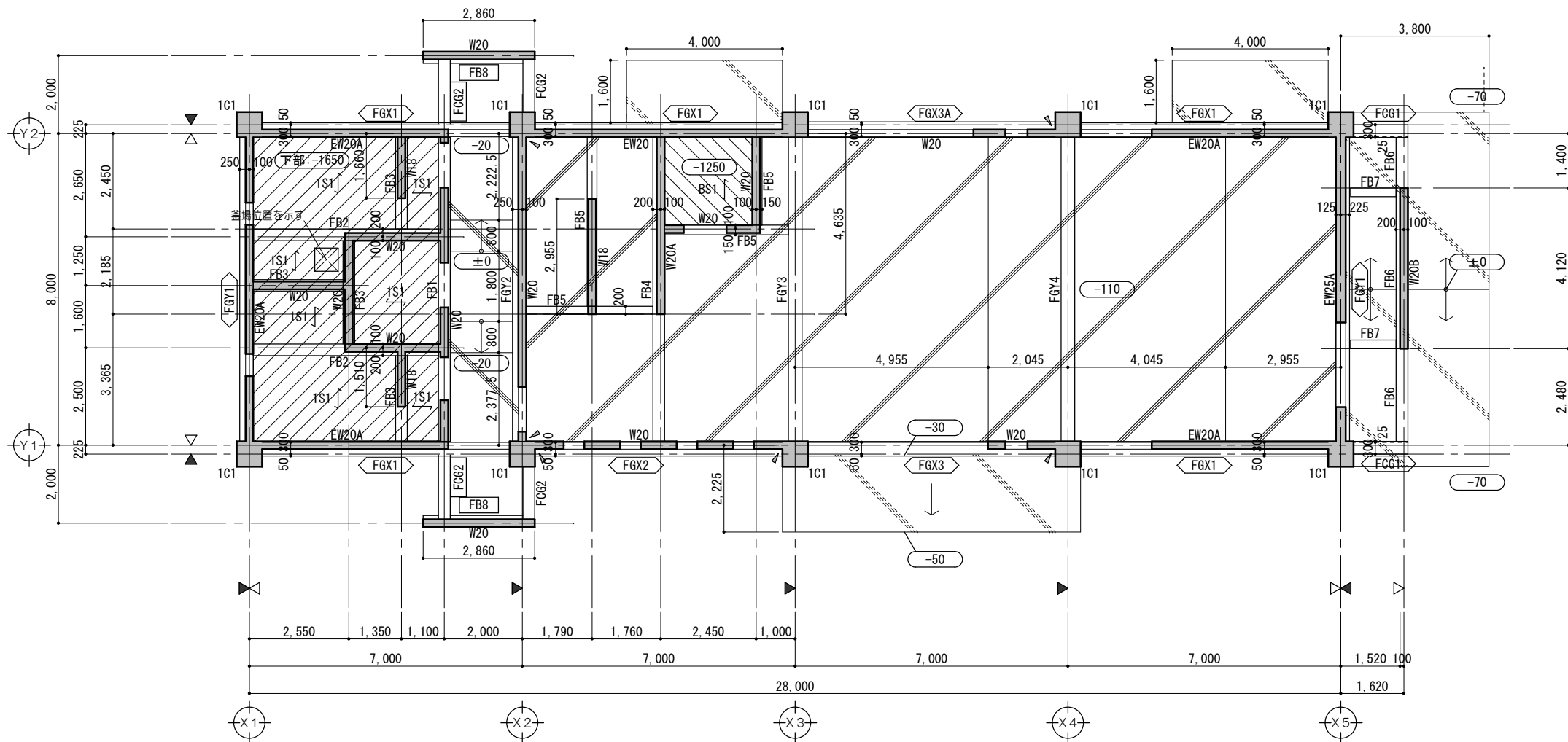
設計担当

去適合確認

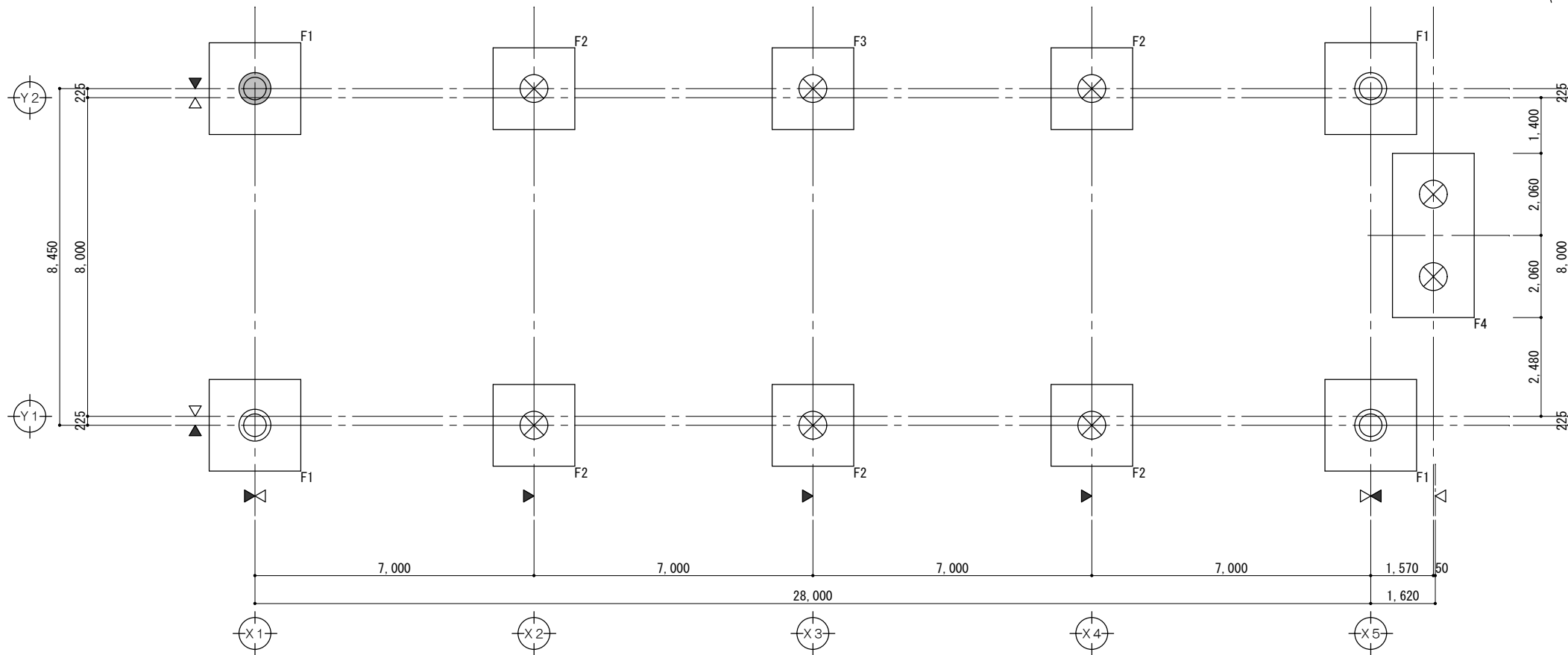
計

【共通】地質調査位置図、地質調査報告書

	縮尺 A2: NS A3: NS	図面番号 S013 (原図: A2)
--	------------------------	--------------------------



1階伏図 1/100



基礎・杭伏図 1/100

凡 例			
	柱芯を示す		壁芯を示す
	完全スリットW25		主筋方向を示す
+000			
1F Lからのレベル差を示す 特記なき限り1F L-30			
	隣り合う小梁の主筋を通し配筋とする小梁・片持ち梁		
	上部：スラブ (配筋、厚みは床リストによる) 下部：土間コンクリート150 Fc18 D10@200 モチアミシングル 砕石100 ポリエチレンフィルムA0.15 上部レベル：F L-50 下部レベル：F L-1650		
	スラブ（配筋、厚みは床リストによる） 砕石100 ポリエチレンフィルムA0.15		
	土間コンクリート150 Fc18 D10@200 モチアミシングル 砕石100 ポリエチレンフィルムA0.15 ポリスチレンフォームA25		
	土間コンクリート150 Fc18 D10@200 モチアミシングル 砕石100		
	大走コンクリート150 Fc18 D10@200 モチアミシングル 差筋 D10@200 砕石100		

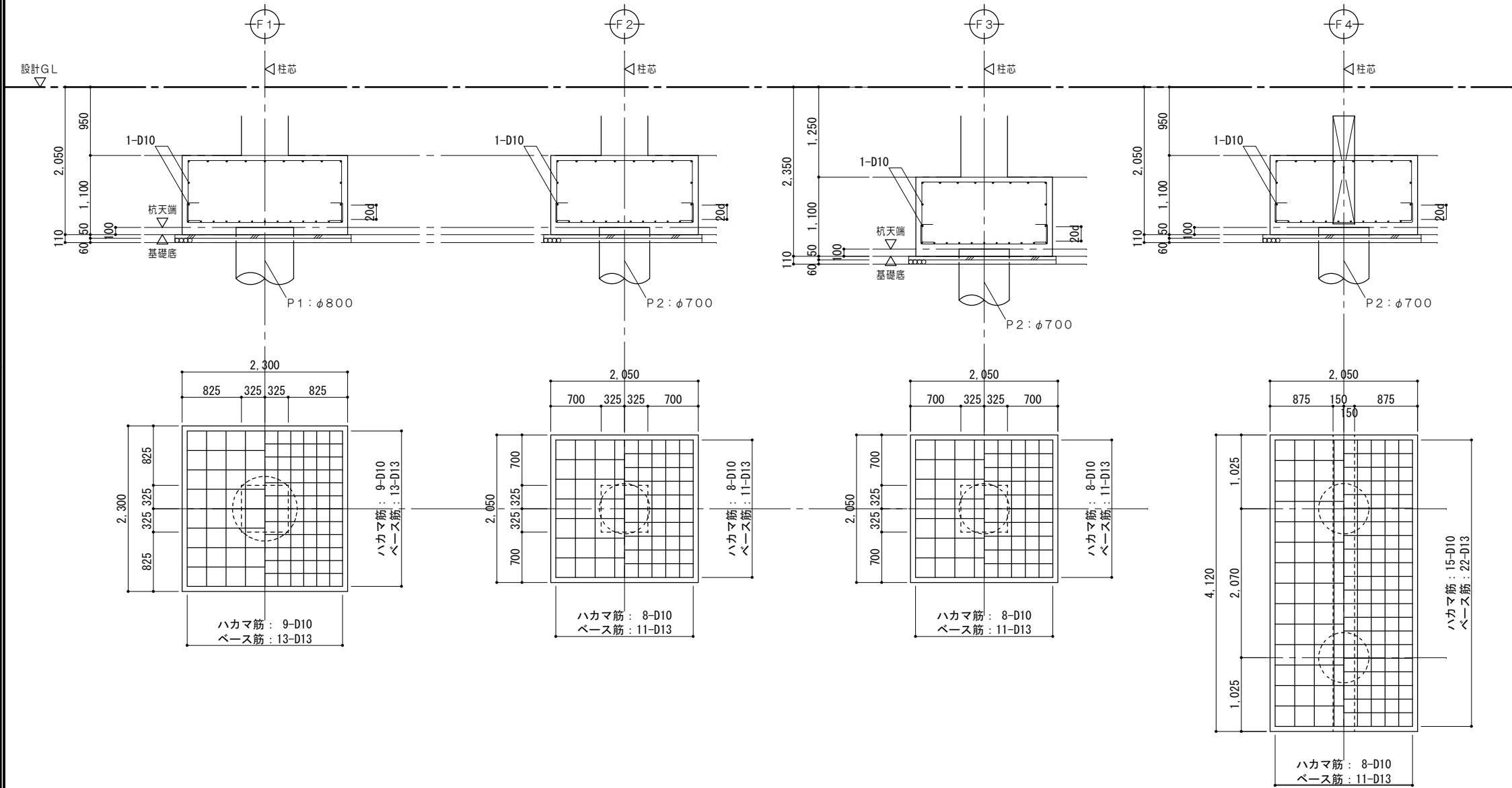
増 打 凡 例		
	梁増打 A25	

凡 例			
	P1：φ800 L=37m 上杭：CPRC杭 Ⅲ種 9m 中杭1：PHC杭 A種 9m 中杭2：PHC杭 A種 9m 下杭：PHC杭 A種10m プレボーリング拡大根固め工法（各係数は特記による） 杭支持力 5000kN/本（長期） 10000kN/本（短期） 継手 機械式継手 杭頭接合部 スタッド溶接：23-D22 支持層 土質柱状図による 許容施工誤差±150mm		
	P2：φ700 L=37m 上杭：CPRC杭 Ⅲ種 9m 中杭1：PHC杭 A種 9m 中杭2：PHC杭 A種 9m 下杭：PHC杭 A種10m プレボーリング拡大根固め工法（各係数は特記による） 杭支持力 4000kN/本（長期） 8000kN/本（短期） 継手 機械式継手 杭頭接合部 スタッド溶接：13-D22 支持層 土質柱状図による 許容施工誤差±150mm		
	試験杭位置を示す		
	壁芯を示す		柱芯を示す

特 記 事 項					<div><div></div><div>株式 会 社</div><div>前野建築設計</div></div> <div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div>	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号		代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図	工事名称		設計日
						株 式 会 社		一級建築士	一級建築士	一級建築士				海浜公園内陸上競技場改修工事				
								第320204号	第307846号	第360917号				図面名称	縮 尺	図面番号		
								前野 将輝	三橋 五百子	前田 祐作				【①管理棟】基礎・杭伏図、1階伏図	A2:1/100 A3:1/141	S014 (原図:A2)		

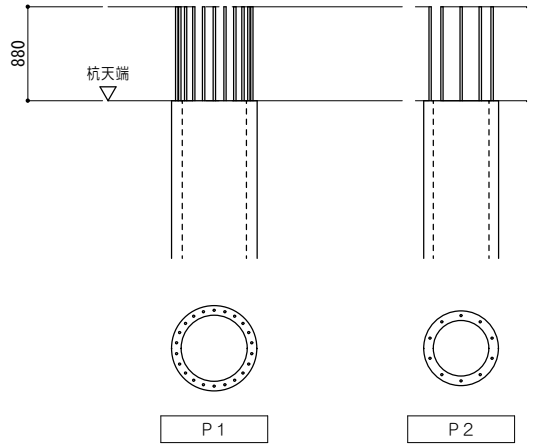


基礎詳細図 1/50



杭頭補強筋詳細図 1/50


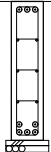
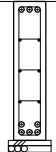



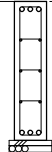
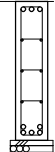
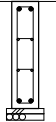
杭符号	杭サイズ	L	主筋径	主筋本数	主筋材種
	外径				
P1	800	40d	D22	23	KSW490
P2	700	40d	D22	13	KSW490




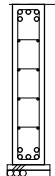
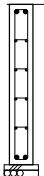
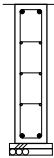
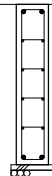
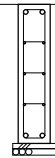
## 基礎梁リスト 1/50





符 号		FGX1	FGX2		FGX3		FGX3A	FGY1	FGY2			FGY3			FGY4		
B × D		350×1500	350×1500		350×1500		350×1500	350×1500	350×1500			350×1500			350×1500		
位 置		全 断 面	両 端	中 央	X3通端	中 央 X4通端	全 断 面	全 断 面	Y1通端	中 央	Y2通端	Y1通端	中 央	Y2通端	Y1通端	中 央	Y2通端
断面図																	
主 筋	上 端 筋	3-D22	3-D22 2-D22	3-D22	3-D22 2-D22	3-D22	3-D22	3-D19	4-D25 4-D25	4-D25	4-D25	4-D25 3-D25	4-D25	4-D25 2-D25	4-D25 2-D25	4-D25	4-D25
	下 端 筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	4-D25	4-D25	2-D25 4-D25	4-D25	4-D25	2-D25 4-D25	4-D25	4-D25	2-D25 4-D25
S T P		□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200			□-D10@200			□-D10@200		
腹 筋		8-D10	8-D10		8-D10		8-D10	8-D10	8-D10			8-D10			8-D10		
巾止メ筋		D10@1000	D10@1000		D10@1000		D10@1000	D10@1000	D10@1000			D10@1000			D10@1000		
カットオフ筋	上 端 筋		2750		2750				3400			3100		2750	2750		
	下 端 筋									2750			2750				2750

## 基礎小梁リスト 1/50

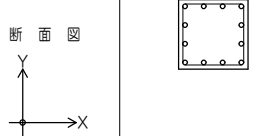
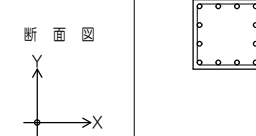
符 号		FB1		FB2		FB3	FB4		FB5
B × D		300×1300		300×500		300×500	300×1300		250×1000
位 置		両 端	中 央	両 端	中 央	全断面	両 端	中 央	全断面
 断面図									
主 筋	上 端 筋	3-D25	3-D25	3-D22	3-D22	2-D19	3-D22	3-D22	2-D19
	下 端 筋	3-D25	3-D25 2-D25	3-D22	2-D22 3-D22	2-D19	3-D22	2-D22 3-D22	2-D19
S T P		□-D10@200		□-D13@200		□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200
腹 筋		6-D10					6-D10		4-D10
巾止×筋		D10@1000					D10@1000		D10@1000

## 階段・突出部基礎小梁リスト 1/50


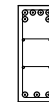
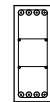
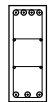
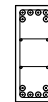
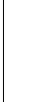
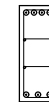

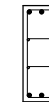
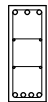

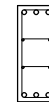







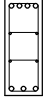
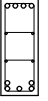



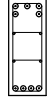





符 号		FB6	FB7	FB8	FCG1	FCG2
B × D		300×1500	220×1500	300×1300	300×1500	300×1300
位 置		全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面
 断面図						
主 筋	上 端 筋	3-D22 2-D22	2-D19	2-D19	2-D19	2-D22
	下 端 筋	2-D22 3-D22	2-D19	2-D19	2-D19	2-D22
S T P		□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹 筋		8-D10	8-D10	6-D10	8-D10	6-D10
巾止×筋		D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000

特 記 事 項	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号			代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図	工事名称	設計日	
	 株式会社 <b>前野建築設計</b>			一級建築士 第320204号 前野 将輝	一級建築士 第307846号 三橋 五百子	一級建築士 第360917号 前田 祐作				 計	海浜公園内陸上競技場改修工事		
										 監図	図面名称	縮 尺	図面番号
										 三橋 輝男	【①管理棟】基礎梁リスト、基礎小梁リスト	A2: 1/50 A3: 1/71	S017 (原図: A2)

柱リスト1/50

符 号	1 C 1	符 号	2 C 1
B × D	650 × 650	B × D	650 × 650
位 置	全 断 面	位 置	全 断 面
断 面 図		断 面 図	
主 筋	12-D22	主 筋	12-D22
H O O P	□-D13@100	H O O P	□-D13@100

大梁リスト1/50

符 号		RGX 1	RGX 1 A			RGX 2		RGX 3		RGY 1	RGY 2		RGY 3			RGY 4				
B × D		350 × 900		350 × 900			350 × 900		350 × 900		350 × 900		350 × 900			350 × 900				
位 置		全 断 面		X 2通端 X 4通端	中 央	X 1通端 X 5通端	X 2通端	中 央 X 3通端	X 3通端 中 央	X 4通端	全 断 面		両 端	中 央	Y 1通端	中 央	Y 2通端	両 端	中 央	
主 筋		断面図																		
		上 端 筋		3-D25		4-D25 2-D25		4-D25	4-D25	4-D25	4-D25 2-D25	3-D19		3-D22		3-D22	3-D22	3-D22 2-D22	3-D22	3-D22
下 端 筋		3-D25		3-D25		4-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D19		4-D22		4-D22	2-D22 3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	
S T P		□-D10@200		□-D13@200			□-D13@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200			□-D10@200		
腹 筋		4-D10		4-D10			4-D10		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10			4-D10		
巾止×筋		D10@1000		D10@1000			D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000			D10@1000		
カットオフ筋	上 端 筋																2400			
	下 端 筋																			
符 号		2 GX 1	2 GX 2			2 GX 3			2 GY 1		2 GY 1 A	2 GY 2		2 GY 3			2 GY 4			
B × D		350 × 900		350 × 900			350 × 900			350 × 900		350 × 780		350 × 900		350 × 900				
位 置		全 断 面		両 端	中 央	X 3通端	中 央	X 4通端	全 断 面		全 断 面		両 端	中 央	両 端	中 央	全 断 面			
主 筋		断面図																		
		上 端 筋		3-D22		4-D22		4-D22	4-D22	4-D22 2-D22	3-D19		3-D25 2-D25		3-D25	4-D22 2-D22	4-D22	3-D22		
下 端 筋		3-D22		3-D22		2-D22 3-D22	3-D22	2-D22 3-D22	3-D22	3-D19		4-D25		2-D25 4-D25	3-D22	2-D22 3-D22	3-D22			
S T P		□-D10@200		□-D10@200			□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D13@200		□-D10@200			□-D10@200		
腹 筋		4-D10		4-D10			4-D10		4-D10		2-D10		4-D10		4-D10			4-D10		
巾止×筋		D10@1000		D10@1000			D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000			D10@1000		
カットオフ筋	上 端 筋												2400							
	下 端 筋																			

壁 リ ス ト 1/50

※註記：垂壁・腰壁・袖壁厚さが、垂壁・腰壁・袖壁長さの1／10を超える場合には、スリット部差筋（振止め筋）を設ける

符 号	EW25	EW25A	EW20	EW20A	W20	W20A	W20B	W18
壁 厚	コンクリート壁 ア250	コンクリート壁 ア250	コンクリート壁 ア200	コンクリート壁 ア200	コンクリート壁 ア200	コンクリート壁 ア200	コンクリート壁 ア200	コンクリート壁 ア180
断 面 図								
タ テ 筋	D13@200 W	D13@200 W	D10@200 W	D13@200 W	D10@200 W	D10D13交互@200 W	D13@200 W	D10@200 W
ヨ コ 筋	D13@200 W	D13@200 W	D10@200 W	D13@200 W	D10@200 W	D10@200 W	D10@200 W	D10@200 W
巾 止 × 筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000
開口補強	タ テ 筋	2-D13	4-D16	2-D13	2-D16	2-D13	2-D13	2-D13
	ヨ コ 筋	2-D13	4-D16	2-D13	2-D16	2-D13	2-D13	2-D13
	斜 め 筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13
スリット部差筋	タ テ 筋					D10@200 S	D13@200 S	D10@200 S
	ヨ コ 筋					D13@200 S	D13@200 S	D10@200 S

小 梁 リ ス ト 1/50

符 号	RB1		RB2		RB3			RB4		RB5		RB6	
B × D	300×800		300×800		350×800			250×500		250×500		220×800	
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	Y1通端	中 央	Y2通端	全 断 面		全 断 面		全 断 面	
断 面 図													
主 筋	上 端 筋	3-D22	3-D22	3-D19	3-D19	3-D25	3-D25	3-D25	2-D19	2-D22		2-D22	
	下 端 筋	3-D22	2-D22 3-D22	3-D19	2-D19 3-D19	3-D25	2-D25 4-D25	3-D25	2-D19	2-D22		2-D22	
S T P	□-D10@200		□-D10@200		□-D13@150			□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200	
腹 筋	2-D10		2-D10		2-D10							2-D10	
巾 止 × 筋	D10@1000		D10@1000		D10@900							D10@1000	
符 号	2B1		2B2		2B3			2B4		2B5		2B6	
B × D	300×800		350×800		250×500			350×900		300×600		300×500	
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	全 断 面			両 端	中 央	両 端	中 央	全 断 面	
断 面 図													
主 筋	上 端 筋	3-D19	3-D19	3-D25	3-D25	2-D19			3-D25	3-D25	3-D22	3-D22	2-D19
	下 端 筋	3-D19	2-D19 3-D19	3-D25	2-D25 3-D25	2-D19			3-D25	2-D25 4-D25	3-D22	2-D22 3-D22	2-D19
S T P	□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200			□-D13@200		□-D10@200		□-D10@200	
腹 筋	2-D10		2-D10					4-D10		2-D10		2-D10	
巾 止 × 筋	D10@1000		D10@1000					D10@1000		D10@1000		D10@1000	

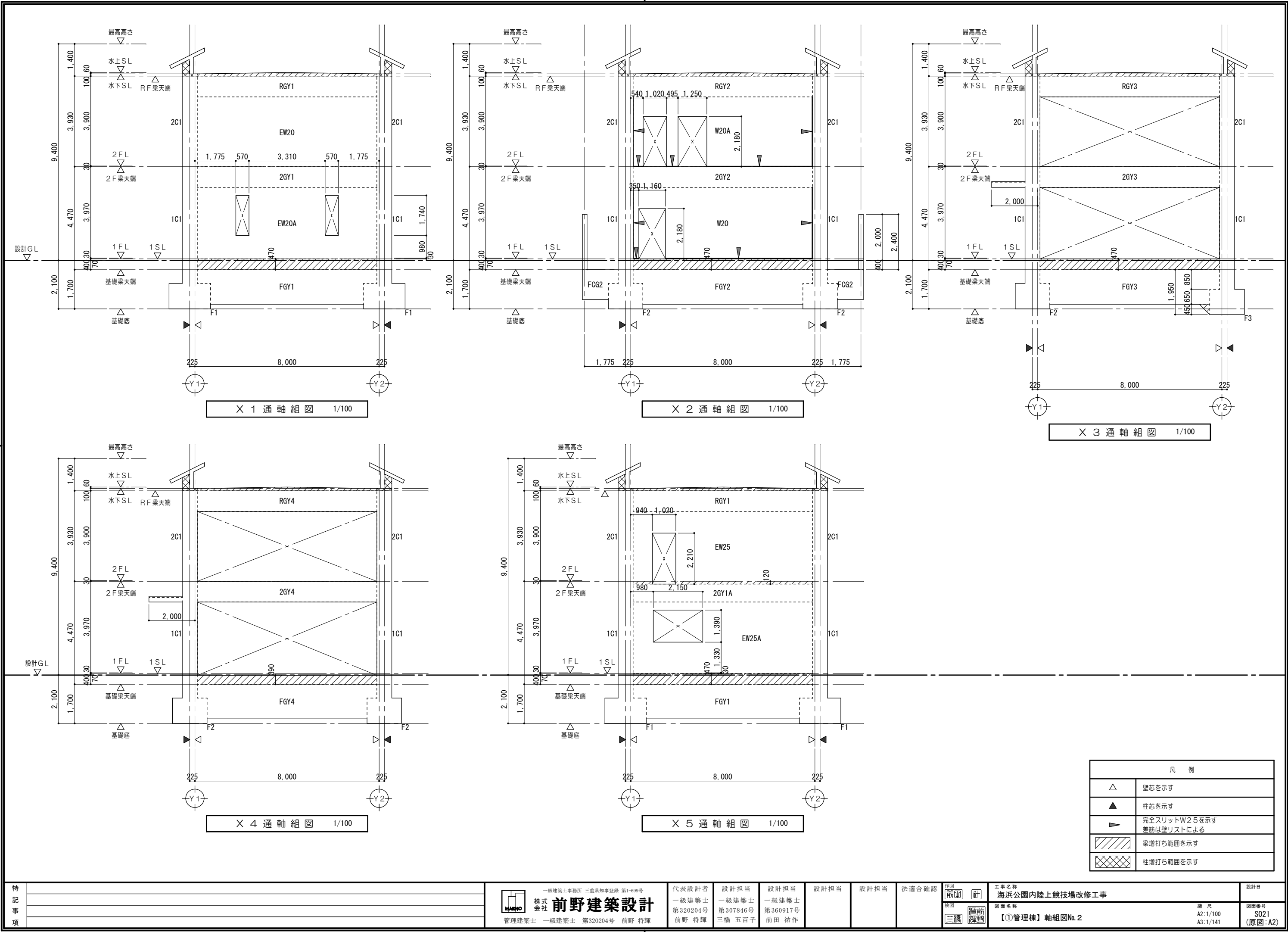
床 リ ス ト

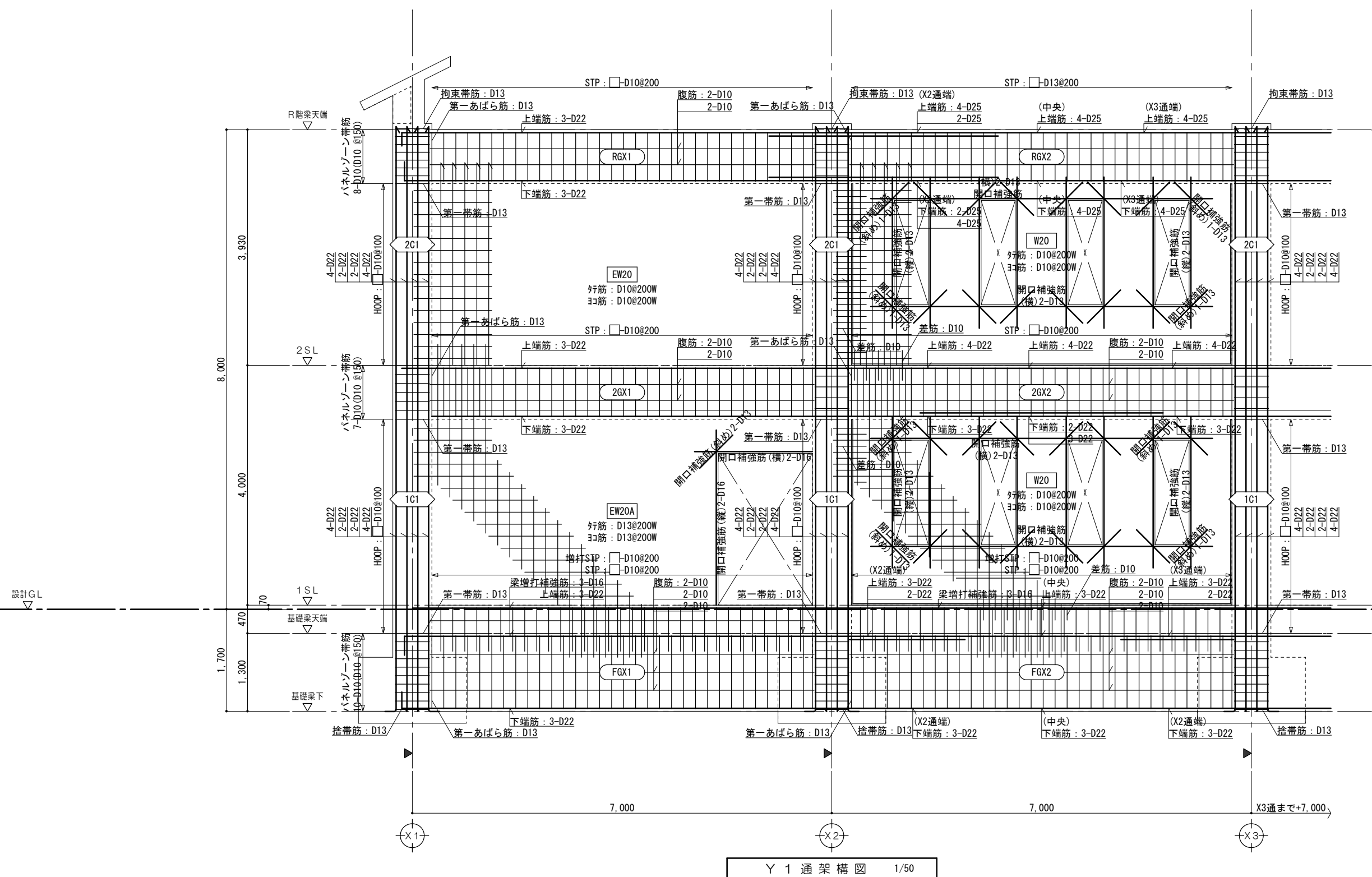
符 号	板 厚	位 置	主筋（短辺方向）		配力筋（長辺方向）		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
RS1	150	上 端 筋	D10@200	└───	D10@200	└───	四辺固定版 （R階床）
		下 端 筋	D10@200	└───	D10@200	└───	
2S1 2S2 2S3	150	上 端 筋	D10@200	└───	D10@200	└───	四辺固定版 （2階内部床）
		下 端 筋	D10@200	└───	D10@200	└───	
2CS1	200	上 端 筋	D13@150	└───	D10@200	└───	片持ち床 （2階庇）
		下 端 筋	D10@150	└───	D10@200	└───	
1S1	150	上 端 筋	D10@200	└───	D10@200	└───	四辺固定版 （1階便所ビット）
		下 端 筋	D10@200	└───	D10@200	└───	
BS1	250	上 端 筋	D10@200	└───	D10@200	└───	四辺固定版 （EVビット）
		下 端 筋	D10@200	└───	D10@200	└───	

階 段 小 梁 リ ス ト 1/50

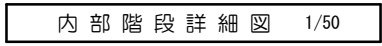
符 号	2CG1		RCG1	
B × D	220×800		220×800	
位 置	全 断 面		全 断 面	
断 面 図				
主 筋	上 端 筋	2-D22	2-D22	
	下 端 筋	2-D22	2-D22	
S T P	□-D10@200		□-D10@200	
腹 筋	2-D10		2-D10	
巾 止 × 筋	D10@1000		D10@1000	







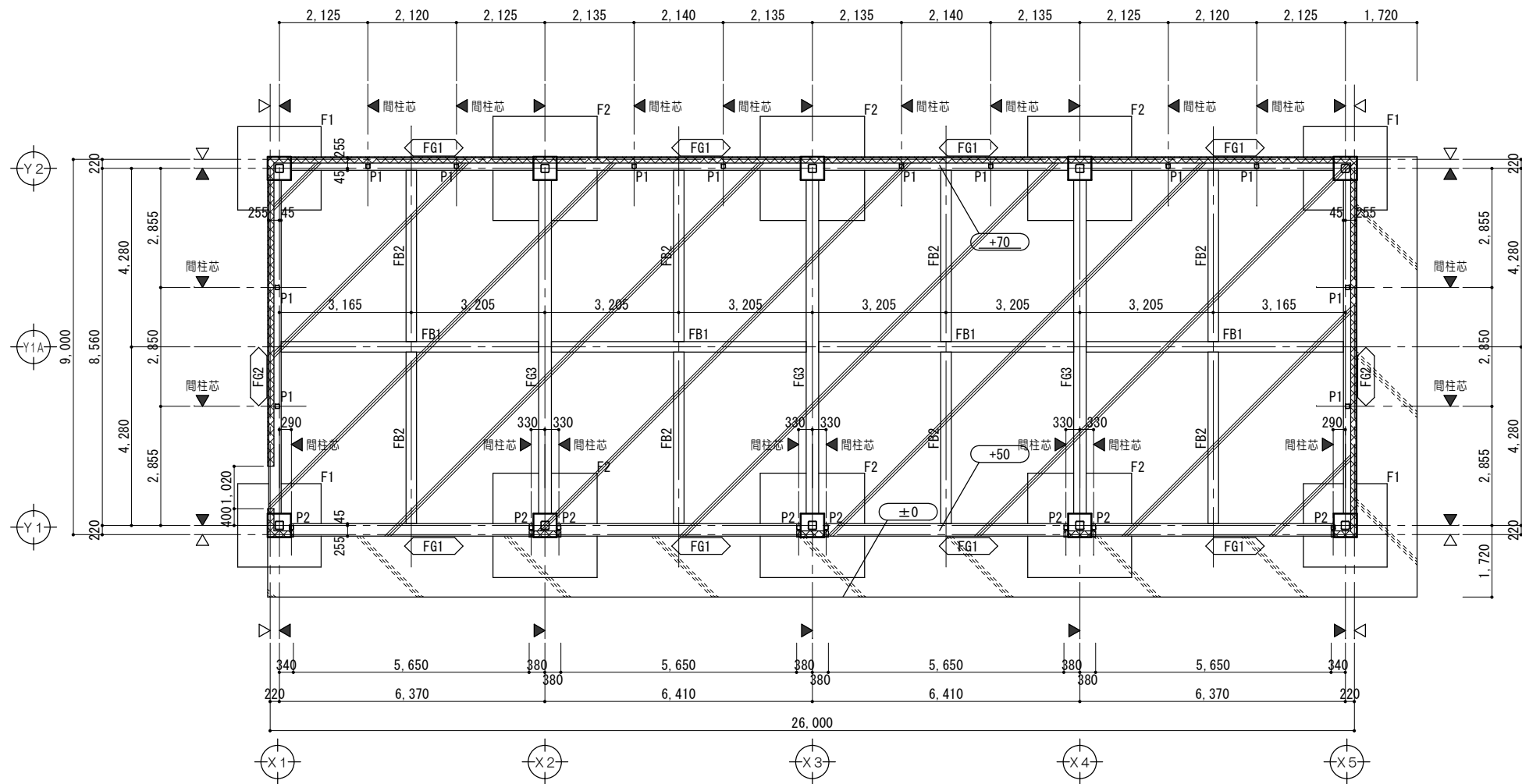
特 記 事 項		<div><div><div><div></div></div><div>MAENO</div></div><div>株式 会社</div><div>前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div>	代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	<div>作図 </div> <div>検図 </div>	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事	設計日
				一級建築士 第320204号 前野 将輝	一級建築士 第320204号 三橋 五百子	一級建築士 第360917号 前田 祐作				縮 尺 A2: 1/50 A3: 1/71	図面番号 S022 (原図: A2)
										図面名称 【①管理棟】架構図	






特 記 事 項		<div><div><div><div><div></div><div></div></div><div>MAENO</div></div><div>株式 会社</div><div>前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div><div>一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号</div><div>代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div><div>設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子</div><div>設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作</div><div>設計担当</div><div>設計担当</div><div>法適合確認</div></div>	市庁  計	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事	設計日
			県庁  三  三 	図面名称 縮 尺 A2:1/50 A3:1/71	図面番号 S023 (原図:A2)
				【①管理棟】内部階段詳細図	

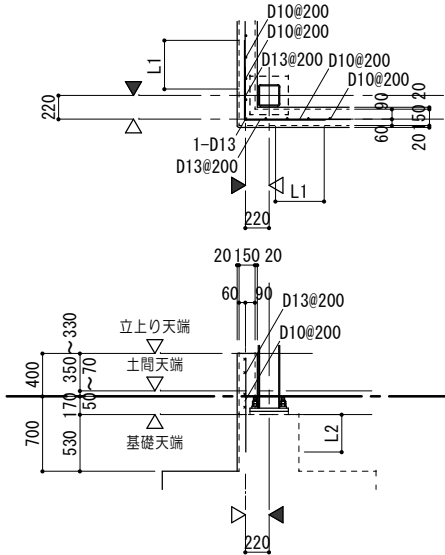









基礎伏図 1/100

凡 例		
▶	柱芯を示す	
▷	壁芯を示す	
+000	GLからのコンクリート高さ (打増含む) を示す 特記なき場合、一般FL+0とする	
	コンクリート立上りφ150 天端高さ=設計GL+400 D10@200ダブル (タテヨコ共)	
		土間コンクリートφ150+20 Fc18 D10@200 モチアミシングル 砕石φ100 ポリエチレンフィルムφ0.15敷
		犬走コンクリートφ150+20 Fc18 D10@200 モチアミシングル 差筋 D10@200 砕石φ100

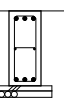
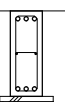
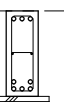
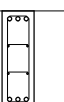
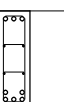


柱廻り立上詳細図 1/50


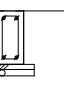
増 打 凡 例		
	梁増打 φ45を示す	
	増打φ45	

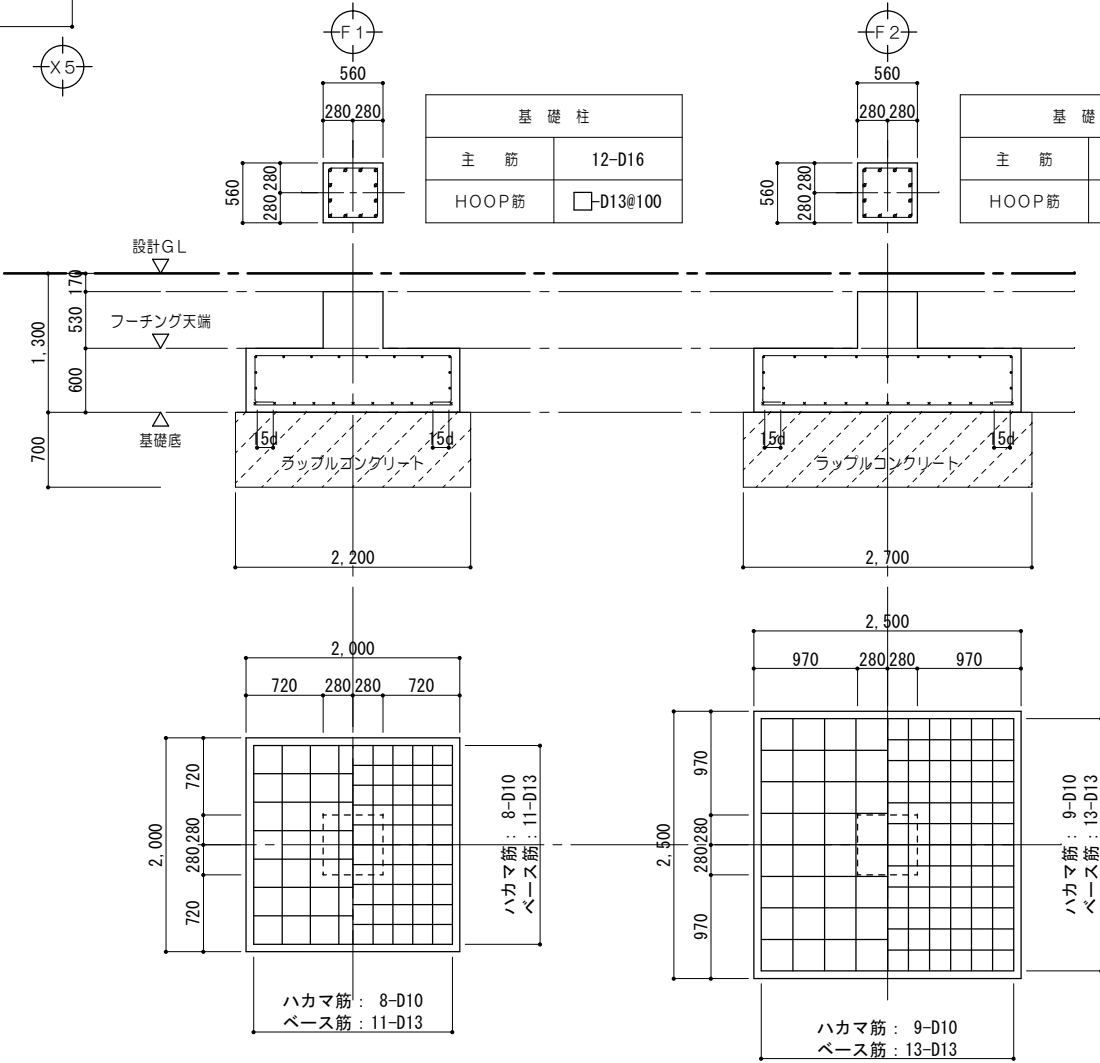
※工事着手前に当該敷地内で平板載荷試験を行い、設計地耐力以上を確認すること。（試験位置はGL-2,000とし、監督員と協議すること）

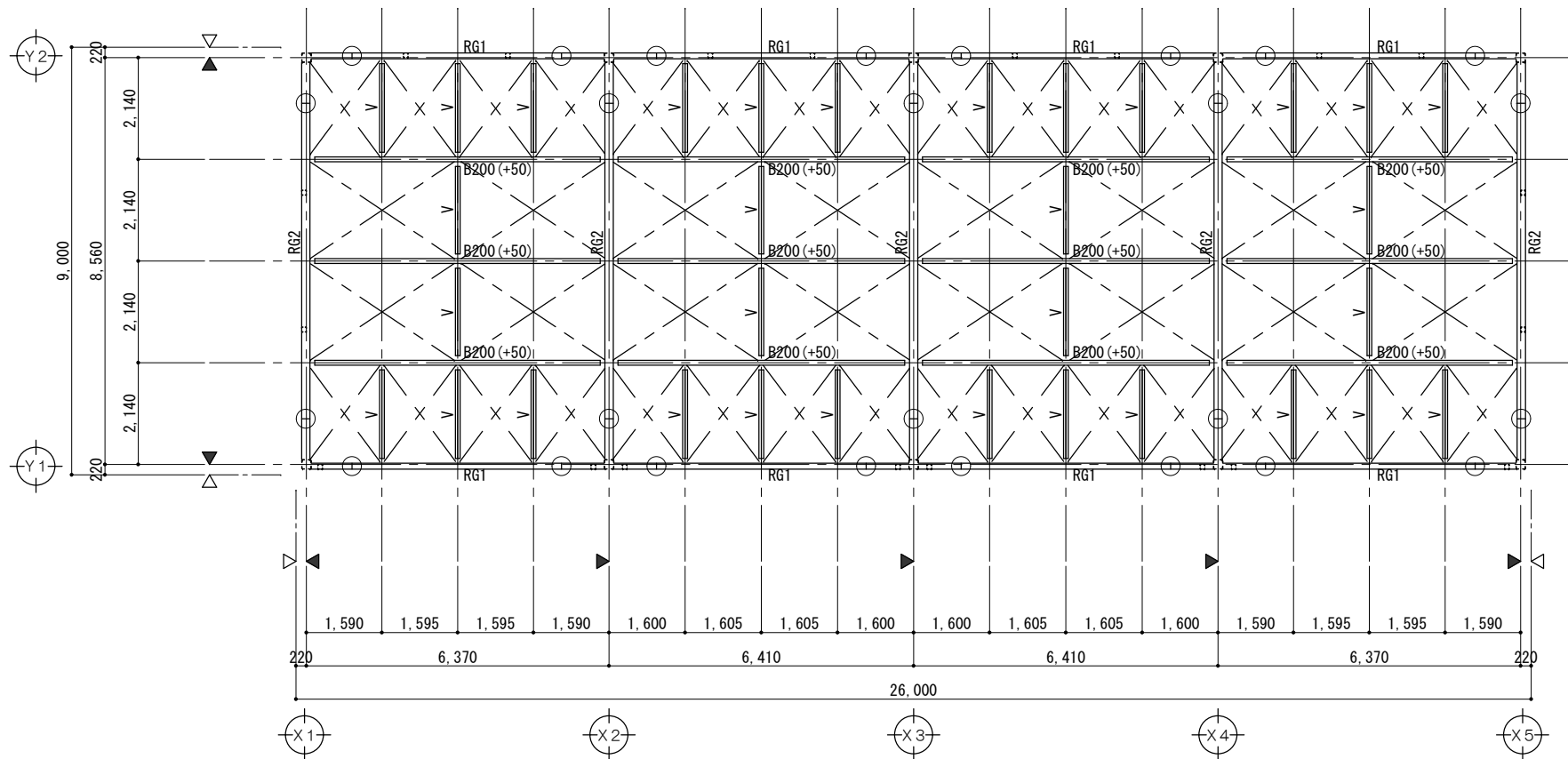
基礎梁リスト 1/50

符 号		FG1	FG2		FG3	
B × D		300 × 700	300 × 800		300 × 900	
位 置		全断面	端 部	中 央	端 部	中 央
断面図						
主 筋	上 端 筋	3-D19	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
	下 端 筋	3-D19	3-D22	2-D22 3-D22	3-D22	2-D22 3-D22
S T P		□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200	
腹 筋		2-D10	2-D10		4-D10	
巾止×筋		D10@1000	D10@1000		D10@1000	

基礎小梁リスト 1/50

符 号		FB1	FB2
B × D		250 × 750	250 × 500
位 置		全断面	全断面
断面図			
主 筋	上 端 筋	2-D19	2-D16
	下 端 筋	2-D19	2-D16
S T P		□-D10@200	□-D10@200
腹 筋		2-D10	
巾止×筋		D10@1000	





R 階 伏 図 1/100

凡 例	
▶	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
⊕	継手位置を示す
---	水平ブレースを示す
XXX (000)	一般梁天端からの高さを示す 特記なき場合、一般梁天端+0とする

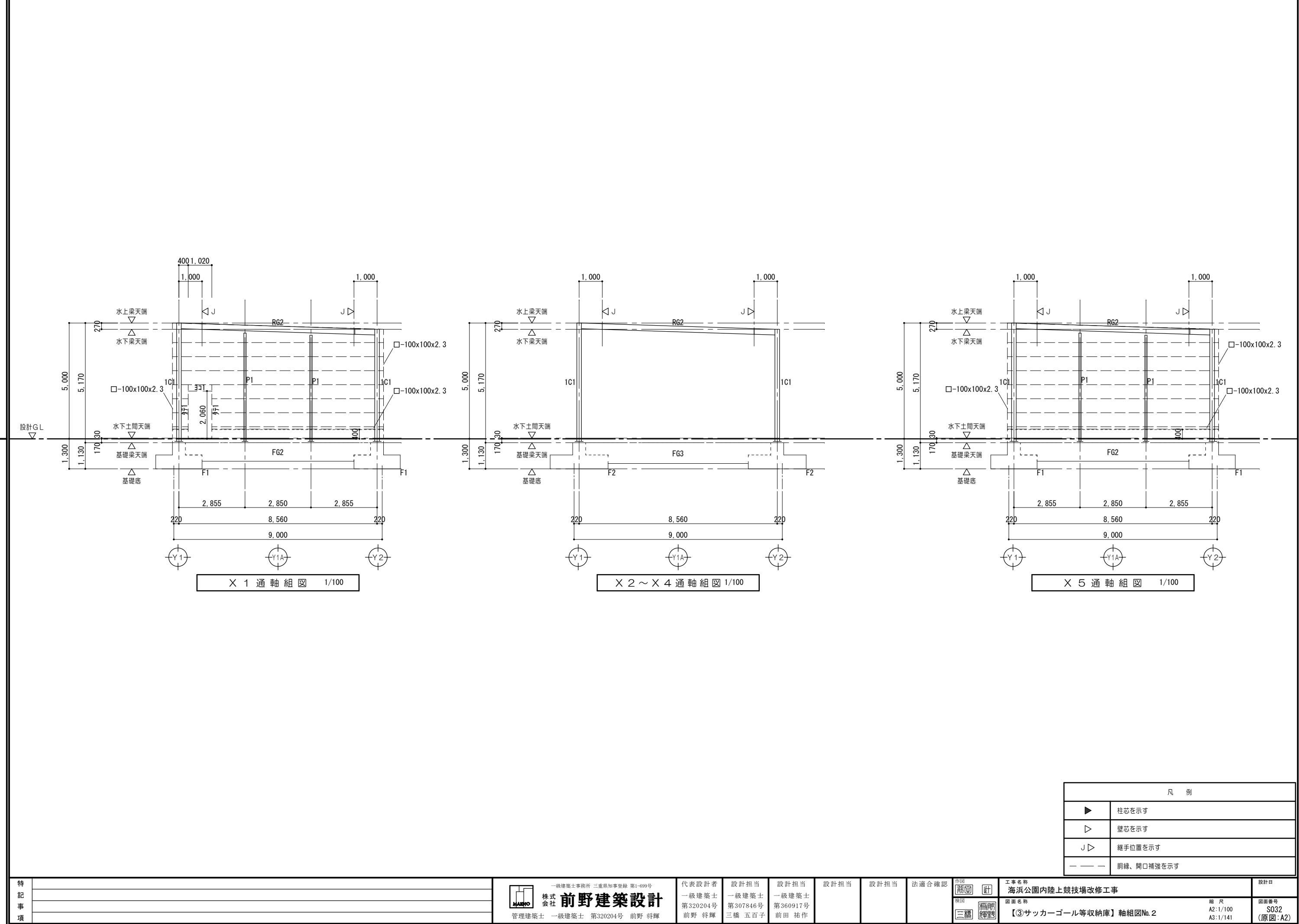
大 梁 リ ス ト		使用材料 H形鋼：SS400				
符 号	部 材	継手・端部接合部				備 考
		R (厚×幅、高さ×長さ)		HTB	TYPE Pc	
RG1	H-250x125x6x9	F	2R-12x125x410	24-M16 L=55	B 75	
		W	2R- 6x170x290	8-M16 L=50	B 90	
RG2	H-244x175x7x11	F	2R- 9x175x410 4R- 9x 70x410	24-M16 L=60	C 105	
		W	2R- 9x170x290	8-M16 L=55	C 90	

小 梁 ・ 雑 部 材 リ ス ト		使用材料 H形鋼：SS400、軽量形鋼：SSC400 角型鋼管：STKR400				
符 号	部 材	継手・端部接合部				備 考
		R (厚×幅、高さ×長さ)		HTB	TYPE Pc	
P1	□-100x100x3. 2	GR-6		2-M16 L=40	N 60	柱頭
		BR-260x120x12		2-M16 L=400		柱脚 アンカーボルトSS400
P2	□-100x100x4. 5	GR-6		2-M16 L=40	N 60	柱頭
		BR-260x120x16		2-M16 L=400		柱脚 アンカーボルトSS400
B200	H-200x100x5. 5x8	GR-6		2-M20 L=50	J 60	
V	2C-100x50x20x3. 2	GR-9		2-M20 L=55	K 60	
銅縁	C-100x50x20x2. 3	GR-4. 5		2-M12 L=35	K 50	@606 中ボルト
ヨコ開口補強1	C-100x50x20x3. 2	GR-6		2-M12 L=35	K 50	中ボルト
タテ開口補強1	C-100x50x20x3. 2	GR-6		2-M12 L=35	K 50	中ボルト
シャッター受材	上弦材 □-100x100x4. 5	GR-6		2-M16 L=40		上下弦材芯間距離H250 腹材ピッチ@900
	下弦材 □-100x100x4. 5					
	腹 材 C-100x50x20x3. 2					
水平ブレース	1-M16	GR-9		2-M16 L=40		JIS規格品

柱 リ ス ト 1/100

使用材料	角型鋼管：BCR295
符 号	1C1
断 面	
部 材	□-200x200x9
細 長 比 (最大値)	$\lambda x=81. 3$ $\lambda y=80. 0$
備 考	
柱 脚	
ベースプレート	R-360x360x28
アンカーボルト	4-M30
備 考	ベースバック 20-09V





特 記 事 項	



一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号  
**株式会社 前野建築設計**  
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者  
一級建築士 第320204号 前野 将輝

設計担当  
一級建築士 第307846号 三橋 五百子

設計担当  
一級建築士 第360917号 前田 祐作

設計担当

設計担当

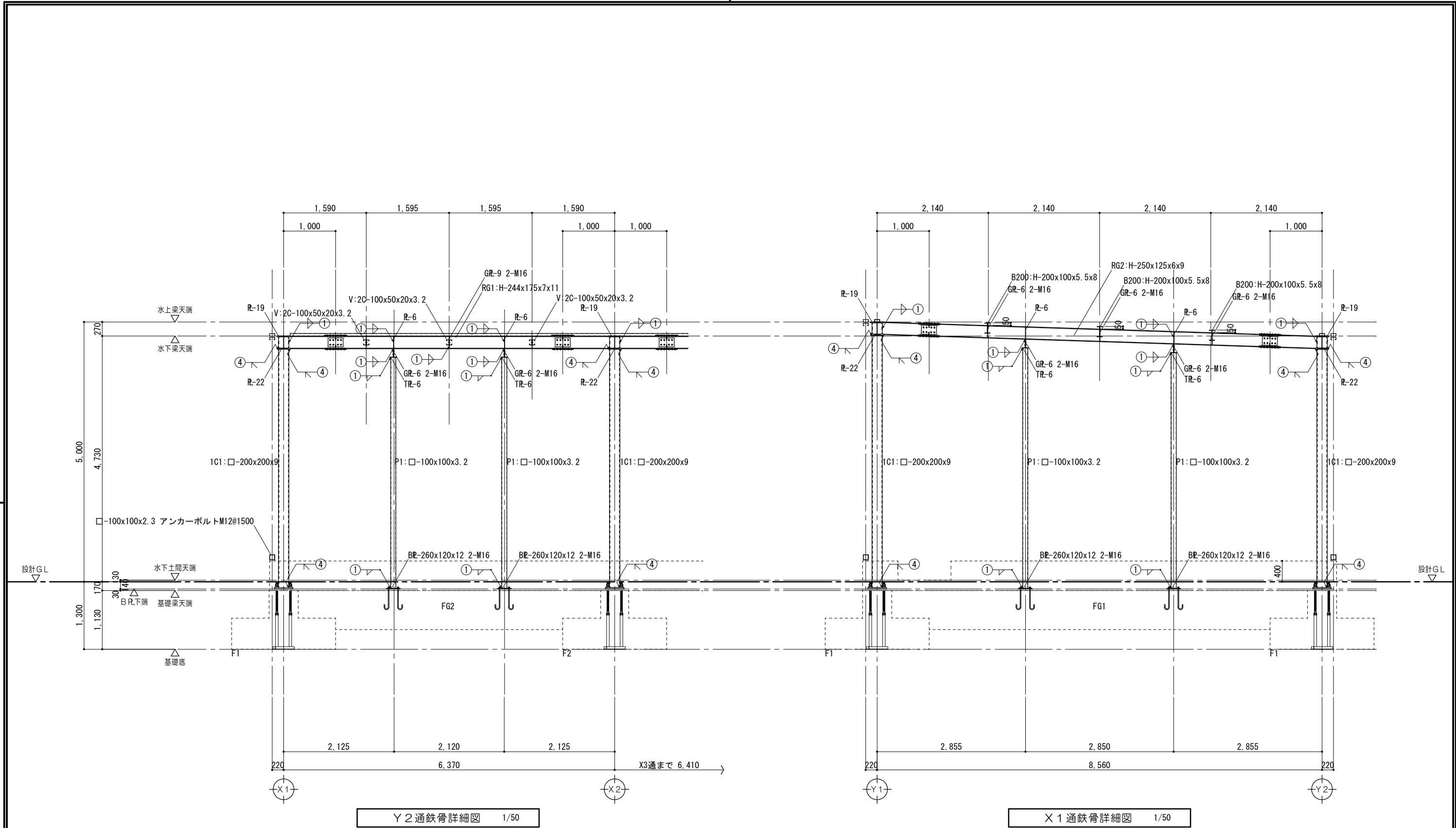
法適合確認

作図  
監図  
三橋 五百子

工事名称  
**海浜公園内陸上競技場改修工事**  
図面名称  
**【③サッカーゴール等収納庫】軸組図No.2**

縮 尺  
A2:1/100  
A3:1/141

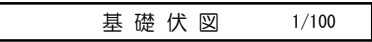
設計日  
図面番号  
S032  
(原図:A2)





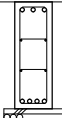
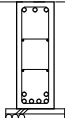
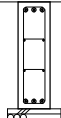
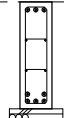
Y 2 通鉄骨詳細図 1/50

X 1 通鉄骨詳細図 1/50






凡 例	
▶	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
J▷	継手位置を示す

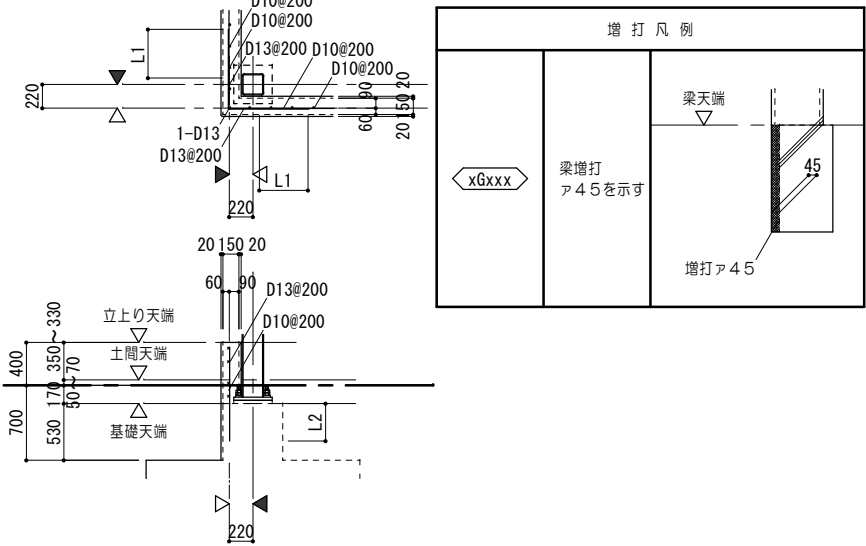


基礎梁リスト 1/100

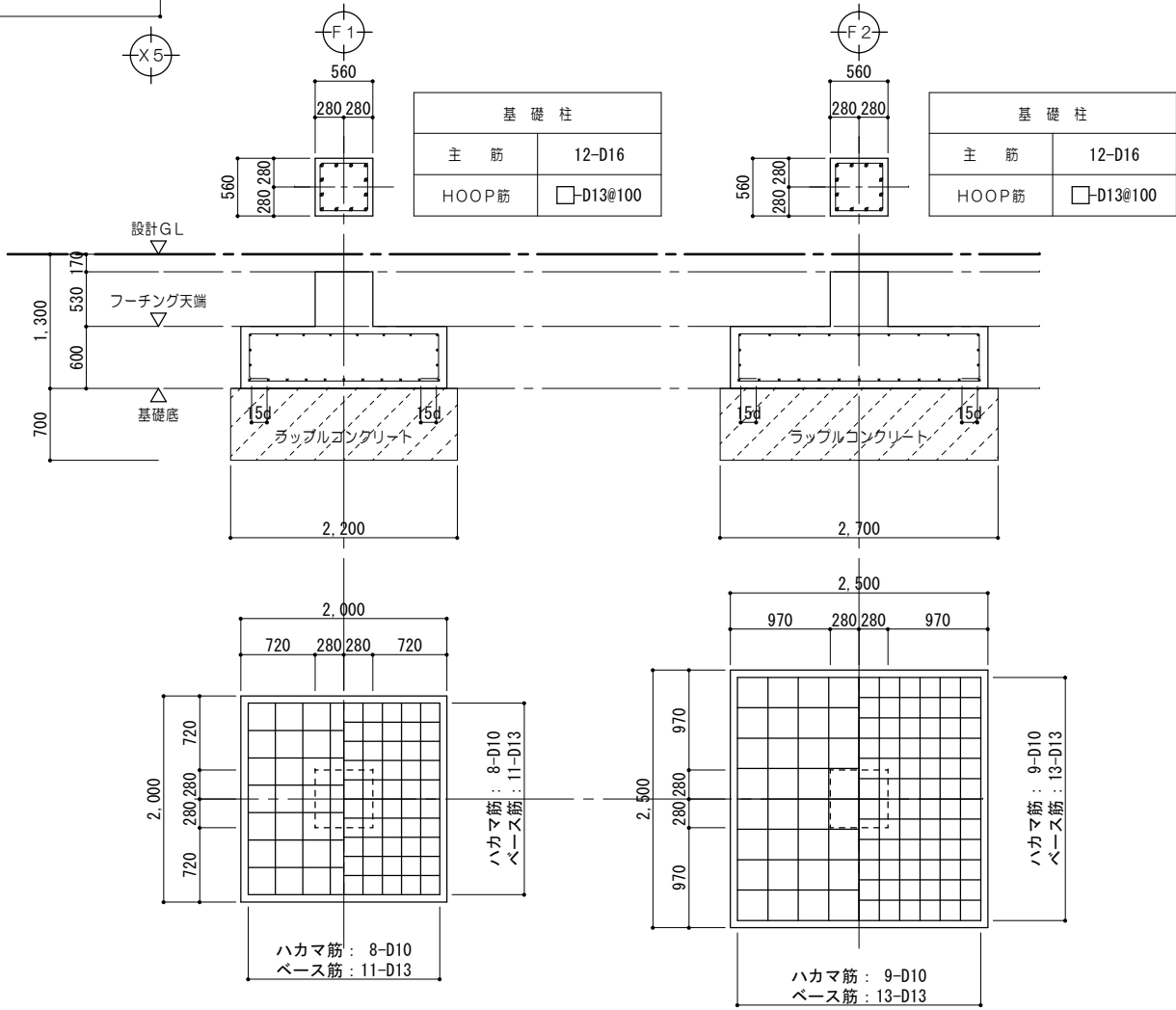
符 号		FG 1	FG 2		FG 3	
B × D		300 × 750	350 × 1000		300 × 1000	
位 置		全 断 面	端 部	中 央	端 部	中 央
 設計GL						
断 面 図						
主 筋	上 端 筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D25	3-D25
	下 端 筋	3-D22	4-D22	2-D22 4-D22	3-D25	2-D25 3-D25
S T P		□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200	
腹 筋		2-D10	4-D10		4-D10	
巾止×筋		D10@1000	D10@1000		D10@1000	

基礎小梁リスト 1/100

符 号		FB 1	FB 2
B × D		300 × 700	250 × 500
位 置		全 断 面	全 断 面
<div></div> <div>断面図</div>		<div></div>	<div></div>
主 筋	上 端 筋	3-D22	2-D16
	下 端 筋	3-D22	2-D16
S T P		 -D10@200	 -D10@200
腹 筋		2-D10	
巾止×筋		D10@1000	



柱廻り立上詳細図 1/50




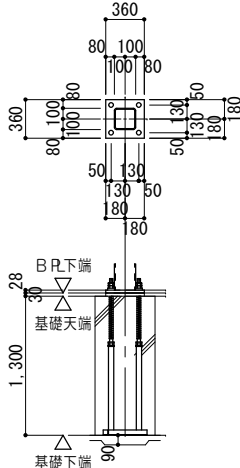
特 記 事 項		 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号 <b>株式会社 前野建築設計</b> 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝	代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図 	工事名称	設計日
				一級建築士 第320204号 前野 将輝	一級建築士 第307846号 三橋 五百子	一級建築士 第360917号 前田 祐作			検図 	図面名称 <b>【4陸上器具庫】基礎伏図、基礎梁リスト、床リスト</b> 縮 尺 A2:1/50, 100 A3:1/71, 141	図面番号 <b>S034</b> (原図:A2)

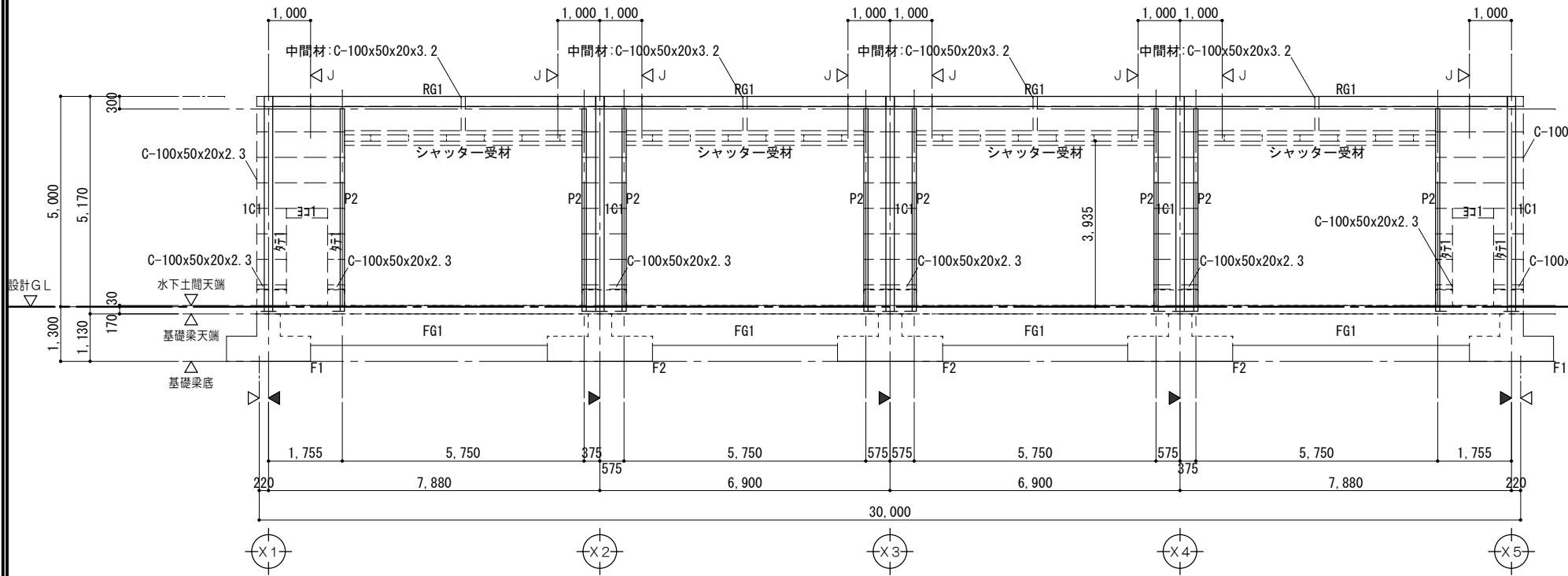


小 梁 リ ス ト			使用材料	H形鋼：SS４００、軽量形鋼：SSC４００ 角型鋼管：STKR４００			
符 号	部 材	継手・端部接合部					備 考
		凡 (厚×幅、高さ×長さ)		HTB	TYPE	Pc	
P1	□-100x100x3.2		GE-6	2-M16 L=40	N	60	柱頭
			BE-260x120x12	2-M16 L=400			柱脚 アンカーボルトSS４００
P2	□-100x100x4.5		GE-6	2-M12 L=140	N	60	柱頭 中ボルト
			BE-260x120x16	2-M16 L=400			柱脚 アンカーボルトSS４００
B200	H-200x100x5.5x8		GE-6	2-M20 L=50	J	60	
V	2C-100x50x20x3.2		GE-9	2-M20 L=55	K	60	
胴縁	C-100x50x20x2.3		GE-4.5	2-M12 L=35	K	50	@606 中ボルト
ヨコ開口補強1	C-100x50x20x3.2		GE-6	2-M12 L=35	K	50	中ボルト
タテ開口補強1	C-100x50x20x3.2		GE-6	2-M12 L=35	K	50	中ボルト
シャッター受材	上弦材	□-100x100x4.5	GE-6	2-M16 L=40			腹材ピッチ@900
	下弦材	□-100x100x4.5					
	腹 材	C-100x50x20x3.2					
水平ブレース	1-M16		GE-9	2-M16 L=40			JIS規格品

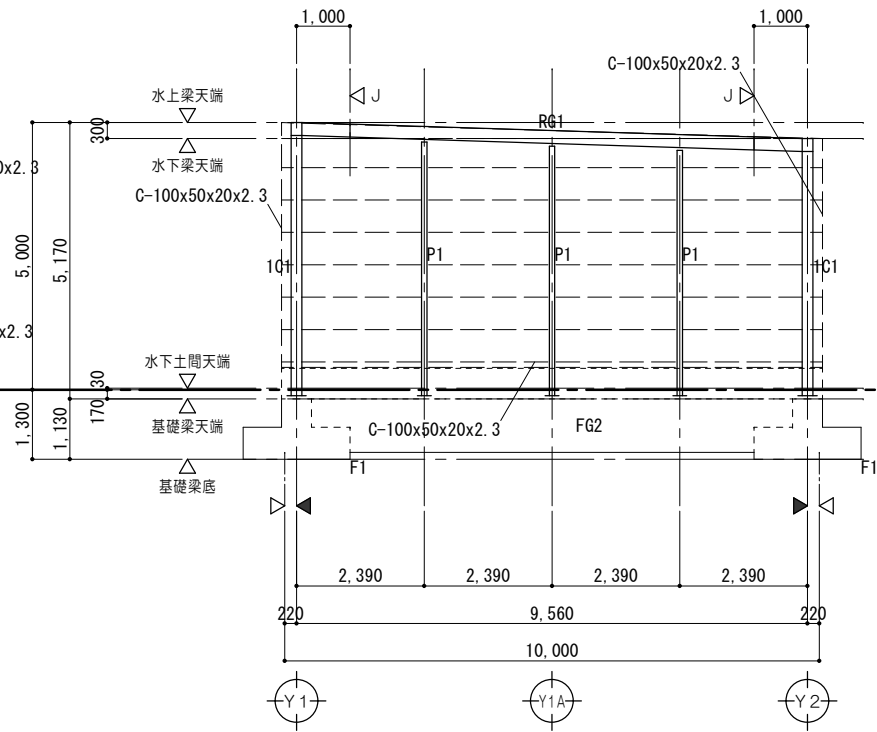
凡 例	
	柱芯を示す
	壁芯を示す
	継手位置を示す 特記なき限り柱芯より1000mmとする
— — —	水平ブレースを示す
XXX (000)	一般梁天端からの高さを示す 特記なき場合、一般梁天端+0とする

柱 リ ス ト 1/50

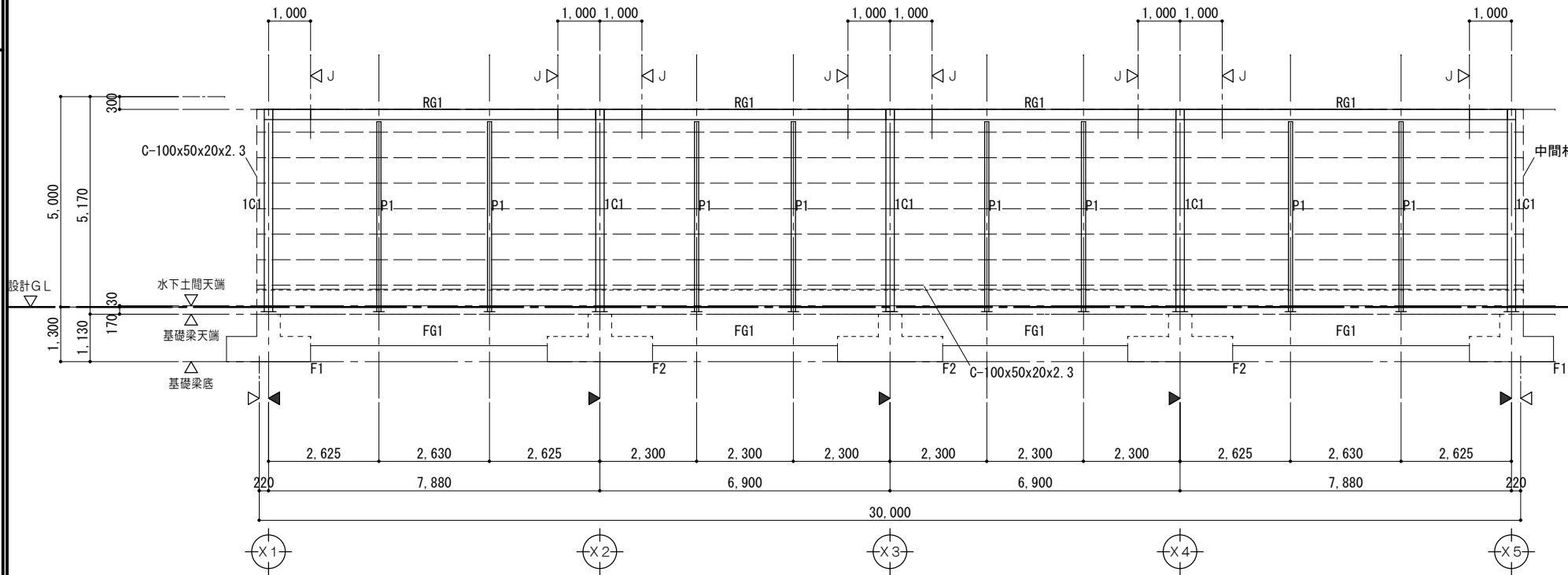
符 号	1C1
断 面	
部 材	□-200x200x9
細長比 (最大値)	$\lambda x=75.8$ $\lambda y=77.5$
備 考	
柱 脚	 <p>B.R.下端 基礎天端 基礎下端</p> <p>1,300</p> <p>28</p> <p>3</p> <p>95</p>
ベースプレート	R-360x360x28
アンカーボルト	4-M30
備 考	ベースパック 20-O9V



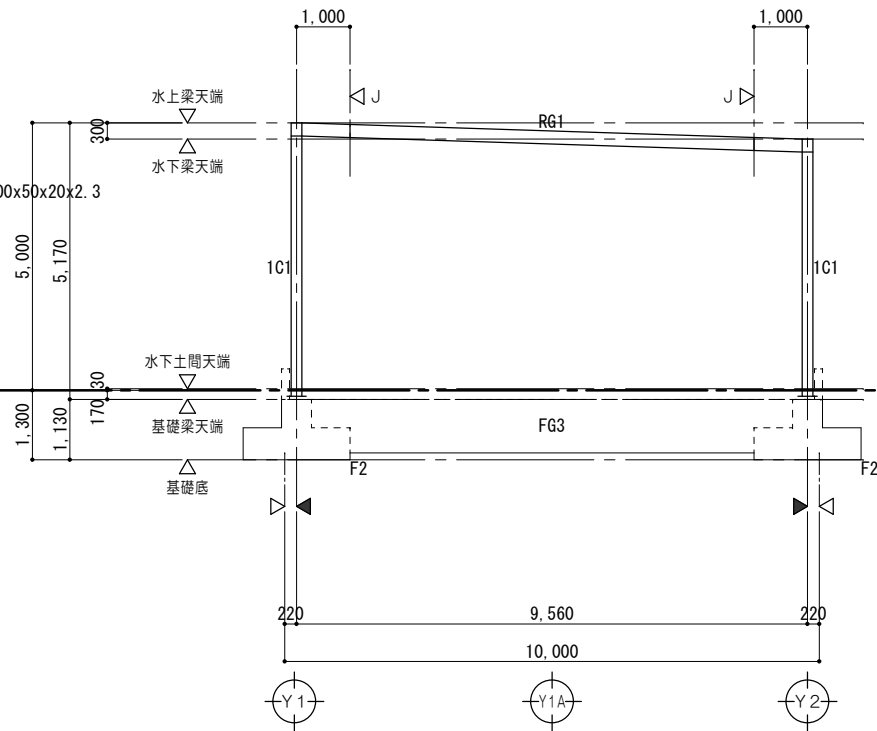
Y 1 通軸組図 1/100



X 1・X 5 通軸組図 1/100



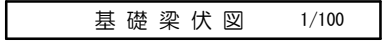
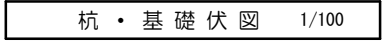
Y 2 通軸組図 1/100







X 2～X 4 通軸組図 1/100

凡 例	
▶	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
J▷	継手位置を示す
---	胴縁、開口補強を示す

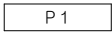
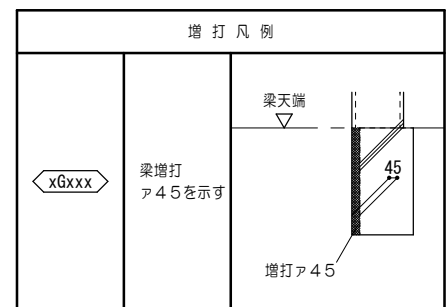




符 号	FG 1
B × D	300 × 600
位 置	全 断 面
 設計GL	
断 面 図	
主 筋	上 端 筋
	下 端 筋
S T P	□-D10@200
腹 筋	2-D10
巾止×筋	D10@1000

符 号	FB 1
B × D	300 × 600
位 置	全 断 面
 断 面 図	
主 筋	上 端 筋 3-D16
	下 端 筋 3-D16
S T P	□-D10@200
腹 筋	2-D10
巾止×筋	D10@1000

杭符号	杭サイズ	L	主筋径	主筋本数	主筋材種
	外径				
P1	400	40d	D16	8	KSW490
P2	400	40d	D16	8	KSW490

[illegible]

Technical drawing of a reinforced concrete column and foundation.

**Column Details:**

- Plan View: Circular cross-section labeled "F 1". Reinforcement layout shows a square grid with dimensions 640, 320, and 320.
- Side View: Column diameter is 400. Reinforcement includes 2-D10 bars. The column is shown above the foundation.

**Foundation Details:**

- Plan View: Rectangular slab with overall dimensions 1,300 by 1,300. Reinforcement layout shows a grid with dimensions 330, 320, 320, and 330.
- Side View: Foundation slab with a thickness of 200. The column is shown resting on the foundation.

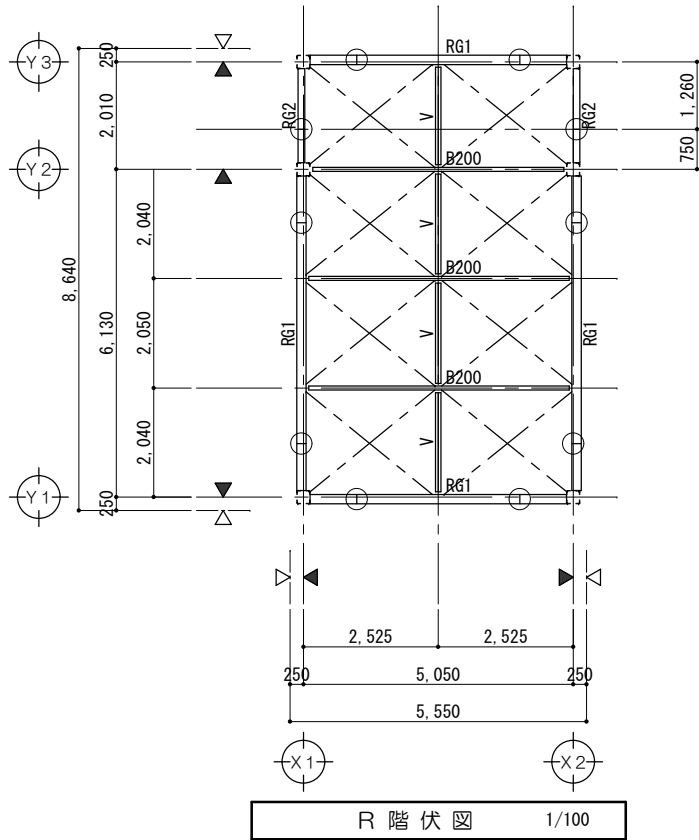
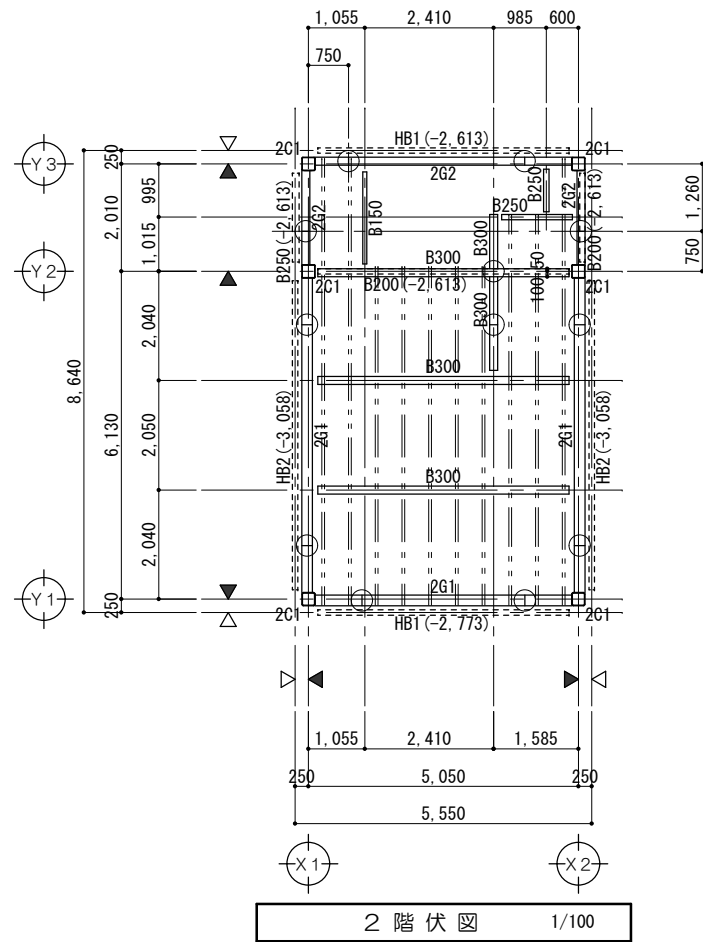
**Reinforcement Schedule:**

基礎柱	
主筋	12-D19
HOOP筋	□-D13@100

**Other Labels:**

- 設計GL (Design Ground Level)
- 基礎天端 (Foundation Top)
- 杭天端 (Pile Top)
- 基礎底 (Foundation Bottom)
- P1:  $\phi 400$
- ハカマ筋: 5-D10 (Hakama Bar: 5-D10)
- ベース筋: 8-D13 (Base Bar: 8-D13)

[illegible]



凡 例	
▶	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
○	継手位置を示す 特記なき限り柱芯より1000mmとする
⊕	小梁基礎剛接合を示す
---	水平ブレースを示す
■	合成スラブ デッキ：QL-99-50-12 同等品 コンクリート：80 Fc24 溶接金網 φ6-150×150 焼抜き柱溶接 @600 ※ 原則として連続梁とする
XXX (000)	一般梁天端からの高さを示す 特記なき場合、一般梁天端+0とする

大 梁 リ ス ト		使用材料		H形鋼：SN400B		
符 号	部 材	継手・端部接合部				備 考
		ℓ (厚×幅、高さ×長さ)	HTB	TYPE	Pc	
RG1	H-194x150x6x9	F	2ℓ- 9x150x290 4ℓ- 9x 60x290	16-M16 L=55	C	60
		W	2ℓ- 6x140x230	4-M16 L=50		
RG2	H-200x100x5. 5x8	F	2ℓ-16x100x290	16-M16 L=55	C	60
		W	2ℓ- 6x140x170	4-M16 L=50		
2G1	H-294x200x8x12	F	2ℓ- 9x200x410 4ℓ- 9x 80x410	24-M20 L=65	C	60
		W	2ℓ- 9x200x170	6-M20 L=65		
2G2	H-300x150x6. 5x9	F	2ℓ- 9x150x290 4ℓ- 9x 60x290	16-M20 L=65	C	60
		W	2ℓ- 9x200x170	4-M20 L=60		

小 梁 ・ 雑 部 材 リ ス ト		使用材料	H形鋼：SS400、軽量形鋼：SSC400 角型鋼管：STKR400				
符 号	部 材	継手・端部接合部				備 考	
		ℓ (厚×幅、高さ×長さ)	HTB	TYPE	Pc		
B300	H-300x150x6. 5x 9	GR-9		3-M16 L=50	J	60	片持ち梁基端  片持ち梁中間継手
		基端溶接					
		F	2ℓ- 9x150x290 4ℓ- 9x 60x290	16-M20 L=65	C	60	
		W	2ℓ- 9x200x170	4-M20 L=60			
B250	H-250x125x6 x 9	GR-6		2-M16 L=45	J	90	
B200	H-200x100x5. 5x 8	GR-6		2-M20 L=45	J	60	
B150	H-150x 75x5 x 7	GR-6		2-M16 L=45	J	60	
V	2C-100x50x20x3. 2	GR-9		2-M16 L=50	J	90	部材芯=大梁芯
HB1	□-200x100x6	GR-9		2-M20 L=50	M	60	鉛直方向強軸
弱縁	C-100x50x20x2. 3	GR-4. 5		2-M12 L=35	J	50	@606 接合部：中ボルト
ヨコ開口補強1	□-150x100x4. 5	GR-6		2-M12 L=140	J	50	鉛直方向強軸 接合部：中ボルト
ヨコ開口補強2	C-100x50x20x2. 3	GR-4. 5		2-M12 L=35	K	50	接合部：中ボルト
タテ開口補強1	□-100x100x2. 3	GR-6		2-M12 L=140	J	50	鉛直方向強軸 接合部：中ボルト
タテ開口補強2	C-100x50x20x2. 3	GR-6		2-M12 L=35	K	50	接合部：中ボルト
ササラ桁	ℓ-300×16	GR-9		2-M20 L=55		90	
段床	ℓ-6	基端溶接					
水平ブレース	1-M16	GR-9		2-M16 L=40	K	60	J I S規格品

柱 リ ス ト		1/50
角型鋼管：BCR295		
符 号	2C1	
断 面		
部 材	□-250x250x9	
細 長 比 (最大値)	λ x=93. 8 λ y=66. 0	
備 考		
符 号	1C1	
断 面		
部 材	□-250x250x12	
細 長 比 (最大値)	λ x=107. 9 λ y= 85. 9	
備 考		
ベースプレート	ℓ-450x450x32	
アンカーボルト	8-M33	
備 考	ベースバック 25-16V 特C	

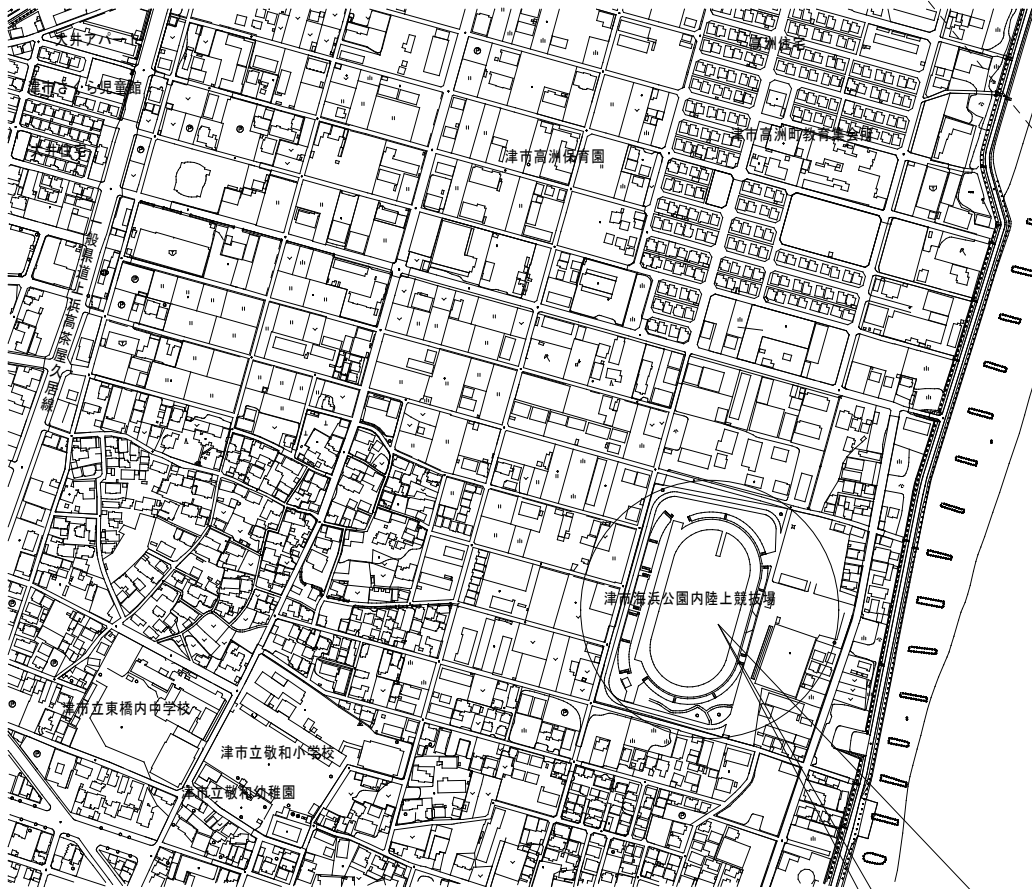




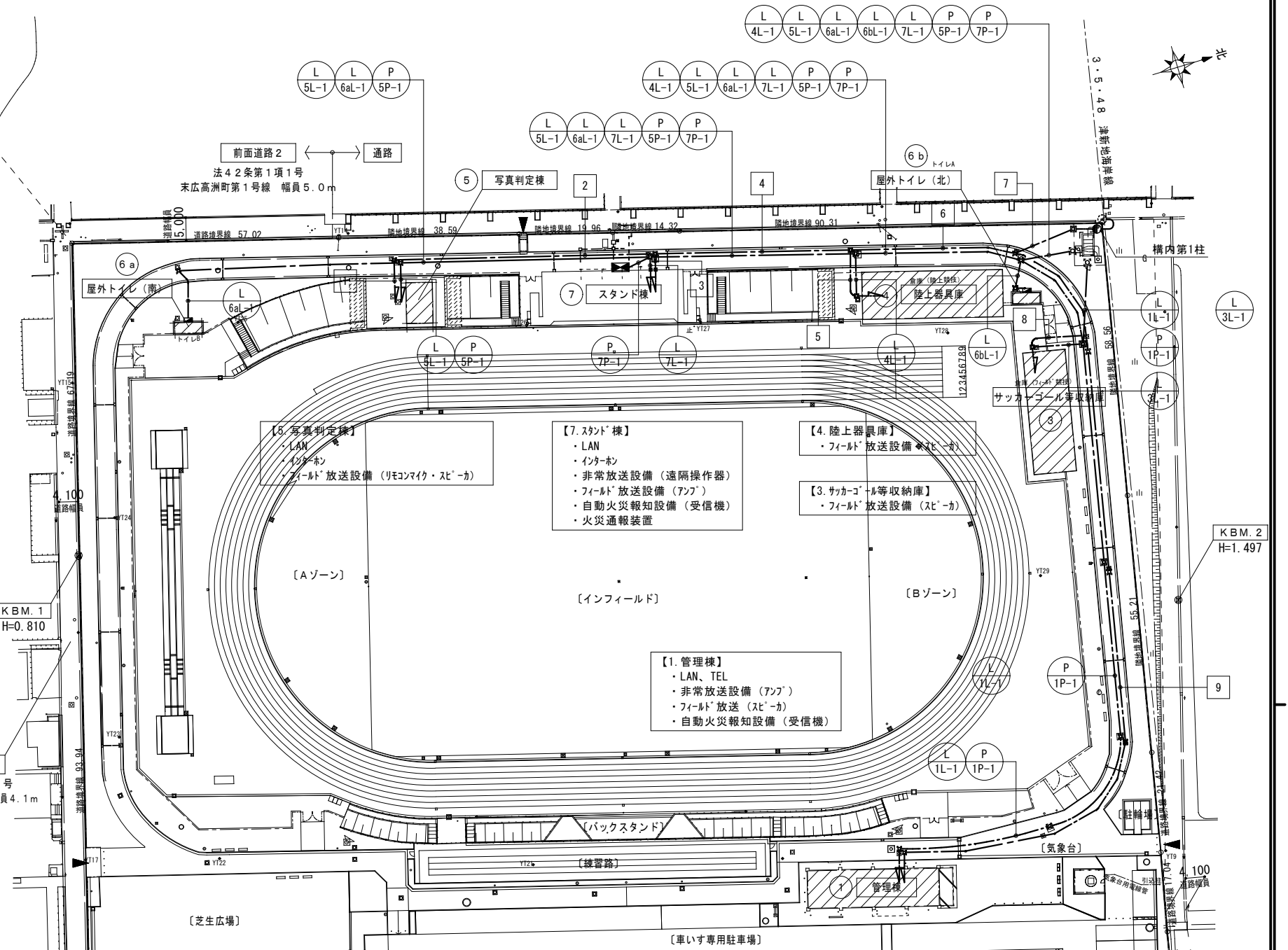
電気設備工事特記仕様書									
Ⅰ. 工事概要									
1. 工事名称		海浜公園内陸上競技場改修工事							
2. 工事場所		津市 末広町 地内							
3. 建物概要		1.管理棟 RC造 2階建 延べ面積 448.00㎡ 用途区分(Ⅰ)項							
		3.サカゴ-Ⅱ等収納庫 S造 平屋建 延べ面積 234.00㎡ 用途区分(Ⅳ)項							
		4.陸上器具庫 S造 平屋階建 延べ面積 300.00㎡ 用途区分(Ⅳ)項							
		5.写真判定棟 S造 2階建 延べ面積 95.90㎡ 用途区分(Ⅴ)項							
		6a・6b.屋外トイレ RC造 平屋建 延べ面積 12.67㎡ 用途区分(※)項							
		7.スタンド 棟 RC造 2階建 延べ面積 568.26㎡ 用途区分(Ⅰ)項							
		用途区分は消防法施行令別表第一による表記							
Ⅳ. 工事項目									
下記において●印を付した工事を対象とする。									
●電力設備 ●受変電設備 ●電力貯蔵設備 ●発電設備									
●通信・情報設備 ●中央監視制御設備 ●医療関係設備									
●構内配電線路 ●構内通信線路 ●その他									
Ⅱ. 共通仕様									
図面及び特記仕様書に記載されていない事項については下記による。									
・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修									
「公共建築工事標準仕様書」(建築工事編・電気(機械)設備工事編 各令和4年版)									
「公共建築改修工事標準仕様書」(建築工事編・電気(機械)設備工事編 各令和4年版)									
「公共建築設備工事標準図」(電気設備工事編・機械設備工事編 各令和4年版)									
・電気設備に関する技術基準を定める省令(電気設備技術基準)									
・電気工事業の業務の適正化に関する法律									
・電気工事法									
・労働安全衛生法									
・消防関連法規(条例・所轄署指導要領を含む。)									
・電力会社供給約款									
・その他関連法令、関連諸基準									
Ⅲ. 一般共通事項									
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。									
1. 一般事項									
(1)工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各施工基準に準拠し監督員指示の下に入念かつ誠実に施工すること。									
(2)設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書のとおりに施工することで将来不具合が発生しうると予想される場合については、その都度、監督員と協議すること。									
なお、設計図書のとりの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は、協議のうえ改善策を講じること。									
(3)他工事との取合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。調整不足による意匠的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は、監督員の指示により手直し施工を行うこと。									
2. 足場									
設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン(厚生労働省平成21年4月)」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法」による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置き型方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。									
内部足場の種別(参考) ●脚立 ●棚足場 ●その他( )									
外部足場の種別(参考) ●手摺先行据置枠組本足場 ●移動足場 ●高所作業車 ●その他( )									
外部足場設置範囲(参考) ●外部改修部 ●設備改修部 ●昇降用 ●転落防止用防護シート等による養生 ●適用する ●適用しない									
・足場の組立て後、足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行い記録を保存すること。									
つり足場、張出し足場又は高さが10m以上の足場で、組立から解体までの期間が60日以上のものについては、組立て後市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。									
なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。									
1) 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者									
2) 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント(区分が土木又は建築である者)や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者									
3) 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1)又は2)に掲げる者と同等の知識・経験を有する者									
3. 三重県産業廃棄物税									
本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には、完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に、別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して、当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。									
なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表(マニフェストの数量の集計)を超えて請求することはできない。									
4. 電気工作物の種類									
●一般電気工作物 ●自家用電気工作物									
5. 電気工事士									
電気工事士の区分により施工するものとし、契約電力が500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工するものとする。									
6. 電気工事業の業務の適正化に関する法律									
電気工事の施工場所ごとに、その見やすい場所に、氏名又は名称、登録番号その他の経済産業省令で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。									
7. 電気保安技術者									
電気工作物に係る工事は電気保安技術者を配置し、工事期間中の電気工作物の保安業務を行う。									
また、電気主任技術者が選任されている施設においては、電気主任技術者に工事内容の説明を行い、工事の調整にあたる指導を受けるものとする。									
なお、電気主任技術者の立会費用は、下記のとおりとする。									
・受注者負担 ●不要 ●その他( )									
8. 品質管理									
工事施工に関して、着手前・施工中・施工後の自主検査を実施すること。									
チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。									
9. 出来形管理									
以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。									
① 各種盤据付耐震強度(設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ)基礎寸法水平垂直									
② 配管・配線工事支持間隔									
③ スイッチ類の取付高さ									
10. 測定機器の校正等									
試験に使用する計測器類は2年以内の校正証明書(写)又は有効期限内の精度保証書(写)等を提出する。									
また、照度計、騒音計、振動レベル計等の特定計量器を用いて計測する場合は、計量法に基づく検定に合格し、かつ検定有効期限内のものを使用する。									
11. 施工計画等									
受注者は施工に先立ち、次の書類を提出し監督員と打合せを行う。									
なお、書類の作成においては、関連する関係者と十分に調整すること。									
① 総合施工計画書									
包含工事の場合は、電気設備工事施工計画書とする。									
② 工種別施工計画書(施工要領書)									
各種工種ごとに作成し、停電及び搬入計画書も作成する。									
③ 施工図(プロット図、平面図、展開図、各種詳細図)									
主要機器、重量機器、3kg超過吊器具類等については、固定方法、吊り方法等の詳細図を作成し、十分な耐震性能を確保する施工方法を提案すること。									
④ 耐震計算書									
⑤ 照度分布図									
12. 機材等									
工事に使用する材料及び機器等については、次の書類を提出する。									
① 使用機材届出書									
② 機器明細図									
使用機材届出書に記載のものその他、監督員の指示による。									
③ 各種計算書									
設計図書による他、監督員の指示による。									
13. 完成図書									
( ) ●完成図 ●保全に関する資料 ●( )									
作成する( ) ●完成図 ●保全に関する資料 ●( )									
完成図作図範囲(設計図を訂正)									
完成図はC A Dにより作成することとし、著作権(著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む)にかかる使用権は発注者に移譲する。また、製本2部(原図サイズ)により提出すること。									
14. 工事写真									
営繕工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(最新版))に従い、撮影すること。									
なお、デジタル工事写真の小黑板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黑板情報電子化について(令和5年3月1日付け国営建技第14号)」による。									
15. 施工条件									
監督員及び関係部局と協議調整し決定すること。									
(1)施工可能日									
●指定なし									
●一部指定あり(振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等)									
●指定あり									
指定日(●施設休業日 ●打ち合わせ ●その他( ))									
(2)施工可能時間帯									
●指定なし									
●一部指定あり(振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等)									
●指定あり									
指定時間(●( )時～( )時 ●打ち合わせ ●その他( ))									
(3)その他( )									
16. 事故の発生時									
工事施工中に事故が発生した場合には直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出しなければならない。									
なお、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取調査、検証等に協力すること。									
17. 建築副産物情報交換システムの利用									
受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」(建設資材の搬入がある場合)及び「再生資源利用促進計画書」(建設副産物の搬出がある場合)を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。									
また、工事完了後には「再生資源利用実施書」(建設資材の搬入があった場合)及び「再生資源利用促進実施書」(建設副産物の搬出があった場合)をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。									
なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICが運営する「建設副産物情報交換システム」に登録のうえ、行うこと。									
18. 発生材の処理等									
・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事である。									
分別解体等及び特定建設資材の再資源等の実施について適正な措置を講ずることとする。工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものとする。									
分別解体等の方法									
工種 ●新築 ●増築 ●修繕 ●模様替 ●解体 ●その他( )									
分別解体の方法 ●手作業 ●手作業、機械作業併用									
(1)引き渡しを要するものは下記のとおりとし、それ以外は別途監督員の指示による。									
( )									
(2)特別管理産業廃棄物									
●変圧器 ●コンデンサ ●その他( )									
現場内の監督員の指定する場所へ保管するものとする。									
なお、施工に際してP C B等特別管理産業廃棄物及び疑わしき機器等を発見した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。									
(3)現場内において再利用を図るもの									
●発生土 ●その他( )									
(4)再資源化を図るもの									
●コンクリート塊 ●アスファルトコンクリート塊 ●建設発生木材 ●( )									
(5)水銀使用製品産業廃棄物として取り扱うもの									
●蛍光灯 ●H Iドランプ(高輝度放電ランプ) ●その他( )									
「水銀廃棄物ガイドライン 第3版」(令和3年3月 環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物規制課)に基づき適切に処理すること。									
(6)引き渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、再生資源の利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令に従い適正に処理し、監督員に報告すること。									
(マニフェストA、B2、D票を提示すること。)									
19. 官公署への手続き									
工事の着手、着工、完成にあたり、関係官公署への必要な届出、手続き等を遅滞なく行う。									
なお、当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。									
●消防設備関係 ●電気工作物関係 ●受電関係 ●通信関係 ●建設工事関係 ●その他( )									
20. 消防法関係の手続き									
(1)消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成									
●本工事(●建築工事 ●電気設備工事 ●機械設備工事) ●別途工事									
(2)防火対象物使用開始届出書									
書類の作成(電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入)を行うこと。									
21. 工事用仮設物									
構内への設置 ●できる(施設管理者と協議) ●できない									
22. 工事用電力									
構内既存の施設									
●利用できる(●有償 ●無償) ●利用できない									
本工事で新規受電した時からの電力料金は本工事に含まれる。また、本受電後、引渡しまでの電気主任技術者の選任及びこれに伴う費用負担も本工事に含まれる。									
23. 工事用水									
構内既存の施設									
●利用できる(●有償 ●無償) ●利用できない									
24. 工事中等の保安監理									
電気工作物の範囲が変更になった場合、工事着手から引渡しまでの電気保安管理等にかかる費用は本工事に含まれる。									
25. 搬入計画									
大型機器、重量物等の搬入前に、搬入経路の有効寸法(扉、天井高さ、搬入経路上の曲がり等)、障害物(足場等)、養生方法、運送車両、揚重機械、搬入機械の種類、台数及び数量、雨天の場合の処置、受入検査の方法等を記載し監督員に提出する。									
26. 製品確認									
発注者及び受注者の協議により仕様を決定し、製作するような規格品でない製品並びに監督員が指定する製品については、試験及び検査等を行う機器が整備された施設内において、監督員等が製品の確認をするものとする。									
27. 機材等の検査及び試験									
検査及び試験を行うべき機材等は、設計図書によるほか、監督員の指示による。									
28. 完成確認及び完成検査時等の電源確保									
機器の動作確認、電圧、極性、相回転等確認できるように電源を確保すること。									
29. 完成時の操作説明									
総合盤等操作に必要な機器については、使用開始前に操作説明を行うものとする。また、必要に応じて操作説明書、操作注意事項書を作成し、機側に備えるものとする。									
30. 不正軽油の使用の禁止									
(1)工事現場で使用し、又は使用させる車両(資機材の搬出入車両を含む。)並びに建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。									
(2)受注者は、県が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等と同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。									
(3)受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じよう管理及び監督しなければならない。									
Ⅳ. 施工仕様									
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。									
1. 既設設備等の調査									
既設設備等の改修を含む場合、他の設備、施設運営に影響をきたさないよう、現地工事着工前に十分な調査を行うこと。									
(1)地中埋設管路									
1)項目 ●埋設配管 ●構造物 ●その他( )									
2)調査範囲 ●埋設ルート ●その他( )									
(2)貫通及びはつり									
1)項目 ●鉄筋 ●配管 ●その他( )									
2)調査範囲 ●施工部分 ●その他( )									
(3)既設との取合い									
1)項目 ●接続箇所 ●増設箇所 ●その他( )									
2)調査範囲 ●施工部分 ●その他( )									
2. 施工前の測定等									
改修工事にあたっては、工事範囲の既設機器の動作確認及び絶縁測定等を着工前に行い、監督員に報告すること。									
3. 耐震基準									
耐震措置の計算及び施工方法は、次の基準を適用する。									
(1)「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準 平成25年版」(国土交通省大臣官房官庁営繕部)									
(2)「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」									
4. 耐震施工									
(1)想定される地震に施工する設備を対応させる。									
(2)耐震計算書を監督員に提出する。									
5. はつり									
(1)穴開け及び補修 ●なし ●あり(貫通場所及び口径は別図による)									
(2)溝はつり及び補修 ●なし ●あり(はつり深さは別図による)									
6. あと施工アンカー									
性能確認試験及び施工確認試験 ●行う ●行わない									
7. 基礎の配線ビット									
基礎に配線ビットを設ける場合、ビットの寸法は敷設するケーブルの曲げ半径、条数、将来増設時の作業性、事故時の対応、排水等に配慮する。									
8. 配管・配線の耐震処置									
建物引込部の配管の耐震処置 ●行う ●行わない									
建物のエキスパンションジョイント部の配線の耐震処置 ●行う ●行わない									
9. 最上階の埋込配管									
最上階のコンクリート屋根スラブへの埋込配管は、原則として行わない。									
10. 露出配管									
(1)雨線外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。									
(2)附属品は、ねじ込み形を使用する。									
(3)壁面配管で人が容易に触れるおそれのある部分(2m以下)の配管には、突起のない支持物又は保護カバーを使用する。									
(4)通路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則2.1m以上とする。									
(5)監督員の指示がある場合は、上記に係わらずその指示に従う。									
11. 合成樹脂管									
(1)合成樹脂管の管端には、プッシングを取り付ける。									
(2)原則として屋外の露出には使用しない。(P F管)									
12. 予備配管等									
埋込型分電盤からの立上り予備配管は、予備回路が4回路以下は(P F22)を1本、5回路以上は(P F22)を2本施工する。スラブ天井の場合は、天井又は梁下200mmまで立上げ、位置ボックスを取付ける。また、二重天井の場合は、天井まで立上げ、位置ボックスを取付ける。									
13. 金属製電線管等の塗装									
(1)露出配管、露出ボックス、鋼製プルボックス等のうち下記の部分には、塗装を施す。									
1)屋外、屋内(電気室、機械室、E P S、居室、廊下)、その他建築意匠上必要な箇所。									
2)図面に特記なき場合は、溶融亜鉛メッキ鋼材製のポール及びアームは塗装しなくてもよい。ただし、図面に指示がある場合はその指示による。									
3)湿気、水気のある場所及びコンクリート埋込みの金属製位置ボックスの内面には絶縁性防錆塗料を十分に塗布すること。(監督員が指示した場所は除く。)									
4)仮枠貫通部の金属配管には錆止め塗装を施すこと。									
(2)塗装はエッチングプライマー1種の下地処理のうえ、監督員の指定する色にて調合ペイント2回塗りとする。ただし、指定場所及びその他建築意匠上、必要な箇所の露出プルボックスは指定色焼付塗装とする。									
14. 導入線									
通線を行わない配管及び配線引抜き後に空となった配管には、導入線(φ1.2mm以上の樹脂被覆鉄線等)を挿入する。ただし、長さ1m以下の部分は省略することができる。									
15. 予備スリーブ									
梁下に配管・配線スペースがない梁には、1スパンに2本程度を予備スリーブとして埋込む。									
なお、防火区画貫通スリーブは、防火区画処理を行うこと。									
16. ボックス類									
位置ボックス及びジョイントボックス類は、特記なき場合、原則として金属製とする。									
17. 軽量間仕切のボックス									
軽量間仕切に位置ボックスを固定する場合は、ボルト等により堅固に固定する。									
18. プルボックス									
(1)屋外形、特殊な形状又は一辺が800mm以上のものは、製作図を提出すること。									
(2)屋外形プルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコーキングを行う。									







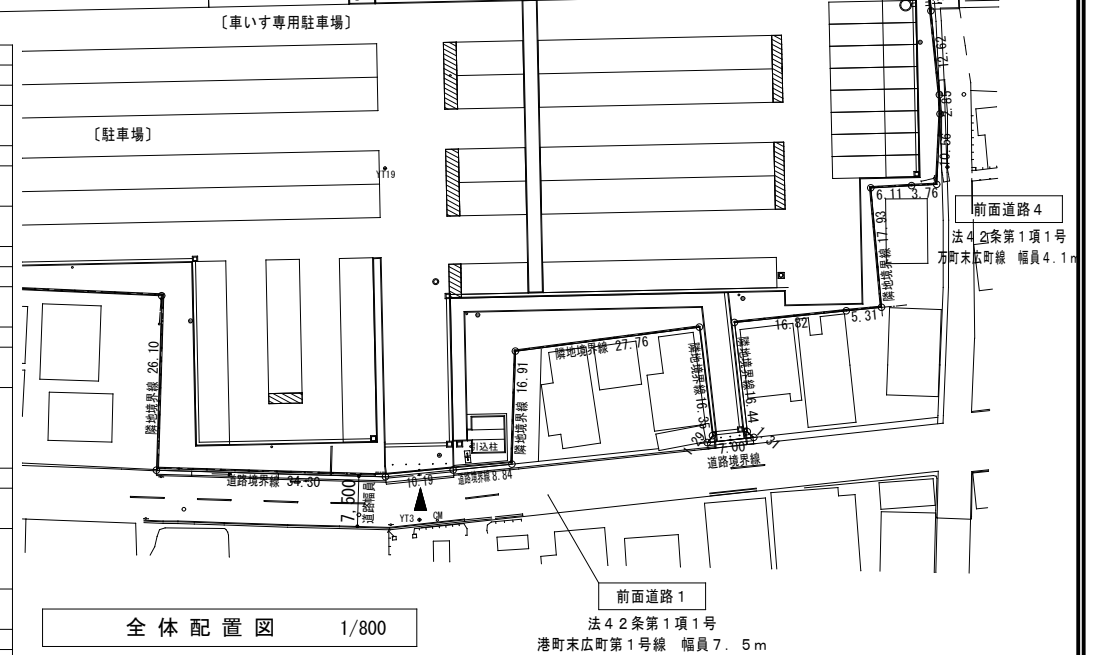
付近見取図 1/5000



各 棟 面 積 表							
	番号	棟名	建築面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	構造	床面積 (㎡)	
						1階	2階
申請建物（新築）	①	管理棟	286.82	448.00	RC造	224.00	224.00
	③	サッカーゴール等収納庫	234.00	234.00	S造	234.00	—
	④	陸上器具庫	300.00	300.00	S造	300.00	—
	⑤	写真判定棟	47.95	95.90	S造	47.95	47.95
	⑥a	屋外トイレ（南）	12.67	12.67	RC造	12.67	—
	⑥b	屋外トイレ（北）	12.67	12.67	RC造	12.67	—
小 計			894.11	1,103.24		831.29	271.95
改修	⑦	スタンド棟	340.67	568.26	RC造	253.85	314.41
小 計			340.67	568.26		253.85	314.41
合 計			1,234.78	1,671.50		1,085.14	586.36

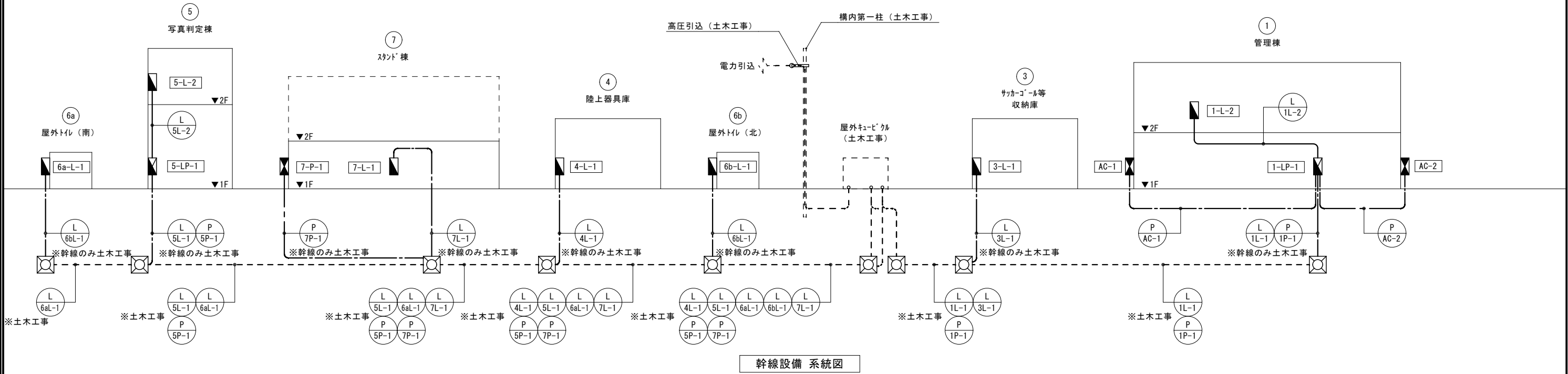
弱電設備 配管配線一覧

番号	配線	配管	設備名称	番号	配線	配管	設備名称
1	EM-UTP-CAT6	FEP50	LAN (フィールド'設備用)	4	空配管	FEP30	LAN
	空配管	FEP65			空配管	FEP30	TEL (火災通報装置)
	EM-AE0.9-2C	FEP30	インターホン		EM-HP1.2-2C	FEP30	非常業務放送
2	EM-AE1.2-5P	FEP40	フィールド'放送設備	5	EM-HP1.2-10P	FEP30	非常業務放送
	EM-UTP-CAT6(シールド'付)	FEP50			EM-AE1.2-5P×3	FEP40	フィールド'放送設備
	空配管	FEP65			EM-HP1.2-5P	FEP30	自動火災報知設備
3	EM-UTP-CAT6	FEP50	LAN (フィールド'設備用)	6	EM-HP1.2-10P	FEP30	自動火災報知設備
	空配管	FEP65			空配管	FEP30	LAN
	EM-AE0.9-2C	FEP30	インターホン		空配管	FEP30	TEL (火災通報装置)
7	EM-UTP-CAT6	FEP50	LAN (フィールド'設備用)	8	EM-AE1.2-5P	FEP30	フィールド'放送設備
	空配管	FEP65			空配管	FEP30	LAN
	EM-AE1.2-5P	FEP40	フィールド'放送設備		空配管	FEP30	TEL (火災通報装置)
8	EM-UTP-CAT6	FEP50	LAN (フィールド'設備用)	9	EM-HP1.2-2C	FEP30	非常業務放送
	空配管	FEP65			EM-HP1.2-10P	FEP30	非常業務放送
	EM-AE1.2-5P	FEP40	フィールド'放送設備		EM-AE1.2-5P	FEP30	フィールド'放送設備
9	EM-UTP-CAT6	FEP50	LAN (フィールド'設備用)		空配管	FEP30	自動火災報知設備
	空配管	FEP65			空配管	FEP30	LAN, TEL
	EM-AE1.2-5P	FEP40	フィールド'放送設備		空配管	FEP30	TEL (火災通報装置)



全体配置図 1/800

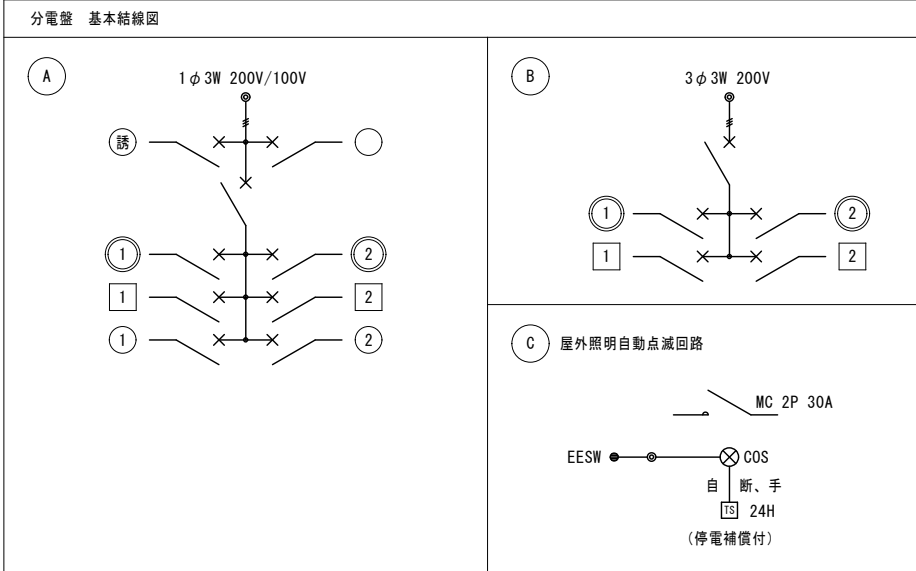
特記事項	意見を聞いた建築設備士：エーエフ環境技術オフィス 水谷浩（建築設備士 第28D1-0077MT号）	<div><div><div>一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号</div><div><div><div>MAENO</div><div>株式会社</div></div><div>前野建築設計</div></div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div></div>	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早妃	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	法適合確認	作図 水間	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事	設計日
									縮尺 A2:1/600 A3:1/845	図面番号 E004 (原図:A2)	



幹線設備 系統図

幹線リスト ※キュービクル～各建物の分電盤のケーブルは全て土木工事、建物第一ハントホール～分電盤の配管は工事対象

幹線記号	行先	ケーブルサイズ	経路				備考	幹線記号	行先	ケーブルサイズ	経路				備考
			屋外	屋内	ラック	天井内					屋外	屋内	ラック	天井内	
$\frac{L}{1L-1}$	屋外キュービクル～1-LP-1	EM-CET200	FEP100					$\frac{P}{1P-1}$	屋外キュービクル～1-LP-1	EM-CET200	FEP100				
$\frac{L}{1L-2}$	1-LP-1～1-L-2	EM-CET22. E5. 5×2				○		$\frac{P}{5P-1}$	屋外キュービクル～5-LP-1	EM-CET14	FEP40 E51				
								$\frac{P}{7P-1}$	屋外キュービクル～7-P-1	EM-CET100	FEP80 HI82				
$\frac{L}{3L-1}$	屋外キュービクル～3-L-1	EM-CE5. 5-3C	FEP30	E31											
$\frac{L}{4L-1}$	屋外キュービクル～4-L-1	EM-CE8-3C	FEP30	E31				$\frac{P}{AC-1}$	1-LP-1～AC-1	EM-CET100 E14×2	FEP80 HI82				
$\frac{L}{5L-1}$	屋外キュービクル～5-LP-1	EM-CET38	FEP50	E63				$\frac{P}{AC-2}$	1-LP-1～AC-2	EM-CET60 E8×2	FEP65 HI170				
$\frac{L}{5L-2}$	5-LP-1～5-L-2	EM-CE8-3C. E5. 5×2		E39		○									
$\frac{L}{6aL-1}$	屋外キュービクル～6a-L-1	EM-CET14	FEP40 HI42												
$\frac{L}{6bL-1}$	屋外キュービクル～6b-L-1	EM-CE5. 5-3C	FEP30 HI28												
$\frac{L}{7L-1}$	屋外キュービクル～7-L-1	EM-CET100	FEP80 HI82												



- 【特記事項】
1. 盤塗装は、標準色仕上げとする。

2. 扉面のハンドルは、キー付きとする。

3. 同一盤内に異種電源がある場合は、セパレーターを設ける。

4. 盤内機器・遮断器・電磁接触器等には、回路番号と負荷名称を記入する。

5. 中蓋の取付ビスは、脱落防止付きとする。

6. 誘導灯・非常照明専用回路のブレーカーには、赤色ハンドルロックを取り付ける。

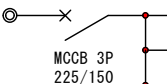
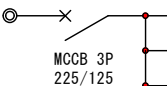
【回路記号】

<div>No.</div>	電灯回路	100V	<div>No.</div>	空調関係回路	100V
<div>No.</div>	電灯回路	200V	<div>No.</div>	空調関係回路	200V
<div>No.</div>	コンセント回路	100V			
<div>No.</div>	コンセント回路	200V			

盤名称・電気方式 主開閉器	回路	電圧 (V)		開閉器						リモコン リレー	容量 (VA)		備考
		100	200	MCCB	ELCB	1P	2P	AF/AT			照明	コンセント	
1-LP-1 1φ3W 105/210V	誘	○	○				○	50/20			20		誘導灯
	信	○	○				○	50/20			410		誘導灯信号装置
	AMP	○	○				○	50/20			90		非常放送アンプ
	T	○	○				○	50/20			150		1-T-1
	NC	○	○				○	50/20			10		トイレ呼出
	火	○	○				○	50/20			50		火報受信機
MCCB 3P 225/175A	1-L-2 送り 8.1 kVA												
	非	○	○				○	50/20			10		非常用照明
	L1	○	○				○	50/20	4R		534		風除室・エントランス照明
	L2	○	○				○	50/20			770		事務室他照明
	L3	○	○				○	50/20			401		トイレ照明
	L4	○		○			○	50/20			45		屋外階段
	T1	○			○		○	50/20			45		外壁照明 (タイマー)
	Re	○	○				○	50/20			40		リモコントランス
	D	○	○				○	50/20			10		トリアホン
	C1	○		○			○	50/20			1,300		電気ホット
	C2	○		○			○	50/20			1,300		電子レンジ
	C3	○		○			○	50/20			1,400		IH
	C4	○		○			○	50/20			1,100		電気温水器
	C5	○		○			○	50/20			840		冷蔵庫、製氷機、洗濯機
	C6	○	○				○	50/20			1,350		事務室他コンセント
	C7	○		○			○	50/20			1,500		複合機
	C8	○	○				○	50/20			900		エントランスホール他コンセント
	C9	○	○				○	50/20			500		自動ドア
	C10	○	○				○	50/20			1,000		自販機
	C11	○	○				○	50/20			1,000		自販機
	C12	○		○			○	50/20			1,000		EV コンセント
	C13	○		○			○	50/20			626		男子トイレ コンセント
	C14	○		○			○	50/20			1,300		多目的トイレ コンセント
	C15	○		○			○	50/20			1,000		多目的トイレ コンセント
	C16	○		○			○	50/20			920		女子トイレ コンセント
	C17	○		○			○	50/20			1,000		自販機
	C18	○		○			○	50/20			1,000		自販機
	C19	○	○				○	50/20			100		空調機集中リモコン
		○	○				○	50/20			100		タイタ-操作盤
		○	○				○	50/20			1,000		予備
		○	○				○	50/20			1,000		予備
計											1,825	21,996	
合計											23.8	kva	
特記事項	1. フル2線式リモコン方式												
	2. リモコンリレー×4台												
	3. リモコントランス×1台												
	4. T/Uユニット (4回路用) ×1台												
計											1,825	21,996	電灯
合計											23.8	kva	セパレーター
ED	ED (ELCB)												

盤名称・電気方式 主開閉器	回路	電圧 (V)	負荷名称	設置場所	負荷容量 (kW)	配線遮断器			二次側配線	動力
						MCCB	ELCB	AF/AT		
1-LP-1 3φ3W 210V										
MCCB 3P 225/200A	1	200	AC-1	外部西側	18.69	○		225/150		
	2	200	AC-2	外部西側	9.83	○		225/125		
	3	200	EV制御盤 EV		3.80		○	50/40		
合計					32.32	kW				

盤名称・電気方式 主開閉器	回路	電圧 (V)		開閉器						リモコン リレー	容量 (VA)		備考
		100	200	MCCB	ELCB	1P	2P	AF/AT			照明	コンセント	
1-L-2 1φ3W 105/210V	誘	○	○				○	50/20			40		誘導灯
	T	○	○				○	50/20				150	1-T-2
	非	○	○				○	50/20			10		非常用照明
	L1	○	○				○	50/20			564		ホ-ル他照明
	L2	○	○				○	50/20			833		会議室照明
	L3	○		○			○	50/20			36		屋上避難エリア照明
	L4	○	○				○	50/20			1,500		EV照明
MCCB 3P 100/75A	C1	○	○				○	50/20			1,050		ホ-ル他コンセント
	C2	○	○				○	50/20			900		大会議室コンセント
		○			○		○	50/20			1,000		予備
		○			○		○	50/20			1,000		予備
		○			○		○	50/20			1,000		予備
計											2,983	5,100	
合計											8.1	kva	
特記事項													

盤名称・電気方式 主開閉器	回路	電圧 (V)	負荷名称	設置場所	負荷容量 (kw)	配線遮断器			二次側配線		
						MCCB	ELCB	AF/AT			
<div>AC-1</div> <div>3φ3W 210V</div> <div></div> <div>MCCB 3P 225/150</div> <div>ED    ED (ELCB)</div>											
	1	200	PAC-4	外部西側	6.23		○	60/40	EM-CE8-4C(1C:E)	H136	
	2	200	PAC-4	外部西側	6.23		○	60/40	EM-CE8-4C(1C:E)	H136	
	3	200	PAC-4	外部西側	6.23		○	60/40	EM-CE8-4C(1C:E)	H136	
合計					18.69	kw					
<div>AC-2</div> <div>3φ3W 210V</div> <div></div> <div>MCCB 3P 225/125</div> <div>ED    ED (ELCB)</div>											
	1	200	PAC-1	外部西側	6.23		○	60/40	EM-CE8-4C(1C:E)	H136	
	2	200	PAC-2	外部西側	2.58		○	30/20	EM-CE3.5-4C(1C:E)	H128	
	3	200	PAC-3	外部西側	1.02		○	30/20	EM-CE3.5-4C(1C:E)	H128	
合計					9.83	kw					

1-T-1

※総合盤内組込

1-T-2

構内情報通信	構内交換設備	拡声	コンセント	構内情報通信	拡声	コンセント
情報機器スハ-ス	5P	20P	露出2P15A×2	情報機器スハ-ス	5P	露出2P15A×1

- 【分電盤仕様】
- ・1-LP-1：総合盤内組込

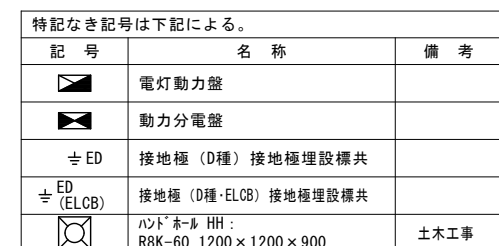
・1-L-2：屋内壁掛型 (上部・下部ﾀﾞｸﾄ付)

・AC-1：屋外壁掛型 (SUS製)

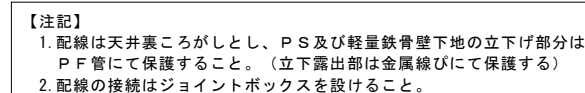
・AC-2：屋外壁掛型 (SUS製)

・1-T-1：総合盤内組込



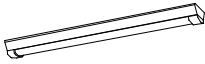
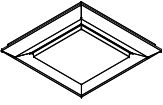
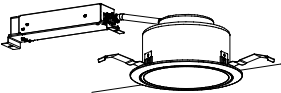
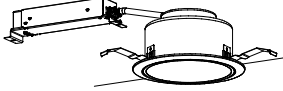


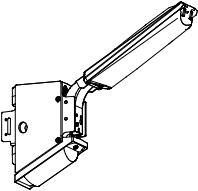
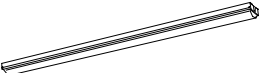

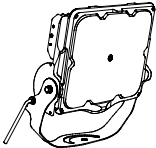
・1-T-2：屋内壁掛型 (上部・下部ﾀﾞｸﾄ付)



番号	名 称
①	非常業務放送アンプ
②	自動火災報知設備受信機
③	誘導灯信号装置
④	EVインターネット（EV工事）
⑤	ナイター点灯盤・警報盤（土木工事）
⑥	配線ダクト



器具参考姿図

A	LEDベースライト	B	LEDベースライト	C	LEDベースライト	D	LEDスクエアベースライト	E	LEDダウンライト
H f 3 2 形高出力型 2 灯器具相当		H f 3 2 形高出力型 1 灯器具相当		H f 3 2 形高出力型 1 灯器具相当		F H P 3 2 形 3 灯器具相当		F H T 3 2 形 1 灯器具相当	
									
6900lm 43.1W		3200lm 20.3W		3040lm 20.6W		6500lm 41.5W		1630lm 11.6W	
公共型番：LSS9-4-65 パナソニック 直付X F X 4 6 0 A E N L E 9		公共型番：LSS9-4-30 パナソニック 直付X F X 4 3 0 A E N L E 9		公共型番：LSS9MP/RP-4-30 パナソニック 直付X L W 4 3 3 A E N Z L E 9		公共型番：LSS15-4-58 パナソニック 直付X L X 1 6 0 N E N J L A 9 相当品		公共型番：LRS14-12-40K パナソニック ダウンライトX N D 1 5 6 7 W W L E 9	
F	LEDダウンライト	G	LEDミラーライト	H	LEDウォールライト	I	LED防犯灯／保安灯	J	LEDベースライト
F D L 2 7 形型 1 灯器具相当		F L 2 0 形 1 灯器具相当		H f 1 6 形高出力型 1 灯器具相当		停電対応蓄電池内蔵防犯灯 蛍光灯 F H P 3 2 形相当		H f 3 2 形高出力型 1 灯器具相当	
									
1005lm 7W		1320lm 11.7W		1480lm 14.9W		1040lm 9W		3200lm 20.3W	
公共型番：LRS14-08-40K パナソニック ダウンライトX N D 1 0 6 7 W W L E 9		標準タイプ、4000K、高演色Ra93、高演色タイプ、クラス2 器具光束1320lm、消費電力11.7W、電圧100V カバー：プラスチック（乳白） サイドカバー：プラスチック（ホワイトつや消し） 壁面（横向け）取付専用 幅620・高87・出しろ110		公共型番：LBF3MP/RP-2-13 パナソニック N N F W 2 1 8 1 0 C L E 9		避難エリア用：パナソニック DYDX3310（適合アンカーフレーム：DYDX2915）相当品		公共型番：LSS1-4-30 パナソニック 直付X F X 4 3 0 N E N L E 9	
K	LDL40W×2 業務用浴室灯	L	LED投光器						
H f 3 2 形高出力型 2 灯器具相当		水銀灯1000形器具相当							
									
電圧：100～242V、防湿型 壁面（横向きのみ）・天井面取付兼用 本体：ステンレス（ホワイト） グローブ：アクリル（乳白） 光束維持時間4000時間（光束維持率95%） 適合ランプ：直管LEDランプ、素材：ガラス		LED内蔵、電源ユニット内蔵、防雨型・重耐塩害仕様、狭角タイプ 光束33200lm、消費電力203W、電圧200～242V 昼白色、5000K、Ra70光束維持時間60000時間（光束維持率85%） 本体：アルミ（ブラウン）、前面パネル：ポリカーボネート（透明） アーム：鋼材（溶融亜鉛メッキ） 保護等級IP65、耐風速60m/s 落下防止ワイヤー付、耐雷サージ：15KV							
5320lm 62W		33200lm 200V 203W							
パナソニック N N F W 4 2 5 0 0 K L E 9 相当品 ランプ LDL40S・N/29/38-K 相当品		パナソニック N Y S 3 5 3 1 5 L E 2 相当品							